京都市内遺跡立会調査概報

平成７年度

京 都 市 文 化 市 民 局

序

山紫水明の恵まれたまち京都は，今，永い歴史の積み重ねを経て，平安京遷都1200年より21世紀に向かっての歴史の大きな節目の中にあります。

この文化豊かな京都のまちの埋蔵文化財は，先史時代より時代ごとに積み重ねられた複合した遺跡の中にあり，それらは当時の文化や生活様式を明らかにするもので，わが国の歴史や文化の発展を知ることが出来る貴重な国民共有の財産であると認識を致しております。

バブル経済の崩壊後，一旦，土木工事等の開発件数は減少したものの，近年また増加の傾向にあります。各種開発に伴う土木工事につきましては事前に発掘調査・立会調査・試掘調査などの調査を実施し，保存の措置が図れる場合は遺跡を保護し，そうでない場合は記録による保存を行っております。そしてこれらの調査で得られた貴重な歴史資料を後世に伝え，活用してゆく責務があると考えております。

本書は，京都市が文化庁の国庫補助を得て平成７年度に実施した埋蔵文化財調査の概要報告書であります。

発掘調査及び立会調査につきましては，財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託したものであり，試掘調査につきましては京都市埋蔵文化財調査センターが実施したものであります。

最後になりましたが，各調査にご理解とご協力をいただきました市民の皆様及びご指導とご助言をいただきました関係者の方々に心よりお礼を申し上げますと共に，本書が京都の歴史を知るための資料としてお役立ていただければ幸甚に存じます。

平成８年３月

京都市文化市民局

局　長　山　田　富　男

例　言

1　本書は京都市文化市民局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助事業による平成７年度の京都市内遺跡立会調査概要報告である。

2　本書の執筆は、文末に執筆者を記した。

3　整理作業および本書の作成には、執筆者の他に以下の者が参加した。
北川和子、近藤章子、端　美和子、宮下則子

4　写真撮影は、村井伸也、幸明綾子が担当し、遺跡の一部は調査担当者が行った。

5　遺物復原は、出水みゆき、角村幹雄、多田清治、田中利津子、中村享子、村上　勉が担当した。

6　本書で用いた土壌色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に準じた。

7　本書に使用した遺構の略記号は、奈良国立文化財研究所の用例に従った。

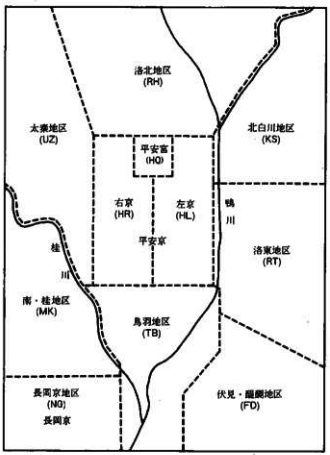
8　測量基準点は、京都市遺跡発掘調査基準点を使用し、調査における測量基準点の設置は、辻純一、宮原健吾が行った。本書中で使用した方位および座標の数値は、平面直角座標系Ⅵによる。また、標高はT. P.（東京湾平均海抜高度）による。

9　本書で使用した地図は京都市長の承認を得て同市発行の都市計画基本図（縮尺：１／2,500）を複製して調整したものである。

平安宮跡　図版１　8000分の１（聚楽廻、壬生）
平安京跡　図版２～13　8000分の１（船岡山、衣笠山、花園、聚楽廻、御所、山ノ内、壬生、三条大橋、西京極、島原、五条大橋、中河原、梅小路、京都駅）

平安宮豊楽院跡１・２	図１　5000分の１（聚楽廻）
平安宮内裏跡	図７　5000分の１（聚楽廻）
平安京左京三条四坊十三町	図10　5000分の１（三条大橋）
常盤東ノ町古墳群・仁和寺院家跡	図14　5000分の１（鳴滝）
小倉町別当町遺跡	図19　5000分の１（田中）
最勝寺跡・岡崎遺跡	図26　5000分の１（岡崎）
尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡	図30　5000分の１（岡崎）

地区設定図


洛北地区
(RH)
太秦地区
(UZ)
平安宮
(HQ)
北白川地区
(KS)
右京
(HR)
左京
(HL)
鴨
川
平安京
桂
川
洛東地区
(RT)
南・桂地区
(MK)
鳥羽地区
(TB)
長岡京地区
(NG)
長岡京
伏見・醍醐地区
(FD)

本 文 目 次

Ⅰ 調査概要 …… 1

Ⅱ 平安宮・京跡 …… 3

1 平安宮豊楽院跡1（94HQ513） …… 3
2 平安宮豊楽院跡2（95HQ197） …… 7
3 平安宮内裏跡（94HQ393） …… 10
4 平安京左京三条四坊十三町（95HL243） …… 12

Ⅲ その他の遺跡 …… 15

1 常盤東ノ町古墳群・仁和寺院家跡（95UZ255） …… 15
2 小倉町別当町遺跡（94KS504） …… 17
3 最勝寺跡・岡崎遺跡（94KS389） …… 23
4 尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡（95KS62） …… 26

Ⅳ 主要な出土遺物 …… 48

1 平安京左京四条四坊十四町（95HL275） …… 48
2 烏丸綾小路遺跡・平安京左京六条二坊十二町（95HL199） …… 48
3 得長寿院跡・岡崎遺跡（95KS274・289） …… 49

表 目 次

調査一覧表 …… 50

報告書抄録 …… 63

図 版 目 次

図版1　平安宮
図版2　平安京左京北辺～三条　一・二坊
図版3　平安京左京北辺～三条　三・四坊
図版4　平安京左京　四～六条　一・二坊
図版5　平安京左京　四～六条　三・四坊
図版6　平安京左京　七～九条　一・二坊
図版7　平安京左京　七～九条　三・四坊
図版8　平安京右京北辺～三条　三・四坊
図版9　平安京右京北辺～三条　一・二坊
図版10　平安京右京　四～六条　三・四坊
図版11　平安京右京　四～六条　一・二坊
図版12　平安京右京　七～九条　三・四坊
図版13　平安京右京　七～九条　一・二坊
図版14　平安宮豊楽院跡1（94HQ513）
図版15　平安宮豊楽院跡1（94HQ513）
図版16　平安宮豊楽院跡1（94HQ513）　出土遺物
図版17　平安宮豊楽院跡2（95HQ197）
図版18　平安宮豊楽院跡2（95HQ197）　出土遺物
図版19　平安京左京三条四坊十三町（95HL243）
図版20　平安京左京三条四坊十三町（95HL243）　出土遺物
図版21　平安京左京三条四坊十三町（95HL243）　出土遺物
図版22　平安京左京三条四坊十三町（95HL243）　出土遺物
図版23　平安京左京三条四坊十三町（95HL243）　出土遺物
図版24　平安京左京三条四坊十三町（95HL243）　出土遺物
図版25　平安京左京三条四坊十三町（95HL243）　出土遺物
図版26　平安京左京三条四坊十三町（95HL243）　出土遺物
図版27　平安京左京三条四坊十三町（95HL243）　出土遺物
図版28　小倉町別当町遺跡（94KS504）
図版29　小倉町別当町遺跡（94KS504）　出土遺物
図版30　小倉町別当町遺跡（94KS504）　出土遺物
図版31　小倉町別当町遺跡（94KS504）　出土遺物
図版32　最勝寺跡・岡崎遺跡（94KS389）

図版33　尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡（95ＫＳ62）
図版34　尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡（95ＫＳ62）
図版35　尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡（95ＫＳ62）　出土遺物
図版36　尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡（95ＫＳ62）　出土遺物
図版37　尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡（95ＫＳ62）　出土遺物
図版38　尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡（95ＫＳ62）　出土遺物

挿図目次

図１　調査位置図
（94ＨＱ513・95ＨＱ197）……3
図２　遺構位置図……4
図３　遺構平面・断面図……5
図４　瓦拓影・実測図……6
図５　遺構平面・断面図……7
図６　瓦拓影・実測図……8
図７　調査位置図（94ＨＱ393）……10
図８　遺構断面図……10
図９　遺物実測図……11
図10　調査位置図（95ＨＬ243）……12
図11　遺構位置図……12
図12　遺構断面図……13
図13　遺物実測図……14
図14　調査位置図（95ＵＺ255）……15
図15　遺構位置図……15
図16　No.１地点溝断面図……15
図17　遺物実測図……16
図18　刀子……16
図19　調査位置図（94ＫＳ504）……17
図20　遺構位置図……17
図21　遺構断面図……17
図22　遺物実測図……19
図23　遺物実測図……20
図24　石器実測図……21
図25　磨石……21
図26　調査位置図（94ＫＳ389）……23
図27　遺構位置図……23
図28　遺構断面図……24
図29　瓦拓影・実測図……25
図30　調査位置図（95ＫＳ62）……26
図31　二条通・神宮道調査位置・断面図１…27
図32　神宮道№64～66間
建物Ａ平面・断面図……28
図33　神宮道調査位置・断面図２……29
図34　冷泉通調査位置・断面図１……30
図35　冷泉通調査位置・断面図２……31
図36　冷泉通№29～33間
建物Ｃ平面・断面図……32
図37　尊勝寺・最勝寺条坊復原図……41
図38　瓦拓影・実測図……42
図39　瓦拓影・実測図……43
図40　瓦拓影・実測図……44
図41　瓦拓影・実測図……45
図42　瓦拓影・実測図……46
図43　瓦拓影・実測図……47
図44　遺物実測図（95ＨＬ275）……48
図45　遺物実測図（95ＨＬ199）……48
図46　瓦拓影・実測図（95ＫＳ289）……49

Ⅰ　調査の概要

本書は、当研究所が1995年１月４日から３月31日（平成６年度）と1995年４月３日から12月28日（平成７年度）までに実施した、国庫補助を伴う立会調査の成果をまとめた調査概報である。調査の総件数は496件で、京都市内を11地区に区分した場合のそれぞれの調査件数は以下のとおりである。

地　区　名	１～３月	４～12月	計	地　区　名	１～３月	４～12月	計
平安宮(ＨＱ)	27	60	87	南・桂地区(ＭＫ)	7	7	14
平安京左京(ＨＬ)	26	98	124	洛東地区(ＲＴ)	9	48	57
平安京右京(ＨＲ)	25	52	77	鳥羽地区(ＴＢ)	12	28	40
洛北地区(ＲＨ)	4	14	18	伏見・醍醐地区(ＦＤ)	1	16	17
太秦地区(ＵＺ)	2	7	9	長岡京地区(ＮＧ)	6	14	20
北白川地区(ＫＳ)	8	25	33	計	127	369	496

本書では、12件の調査で検出した主要な遺構、遺物について本文に掲載し、それ以外については調査一覧表にまとめた。ここではその成果の概要を地区別に述べる。

平安宮（ＨＱ）　豊楽院跡では２件の調査成果を報告する。１件（94ＨＱ513）は、豊楽殿の東部に位置する栖霞楼跡の調査で、壇上積基壇の凝灰岩延石を原位置を保った状態で検出した。この基壇建物は、豊楽殿に取り付く回廊の一部なのかどうかは現時点では断定できないが、栖霞楼の建立時期に関わる資料である。もう１件（95ＨＱ197）は、栖霞楼の調査地から道を挟んだ東側で、豊楽院の東面築地推定位置である。この調査では、築地部分は削平をうけていたが同側溝を検出した。この２件の調査成果は、豊楽院の範囲、建物配置を解明するうえでの貴重な資料である。なお、1987年の調査では豊楽殿の基壇を発見しており、平安宮のなかでも当地域には遺構が良好に残存することがあらためて明らかになった。内裏跡の調査（94ＨＱ393）では、内裏南面の道路推定地で、整地層である遺物包含層を検出しており、出土した平安時代前期の土器類を掲載した。

平安京左京（ＨＬ）　三条四坊十三町の調査（95ＨＬ243）では、近世の茶道用陶磁器類が土壙内から多量に出土した。過去に当地域で実施した２回の調査でも多くの陶磁器が出土しており、当地域にこれらの製品を扱う商家があったことが実証された。また、出土した陶磁器類は、生産地と消費地を結ぶうえでの資料となる。今回は、その一部を掲載した。また、主要な出土遺物としては、四条四坊十四町の調査（95ＨＬ275）で、平安時代の土器類が出土した。烏丸綾小路遺跡・六条二坊十二町の調査（95ＨＬ199）では、流路跡より弥生時代から古墳時代にかけての土器が出土した。

平安京右京（ＨＲ）　二条三坊二町の調査（95ＨＲ61）では、大炊御門大路北側溝を検出しており、九条一坊十五町の唐橋遺跡の調査（95ＨＲ210）では、古墳時代の流路から土器類が出土している。（調査一覧表参照）

洛北地区（ＲＨ）　北野遺跡の調査（95ＲＨ39）では、奈良時代の東西溝を検出した。この遺跡は一部北野廃寺と重複しており、いまだに謎の多い北野廃寺の歴史的流れの解明に繋げたい。また、室町殿跡の調査（95ＲＨ211）では、庭石を１個検出しており、1986年の発掘調査[註]で検出した石組遺構に関連する庭園遺構の一部とみられる。（調査一覧表参照）

太秦地区（ＵＺ）　常盤東ノ町古墳群・仁和寺院家跡の調査（95ＵＺ255）では、古墳時代・平安時代の遺構、遺物を検出している。

北白川地区（ＫＳ）　縄文時代から奈良時代の集落跡である小倉町別当町遺跡の調査（94ＫＳ504）では、縄文時代前期、後期の土器・石器類が遺構に伴って出土しており、他にも飛鳥時代、室町時代の遺物も出土している。土器資料とあわせて遺跡範囲を確認する成果である。尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡の調査（95ＫＳ62）では、六勝寺跡の主要道路である二条大路末の南北両側溝、最勝寺・尊勝寺寺域内の建物基壇の地業、建物の雨落溝、瓦を多量に含む土壙など多くの遺構を検出した。同じく、最勝寺跡・岡崎遺跡の調査（94ＫＳ389）では、最勝寺の東限築地に伴う溝と考えられる南北溝を検出している。また、得長寿院跡・岡崎遺跡の調査（95ＫＳ274・289）では、平安時代の瓦・土器類が出土している。

鳥羽地区（ＴＢ）　鳥羽離宮跡では、湿地・池・流路状堆積を各所で検出した。過去の調査資料を集成すれば、より正確な離宮の地形復原も可能である。（調査一覧表参照）

伏見・醍醐地区（ＦＤ）　伏見城跡の調査（95ＦＤ181・288）では、濠状遺構や、古墳時代の遺物包含層から土器類を検出している。（調査一覧表参照）

南・桂地区（ＭＫ）・洛東地区（ＲＴ）・長岡京地区（ＮＧ）　これらについては調査一覧表にまとめた。

今回は、北白川地区における調査成果が特に多く、内容も貴重であった。北白川一帯から京都大学構内にかけては、小倉町別当町遺跡、上終町遺跡をはじめ多くの縄文時代の遺跡が点在しており、過去の北白川廃寺の調査では、地表下３m以上の深さから縄文時代早期の住居跡や遺物が発見されており、この遺跡の在り方の認識を改めることが求められた。その意味で、発掘調査までに至らない遺跡地での立会調査の重要性が増し、今回の調査は、遺跡内の空白を埋めるためにも重要なものであった。六勝寺跡の調査では、埋設管の布設工事で遺跡内を長距離にわたって調査できたことにより数多くの遺構を発見した。この調査は、工事施工計画に合わせて深夜に及ぶ調査となったが、それに見合う貴重な成果が得られた。　（本　弥八郎）

註　辻　裕司「室町殿跡」『昭和61年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1989

II　平安宮・京跡

1　平安宮豊楽院跡1（94HQ513）

調査経過（図1）

本調査地は、中京区聚楽廻中町44番地に所在する住宅建設予定地である。建築審査の訂正に伴い、基礎工事を中断して、1995年2月27日から3月11日まで調査を実施した。当該地は、平安宮豊楽院栖霞楼跡推定地に位置する。

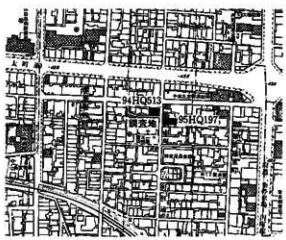


図1　調査位置図（1：5,000）

遺　構（図版14・15、図2・3）

調査地の基本層序は、地表下5～30cmが現代層で、その直下が平安時代の遺構面となる。敷地は西側が高く、東端と西端では70cm程の比高差がある。

東半部は、大部分が後世の攪乱を受けており、北辺および南辺で、上面に瓦片を敷きつめた整地層を検出したにすぎない。西半部は、防空壕跡などの攪乱を受けているものの、良好な状態で壇上積基壇跡を検出した。基壇跡は、地山を30cmほど削り出し、版築地業を行い構築している。基壇の化粧に使用した凝灰岩の切石は、後世にほとんど抜き取られていたが、延石が一部遺存していた。延石は、長さ45cm以上、幅38cm、厚さ16cmである。小口には調整時に使用した工具の痕跡が顕著に認められる。延石上面の標高は、42.40mで、基壇跡の現存高は、延石下面から70cm程確認した。基壇跡北側には、瓦片を敷きつめた整地層が5m以上広がっている。

遺　物（図版16、図4）

出土遺物は、大半が整地層からの瓦類であり、なかに緑釉瓦が1点ある。土器類は、9世紀から10世紀に属する土師器小片が少量出土しているにすぎない。平安時代の軒瓦の内訳は、軒丸瓦が7種21点、軒平瓦は10種19点である。平安時代前期の軒瓦は（1～4・6～8）、中期は（5・9）である。

単弁十六葉蓮華文軒丸瓦（1）と唐草文軒平瓦（6）は大阪府吹田市岸部瓦窯、複弁八葉蓮華文軒丸瓦（3）は栗栖野瓦窯、唐草文軒平瓦（7・8）は西賀茂角社西瓦窯、唐草を複線で表す軒平瓦（9）は小野瓦窯の製品である。複弁四葉蓮華文軒丸瓦（5）は瓦当裏面に布目痕が残る「一本造り」で、花弁輪郭線と弁間文の間に笵傷があり、豊楽院跡で出土している[注1]瓦と同笵である。文字瓦（10）は平瓦凹面に「木工」字が陽刻されたもので、小野瓦窯の製品とみられる。

瓦類には二次的な火熱を受けているものがあり、軒瓦をはじめほとんどが小片となって出土しており、整地に利用されたものである。

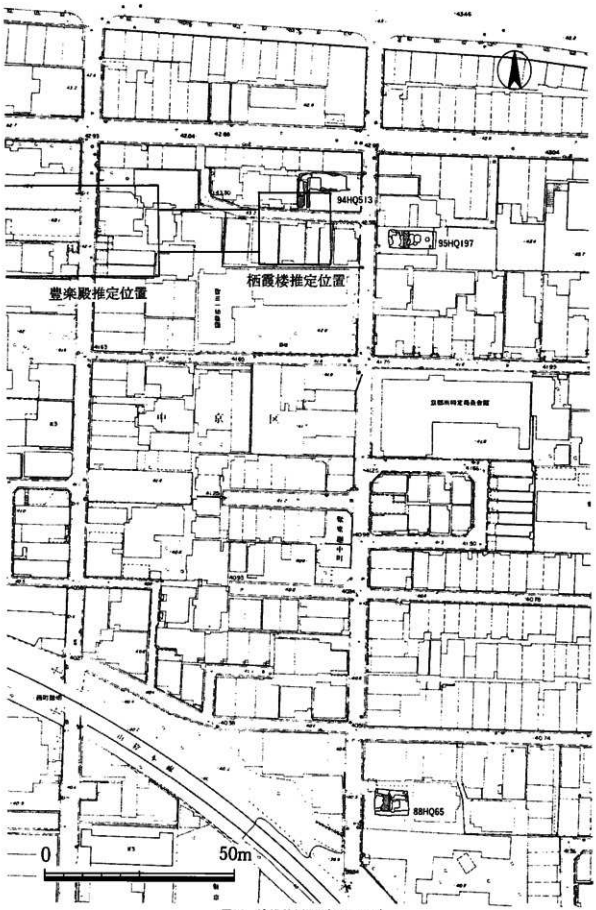


図２　遺構位置図（1：1,000）

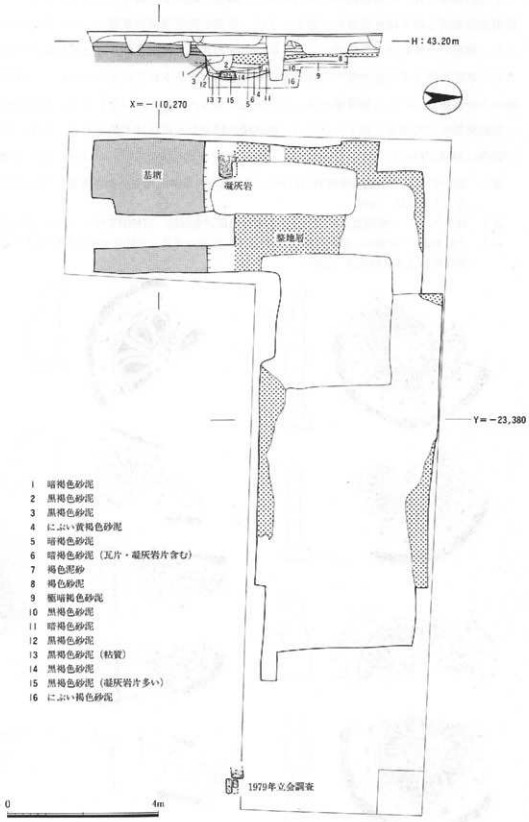


図3　遺構平面・断面図（1：100）

まとめ

今回の調査では、建築基礎の深さの関係で、調査開始面より掘り下げることはできなかったが、原因者の承諾を得て撹乱部分を一部掘り下げ、豊楽院関連遺構の基壇の一部を検出することができた。検出した延石は、豊楽殿から東へ延びる廊の北縁と推定されるほぼ延長線上で出土した。[註2] さらに東延長線上でも1979年の立会調査[註3]で凝灰岩列が検出されていることから、造営当初は北面廊のみが存在し、のちに栖霞楼が造られた可能性も考えられる。しかしながら調査面積も狭く、一部断面観察での調査で終了したため、栖霞楼の建立など詳細は不明である。今後の周辺地域での調査に期待が持たれる。

（伊藤　潔・小檜山一良）

註1　家崎孝治　「平安宮豊楽院跡(HQ65)」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和63年度』　京都市文化観光局　1989

註2　鈴木久男　「平安宮豊楽院(1)」『平安京跡発掘調査概報　昭和63年度』京都市文化観光局　1989

註3　上村和直　「付章30　豊楽院跡」『平安宮Ⅰ　京都市埋蔵文化財研究所調査報告第13冊』(財)京都市埋蔵文化財研究所　1995

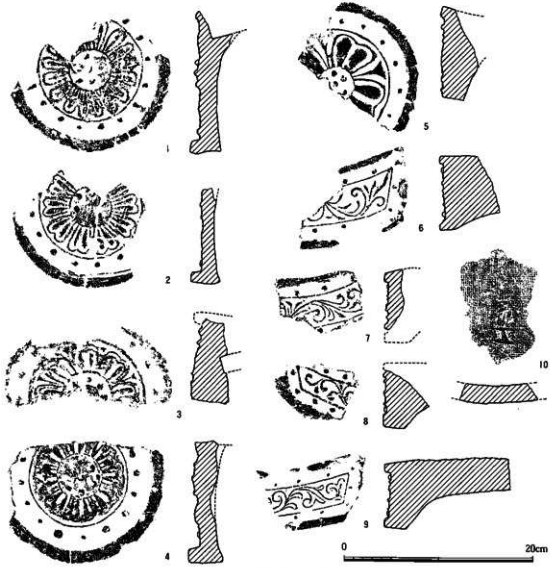


図4　瓦拓影・実測図（1：4）
西区整地層（1・2・6・9），排土（3・5・10），東区整地層（4），撹乱（7・8）

2　平安宮豊楽院跡２（95HQ197）

調査経過（図１）

本調査は、中京区聚楽廻中町43-11番地に所在し、住宅新築工事に伴って実施した。1995年８月９・10日に事前調査を行ったところ、瓦を多量に含む溝と土壙を検出したため、８月21日から９月２日にかけて、建築範囲に調査区を設定して２回目の調査を実施した。

当該地は、平安宮豊楽院の東端部にあたり、東面築地が推定されている箇所である。これまでの豊楽院の調査では、豊楽殿や栖霞楼の一部が検出され、比較的遺構の遺存状態の良好な地区である。

調査の結果、豊楽院東面築地の外溝と思われる南北方向の溝を検出した。建築基礎の深さの関係で、江戸時代の深い遺構は底部まで検出していない。

遺　構（図版17、図２・５）

調査地の基本層序は、地表面から0.15～0.2mが現代層で、その直下が地山の褐色砂泥層や褐色砂礫層である。この地山層を掘り込んで平安時代の溝や近世以降の土壙が成立している。

検出した遺構は、平安時代の溝と土壙、小土壙、江戸時代の井戸と土壙である。

溝ＳＤ12は幅が0.8～1.1mで深さ約0.5mを測り、長さ４mにわたって検出した。溝はほぼ真北方向に直線で通り、断面が逆台形を呈している。埋土は褐色砂泥層である。土壙ＳＫ７と15には多くの瓦が混入し、小土壙５と６も同様であった。これらの遺構からは土器がほとんど出土せず、正確な時期は決めがたいが、ＳＤ12からは平安時代中期の軒丸瓦が出土している。

江戸時代の井戸ＳＥ３は方形を呈し素掘りであるが、おそらく井戸枠が壊れたものと思われる。ＳＫ10は底部まで検出していないが、不整形を呈し、掘形は垂直に掘られ、いくつか重複しているため土取り穴と思われる。調査区の西部では地山は褐色砂泥層となり、いわゆる聚楽土と呼

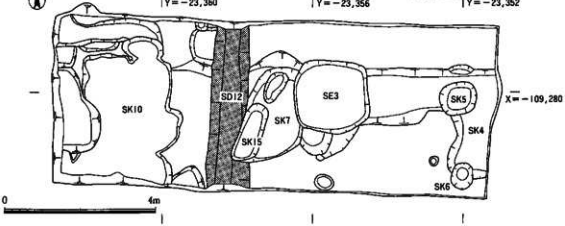


図５　遺構平面・断面図（1：100）

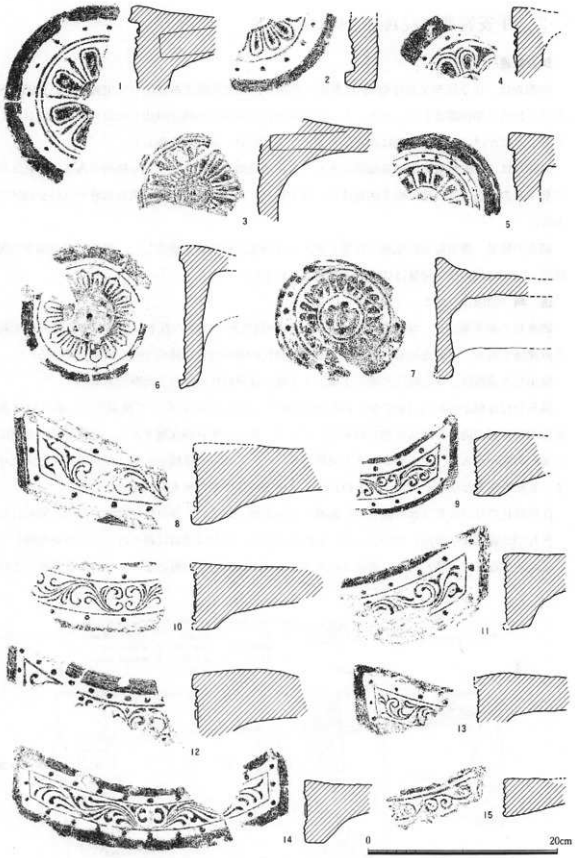


図6　瓦拓影・実測図（1：4）
土壙SK7（1・3・5），SK10（2・9～11・13・15），溝SD12（4），第1層（6・7・14），
SK15（8），SK4（12）

ばれる壁土に適した土層が分布している。

遺　物（図版18、図６）

出土遺物は整理箱に65箱を数え、そのほとんどが平安時代の瓦である。他には江戸時代の土器類が少量ある。平安時代の瓦類には緑釉の軒丸瓦・軒平瓦・熨斗瓦、無釉の軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・塼などがみられる。

平安時代前期の軒瓦は（１～３・８～12）、中期は（４・13～15）、後期は（５～７）である。

緑釉単弁八葉蓮華文軒丸瓦（１）と緑釉唐草文軒平瓦（８）は、豊楽殿や大極殿で出土する緑釉瓦と同笵で、栗栖野瓦窯で焼かれたものである。単弁蓮華文軒丸瓦（３）は大阪府吹田市岸部瓦窯、蓮華文軒丸瓦（７）が森ケ東瓦窯産である。複弁蓮華文軒丸瓦（４）は瓦当裏面が磨滅し不明瞭であるが、裏に布目がある「一本造り」と思われる。唐草文軒平瓦（９・10・12）が西賀茂角社西瓦窯、唐草を複線で表す軒平瓦（13）が小野瓦窯産である。中心飾りを対向Ｃ字形に表す均整唐草文軒平瓦（14）は池田瓦窯産である。唐草文軒平瓦（15）は備前国分寺や備中国分寺に類似品がみられ、その付近から搬入されたものである。

ま と め

今調査で検出した南北方向の溝ＳＤ12は、平安宮復原図によると、豊楽院東面築地の外側の溝に推定できる。1988年に当地から南へ約150mの地点で南北方向の溝[註]が検出され、東面築地の内側の溝に推定されている。図面上でこの内溝と外溝の距離を測ると心々で約４mとなり、この間に築地と犬行が設けられていたことになる。築地本体は江戸時代の土壙や攪乱によって削平され、検出できなかった。今後の調査に期待したい。

狭い調査面積ながら多量の瓦類が出土し、これらは築地に用いられていた瓦と思われる。しかし、緑釉瓦も各種まとまってみられるため、豊楽殿の所用瓦が運ばれてきて廃棄された可能性もある。

（前田義明）

註　家崎孝治「平安宮豊楽院跡(ＨＱ65)」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和63年度』京都市文化観光局　1989

3　平安宮内裏跡（94HQ393）

調査経過（図7）

調査地は、上京区下立売通千本東入下る中務町490-112番地で、倉庫建築工事に伴い調査を実施した。

調査期間は、1994年12月13・14・26日、翌年1月5日の4日間である。総掘工事のため、観察できた断面は敷地の周辺のみであった。

当地は、平安宮内裏南側の道路にあたり、現地形は北から南に向け低くなっている。なお、土層計測のための仮水準点は、敷地南西角の道路縁石上を±0水準とした。

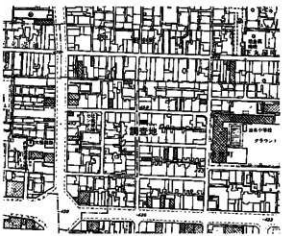


図7　調査位置図（1：5,000）

遺　構（図8）

調査地東端のNo.1地点では水準点－23～33cm、西端のNo.2地点では－14～27cmで黒褐色砂泥層となり、全体的には－50cm前後が無遺物の砂礫層となる。この黒褐色砂泥層は南壁を除き各断面全面で確認でき、この土層より平安時代前期の土器類が出土した。

また、この黒褐色泥砂層上面でNo.1地点では3基、No.2地点では2基の土壙を検出し、No.2地点の土壙からのみ遺物が少量出土した。

遺　物（図9）

土師器（1～8）（1～3）は杯Aで、いずれも器壁は薄い。（1）は小型で乳白色、口縁は屈曲する。（2）は底部外面に指圧痕が多く残り、暗褐色を呈する。（3）は赤褐色を呈する。（4・5）は皿Aで、（4）は外反気味に立ち上がり、口縁部は強く屈曲し、わずかに肥厚する。（5）は底部外面に指圧痕が多い。いずれも器壁は薄い。高杯（6～8）は、ヘラケズリによる面取りを脚部上半に不整に施すが、下半には認められない。面取りを簡略化する段階のものである。胎土は良好、赤褐色を呈する。

緑釉陶器椀（9）

底部はヘラケズリで、中央が弓状に窪む。内面はヘラミガキを施し、全体に明緑色の釉をかける。軟陶で、乳白色を呈する。

図8　遺構断面図（1：40）

須恵器蓋（10） 口縁の反りは強く、外面上半部はヘラケズリである。焼成は堅く、胎土は良好である。色調は暗灰色。

白色土器皿（11） 脚付皿で、口縁部を外方へ大きく曲げ、底部に「く」字に曲がる脚を張り付け、ヘラナデを施す。底部外面下半はヘラケズリである。内面は全面ヘラミガキされる。外面はかなり磨滅している。胎土は精良、乳白色を呈する。

灰釉陶器椀（12） 器壁は薄い。釉は淡灰緑色で、内外面にかかる。胎土は磁胎状で、灰白色を呈する。

ま と め

今回の調査地は、内裏南面の道路位置に推定される。したがって、明確な遺構は検出されなかったが、平安時代前期の遺物包含層から土器類が出土した。出土した土器類は細かく割れており、この包含層は、道路の整地目的に敷かれたとも考えられる。

また、道路部分であるにもかかわらず、この包含層を切り込む土壙を5基検出したことから、何らかの施設があったとも考えられる。

（尾藤徳行・吉村正親）

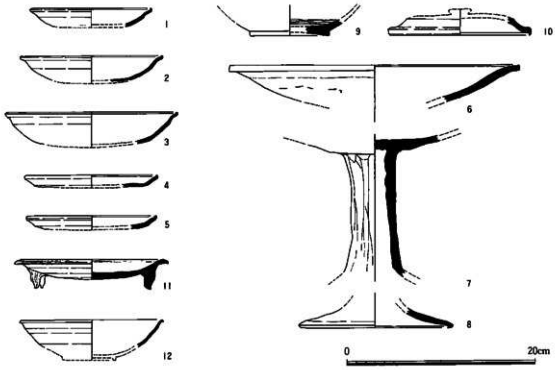


図9 遺物実測図（1：4）

4　平安京左京三条四坊十三町（95ＨＬ243）

調査経過（図10）

調査地は、中京区麩屋町通三条上る下白山町306-1番地に所在し、マンション建設工事に伴い、1995年9月12・13日の両日にわたって調査を実施した。

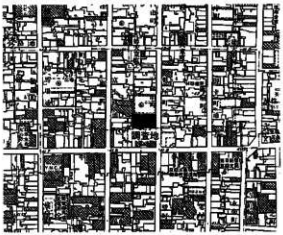


図10　調査位置図（1：5,000）

当地は、平安京左京三条四坊十三町および富小路に該当する。また、天正18（1590）年の豊臣秀吉による町割り改編後には、三条通と新たにつけられた麩屋町通に面した町屋の敷地であったと想定される。

当地周辺の三条通に面した2箇所の調査地では、近世の茶道用陶磁器類（以下茶陶）が多量に出土しており、今回の調査でも、この時代に関連した遺構、遺物の検出が期待された。

調査の結果、富小路の路面、茶陶を多量に含む土壙、遺物包含層を検出した。

遺　構（図版19、図11・12）

調査開始時には地表下1.1～1.3mまで削平されており、調査できたのは敷地南側の掘削断面の一部であった。

検出した遺構は、路面とそれを切り込む土壙・落込み群である。

基本土層は、機械掘削面下に厚さ0.6mの路面堆積層があり、以下は、無遺物の暗オリーブ褐色砂礫層となる。

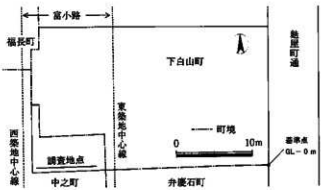


図11　遺構位置図（1：500）

富小路の路面は、地表下1.4～2.0mの間に計8面（第16・23・24・27～29・33・34層）を確認した。路面に挟まれた第32層からは、緑釉陶器椀、須恵器甕が出土しているため、第33・34層は平安時代の路面と推定できる。土壙ＳＫ31は、平安時代後期の土師器皿が1片出土しており、条坊復原図より西へ約2mずれているが、富小路東側溝となる可能性がある。

土壙群は、相互に切り合って成立する。ここでは、近世の茶陶類が出土した土壙、遺物包含層について述べる。

土壙ＳＫ12　地表下1.6mで検出。幅1.1m、深さ0.53m。土壙内部には埋土は少なく茶陶類が充満する。茶陶類はほぼ原形を保った状態で多量に出土した。

土壙ＳＫ13　ＳＫ12の東2mの地表下1.3mで検出。東西幅1.6m、深さ0.52m。埋土は、炭混りの泥土層である。

土壙ＳＫ14　ＳＫ13の下層、地表下1.8mで検出。幅1.1m、深さ0.4m以上。埋土は粗砂・炭が多く混入する暗オリーブ褐色砂泥層である。

遺物包含層10　ＳＫ12の上層で検出。厚さ10cmの帯状の遺物包含層で、この層は南へ広がる土壙の一部になる可能性がある。埋土は炭と明黄褐色粘土が混入する暗灰色砂泥層である。

遺　物（図版20～27、図13）

遺物は整理箱で26箱出土した。遺物内容は、近世の茶陶類が大半で、他に平安時代の土器類がわずかにある。茶陶類は、完形にちかいものや、焼け歪みや焼け損じたものも含まれている。生産地は備前、信楽・伊賀系、唐津系が主体で、美濃・瀬戸系が若干含まれる。以下に、遺物包含層10、ＳＫ12～14、その他から出土した茶陶類について概説する。

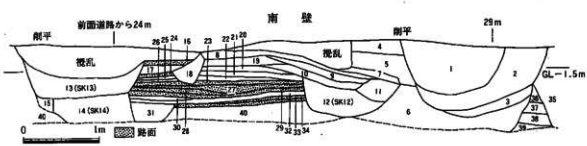
遺物包含層10　整理箱で１箱が出土。主な遺物は輸入製品の青磁壷、染付椀・皿・鉢・合子(42)などがある。備前、信楽・伊賀系の水指などの大型品は破片で約16個体分ある。他には茶入(37)、軟質の緑釉陶器香合壷（43）・三彩皿（48）がある。

ＳＫ12　整理箱で10箱が出土。内容は、水指・花入・建水（１～14）が主で、個体数は水指33個体、花入21個体、建水13個体である。産地別では、各器種ともほぼ同数であるが、唐津系の花入、建水は各１個体のみである。他には各産地の茶椀（15）、壷、茶入（38）、灯明皿・壷（44・45）、水指壷、灰器、摺鉢、椀、甕がある。

ＳＫ13　整理箱で５箱が出土。大型品（16～21）では、水指15個体、花入４個体、建水４個体がある。唐津系の水指は６個体である。また完形にちかい唐津系の茶椀（22～25）が18個体ある。他には各産地の茶入（39）、水指壷（30）、塩壷（52）、向付、皿、煙管、摺鉢、椀、甕がある。

ＳＫ14　整理箱で２箱が出土した。大型品は唐津系の水指、花入が各１点で、同系の茶椀(26)が11個体、同じく菊形の皿や葉形の向付（27～29）が13個体ある。他には各産地の茶入（36）、水指壷（31）、壷（50）がある。

その他に、ＳＫ３・６からは茶椀（47）、水指壷（32）、香合（41）、茶入（34・35）が出土。



1　暗オリーブ褐色砂泥（砂・礫混多い）
2　暗灰黄色砂泥（砂・礫混）
3　黒褐色砂泥（炭多い・礫混）
4　暗オリーブ褐色砂泥（粗砂礫混）
5　にぶい黄色砂（粗砂礫混）
6　黒褐色泥土（炭・礫混）
7　黒褐色砂泥（粗砂礫混）
8　オリーブ褐色砂泥（粘質）
9　黄灰色砂泥（炭・礫混）
10　暗灰黄色砂泥（炭・粘土混）
11　暗オリーブ褐色砂泥（粗砂礫・炭混）
12　暗灰黄色砂泥（炭・礫混）
13　黄灰色泥土（炭混）
14　暗オリーブ褐色砂泥（粗砂・炭混）
15　黒褐色砂泥（炭・礫・粘土混）
16　暗オリーブ色泥砂（礫混多い）
17　灰オリーブ色砂礫
18　暗灰黄色砂泥（炭・粗砂礫混多い）
19　暗灰黄色砂泥
20　暗灰黄色砂泥（炭・粗砂礫混多い）
21　暗オリーブ褐色砂泥（炭多い）
22　暗灰黄色砂泥（粗砂礫多い）
23　暗灰黄色砂泥（砂・礫混）
24　暗オリーブ褐色砂泥（礫混）
25　オリーブ黒色砂泥（泥土）(砂礫混)
26　オリーブ褐色砂泥
27　黄灰色砂泥（砂・礫混多い）
28　暗灰黄色泥砂（礫混）
29　黒褐色砂泥（礫混）
30　暗オリーブ褐色泥土（細砂・礫混）
31　暗オリーブ褐色砂泥（やや粘質・礫混）
32　暗灰黄色泥土（砂・礫混）
33　黄褐色砂泥（礫混多い）
34　灰黄褐色砂泥（礫混）
35　灰オリーブ色泥土（細砂・砂・礫混）
36　灰オリーブ色砂泥（やや粘質・礫混）
37　灰オリーブ色砂泥（粘質・炭混）
38　灰オリーブ色細砂（砂泥混）
39　灰オリーブ色砂礫
40　暗オリーブ褐色砂礫（地山）

図12　遺構断面図（1：50）

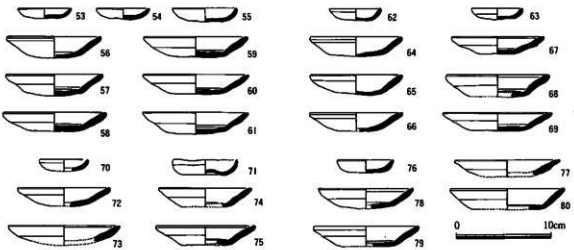


図13　遺物実測図（1：4）

ＳＫ18からは水指（46）、灰器（51）、甕（49）が出土。機械掘削中の排土からは香合蓋（40）、水指蓋（33）が出土している。

土師器皿も各遺構から出土しており、（53～61）はＳＫ13、（62～69）はＳＫ14、（70～75）はＳＫ12、（76～80）は遺物包含層10からである。（53～55、62、63、70、71、76）は手づくねの小皿、（56、64～66、72、77）は底部内面までヨコナデした皿、その他は底部と体部の境に沈線をもつ皿である。

各土壙から出土した茶陶類は各種器形からみて、時期差はほとんどなく、また共伴する土師器の形態や、伊万里焼が見られない事から考えて、17世紀前半に比定できる。

ま と め

今回の調査では、富小路の路面を８面確認し、道路が継続的に利用されていたことが判明した。しかし、秀吉による町区画再編で成立した町割りが現在まで存続していることを考えると、今回の調査地はその頃に宅地化されたのであろう。したがって検出された路面は天正18年以前のもので、路面を切って成立する土壙・遺物包含層はそれ以降のものと考えられる。

現在の地積測量図をみると、当敷地は下白山町と中之町にまたがるが、調査地点は中之町の地内にあたる。中之町は元は三条通に面した宅地に成立しており、ここは三条通に南面した町屋の敷地奥にあたると考えられる。過去に行った調査でも、敷地の奥またはそれに近いところで大量の茶陶類が出土しており、出土場所や出土状況が似ている。今回出土した茶陶類も、地下倉などの保管場所で破損したのではなく、敷地奥の空地に穴を掘るか、既存の地下施設を利用して投棄されたものであろう。出土した茶陶類の中には、極端な焼け歪み、焼け損じしたものが多く含まれており、商品価値を見い出し得ないと判断し、投棄された可能性が高い。　（竜子正彦・本）

註　久世康博「平安京左京四条四坊（ＨＬ104）」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　平成元年度』京都市文化観光局　1990
堀内明博「平安京左京三条四坊」『昭和62年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1991

Ⅲ　その他の遺跡

1　常盤東ノ町古墳群・仁和寺院家跡（95UZ255）

調査経過（図14）

1995年９月26日から10月７日、右京区常盤一ノ井町５、５－１番地において中古車展示場の造成工事に伴う調査を行った。

当該地は雙ヶ岡の西南部分に位置し、常盤東ノ町古墳群・仁和寺院家跡の推定地にあたる。

常盤東ノ町古墳群に関しては、1977年に当地の北西約200mの地点の発掘調査[注1]で円墳３基を検出している。また仁和寺院家跡に関しては、1960年に同じく北約850mの地点の発掘調査[注2]で仁和寺南院御堂跡が検出されている。当調査地でもこれらに関連する遺構、遺物の検出が期待された。

調査の結果、古墳時代と平安時代の溝を検出した。

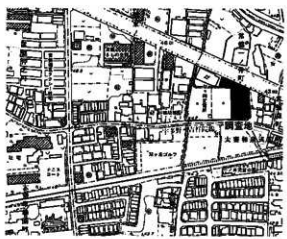


図14　調査位置図（1：5,000）

遺　構（図15・16）

基本層序は、No.１地点で地表下0.42mまでが耕作土層、0.59mまでが暗褐色砂泥の平安時代から室町時代の遺物包含層、0.59m以下が無遺物のオリーブ灰色砂泥層である。堆積層は、各地点で高低差はあるが調査地全域にわたって同一であり、無遺物層の最も浅い地点は、No.２地点で地表下0.5m、最も深い地点は、No.３地点で0.8mを測る。

検出した遺構は、古墳時代の溝１条（No.１地点）、平安時代の溝１条(No.３地点)、時期不明の土壙１基(No.２地点)・溝１条(No.４地点)である。

No.１地点の古墳時代の溝は、地表下0.59mで検出した。幅1.33m、深さ0.11m、底面は平坦

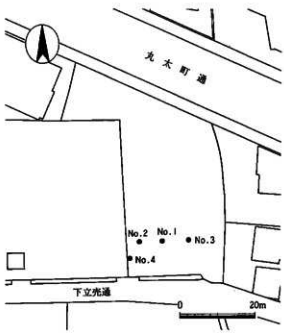


図15　遺構位置図（1：1,000）

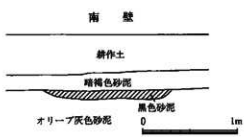


図16　No.1地点溝断面図（1：40）

で、方向は北北東から南南西である。埋土から土器類、刀子が出土している。No.2地点で検出した土壙は、地表下0.5mで幅1.1m、深さ0.19m。埋土からは須恵器が出土している。No.3地点の平安時代の溝は、地表下0.75mで幅3.0m、深さ0.3m、底面は平坦で固く締まり、5cm大の石が敷かれたように配されている。溝の方向は北西から南東である。埋土からは土器類が出土している。No.4地点で検出した東西方向の溝は、地表下0.7mで幅0.75m、深さ0.4m以上である。埋土からは土師器の細片が出土した。

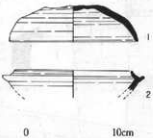


図17　遺物実測図（1：4）

遺　物（図17・18）

No.1地点の溝から出土した遺物には、土師器甕、須恵器蓋（1）・杯身（2）がある。時期は古墳時代後期である。刀子（3）は茎部を含めて長さ26.7cm、最大幅約2.0cm、峯部の厚さ約0.5cmである。

No.3地点の溝から出土した遺物には、土師器皿・甕、須恵器甕・壺、黒色土器皿、灰釉陶器壺がある。いずれも小片で、時期は平安時代前期である。他にNo.2地点から出土した須恵器壺があるが、口頸部がなく時期の特定はできなかった。

ま と め

今回の調査で、当調査地に古墳時代後期と平安時代前期の遺構があることが確認できた。

古墳時代後期の溝は、周辺地の発掘調査成果と考え合わせると古墳の周濠の一部の可能性もある。刀子は、本来古墳の副葬品として出土するが溝から出土する例は珍しい。

平安時代前期の溝は、仁和寺院家跡の推定地の南端に位置するが、仁和寺院家の成立は平安時代中期以降であり、院家と直接関係する遺構ではない。しかし、今回の溝が検出されたことで、院家成立以前にこの地で人々が生活を営んでいたことが明らかになった。（川村雅章・吉本健吾）

註1　鈴木廣司　「常盤東ノ町古墳群」『京都市埋蔵文化財研究所概報集1978－Ⅰ』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1978

註2　杉山信三「院の御所と御堂」『奈良国立文化財研究所学報　第11冊』奈良国立文化財研究所　1962

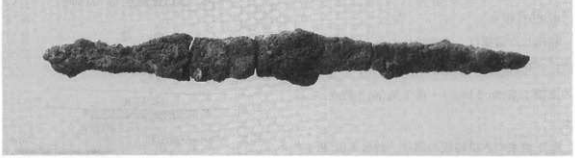


図18　刀子（3）

2　小倉町別当町遺跡（94ＫＳ504）

調査経過（図19）

調査地は、左京区北白川別当町23番地で、マンション建築工事に伴い調査を実施した。

調査期間は、1995年３月14・17・20日の３日間で、調査地点にNo.１～５まで番号をつけて調査を行った。

当地は、縄文時代と飛鳥・奈良時代の小倉町別当町遺跡にあたる。この遺跡の範囲は北白川小学校付近から南西に広がっており、調査地周辺の発掘成果などから考えて、今回も何らかの遺構の発見が期待された。なお、敷地は西側の歩道に向けて低くなる。敷地南西の歩道縁石上面を仮水準点±０として断面観察を行った。

図19　調査位置図（1：5,000）

遺　構（図版28、図20・21）

調査地の現地表は、仮水準点から測ると、東側のNo.５地点で＋140cmあり、No.１地点で＋81cm、No.２地点は＋35cm、一番西のNo.４地点で＋20cmとなる。以下水準値は、仮水準点からの計測である。

No.１地点の東側で、±０cmの土層から磨石が出土した。

No.２地点で、第２層（＋15～－17cm）、第３層（＋４～－20cm）、第５層（－８～43cm）から縄文時代の土器、石器類が出土した。

また－14cmで、幅1.7m、深さ0.5mの土壙から縄文時代の土器、石器が出土した。－55cm以

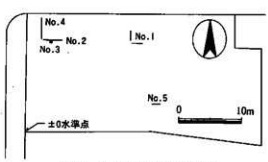


図20　遺構位置図（1：600）

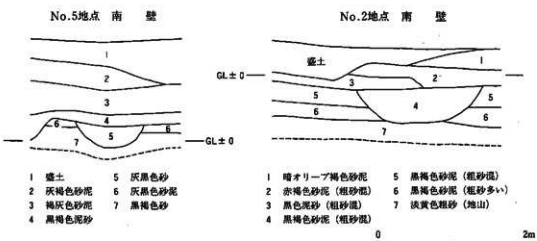


図21　遺構断面図（1：50）

下は無遺物の粗砂層である。

No.3地点の＋22cmで、幅0.6m、深さ1.0mの中央部が深くなる柱穴状の土壙を検出した。埋土の黒褐色泥砂から縄文時代前期と後期の土器が出土した。

No.5地点の＋26cmで、幅90cm、深さ36cmの土壙を検出した。埋土の灰黒色泥砂層より、縄文時代後期の甕が出土した。

遺　物（図版29～31、図22～25）

遺物の出土地点は、No.2地点（2～4・8・9・11～18・20～22・25～27・29～31・33・34・36）、No.3地点（1・6・7・19）、No.5地点（5・10・23・24・28・32）である。

縄文時代前期の土器（1～9）

（1～4） 鉢型の一部で縄文地に突帯を張り付けて、突帯の上に半截竹管の刻み目（3）や縄文（1・2）を施文する北白川下層IIc[注1]式のものと、いわゆる特殊突帯文（4）のIII式のものがある。

（5～7） 細片で、爪形文が確認できる。（5）は、半截竹管外側で施文したD字形爪形文であろう。（6～7）は爪形文を有するが、細片であり、詳細は不明である。

（8） 方向の異なる羽状縄文が全面に施され、II式の中に入るものであろう。

（9） 精製土器浅鉢で、赤彩が施される土器の小片で、2条平行の沈線で文様を入れる。

縄文時代後期の土器（10～32）

（10～20）はいわゆる摩消縄文系の土器で、いずれも幅1.5cm以上の太い沈線で区画したのち、縄文を施文している。縄文時代後期初頭の中津式であると考えられる。

（10） ほぼ球形の胴部に直立する頸部をもち、口縁部がわずかに外反する壺形土器に近い器形である。口縁部は無文で、文様は胴部上半に横位の縄文帯を上下に配し、空間を渦巻文・三角文で埋めている。色調は明赤褐色から明黄色である。縄文の撚り方はRLにすべて入る。

（14） 鉢形の口縁部は肥厚し波状に隆起させ、波頭部は耳状に大きくし、そこで口唇部の太い凹線の動きが止まっている。側面には、凹線による文様を入れ、縄文部と摩消縄文を区画する。内面は、条痕がみられる。

（16） 縄文はRLで、凹線の中のみ摩り消している。鉢のくびれ部に当たる。

（11～12・15・17～19） 2条の凹線に画された、内ないし外を摩り消す。（11・12）は山形口縁、（13）は平口縁を呈する。（17）はヘラ描きで区画された幾何学的な文様をもつ。（19）も同様であろう。

（20） 摩消部に条痕が残る。

（21） 無文の深鉢で、胴部の屈曲する形態である。中津式か、北白川上層式か判別できない。

（22） 幅の狭い2条の平行沈線により文様を施した沈線文系の土器であろう。中津式か、北白川上層式か判別できない。

（23～32）は北白川上層I・II式に属すると思われるが、過去の出土例の中に類似品をみることはできなかった。

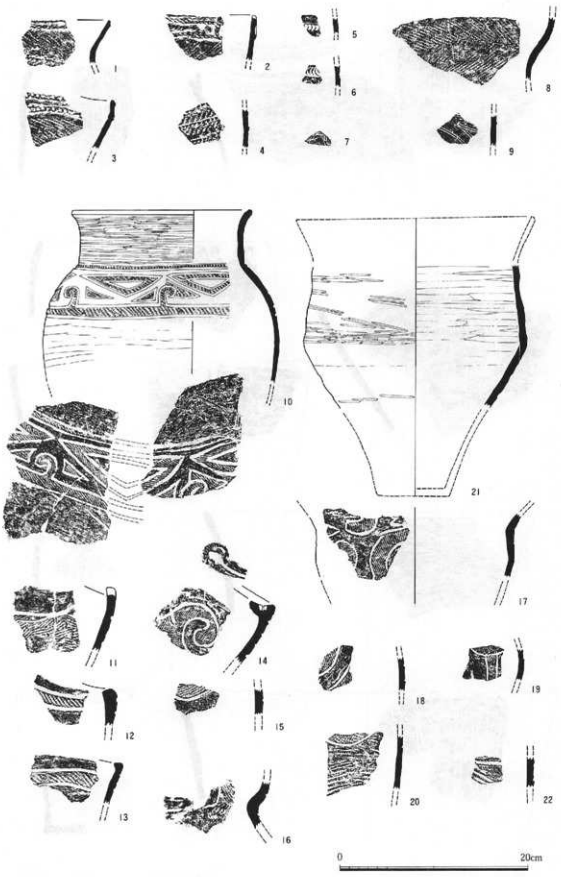


図22　遺物実測図（1：4）

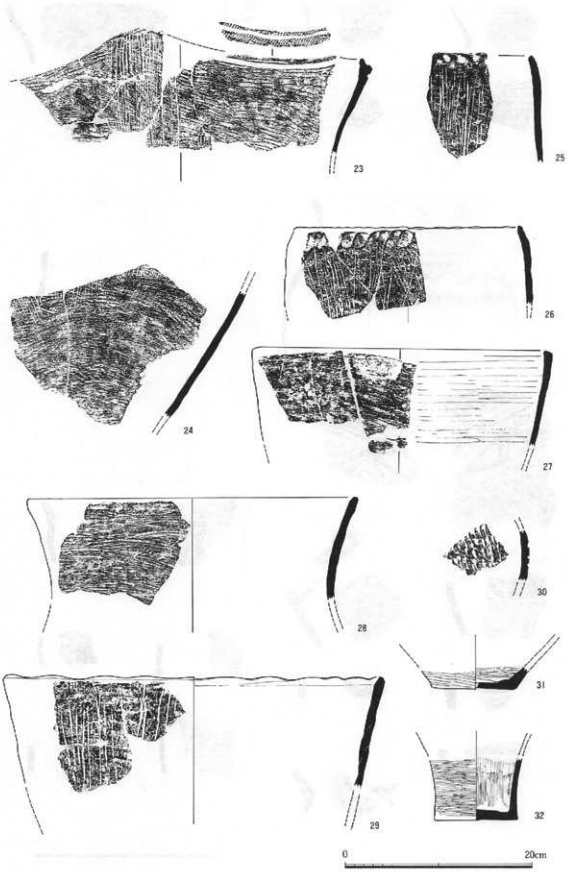


図23　遺物実測図（1：4）

(23・24) (23) は胴部のくびれる波状口縁を有する深鉢で、口縁部が逆「く」字形状を呈し、その肥厚した口縁部に文様を有する縄帯文土器である。口唇部に1条の沈線を施し、縄文を施文する。波頂部外面には、縦方向の条線文を施す。(24) は、(23) の胴下半部である。

(25・26) 口縁部が内湾し、端部を指でつまみあげ、小さな波状口縁を持つ深鉢である。外面には縦方向の条線文を施す。

(27・28) 無文の深鉢で (27) は屈曲がみられず、断面が直線的に開く形態である。研磨が顕著に認められる。(28) は、条痕を横位に施文したもので、口縁部は肥厚する。

(29) 小さな波状口縁を呈し、縦方向の平行沈線文を施す。

(30) 三角形の刺突三角文が全面に入る。

(31) 平底の破片である。

(32) 底部より若干外へ反りぎみに大きく開く朝顔形の精製土器深鉢の底部である。明褐色を呈し、薄手である。内外面ともにミガキがかかる。

石　器 (33～36)

(33) やや風化の進んだサヌカイト製のスクレイパーである。翼状の大きく剥離した面に、一部、小刃部を交互剥離によって作り出している。長辺9.0cm、短辺3.6cm。

(34) サヌカイト製の石鏃である。平基式になる形であろうが、やや不定形になっている。刃部の作り出しは乱雑であり、自然面もそのまま使用している。長さ4.5cm、幅3.5cm。

(35) サヌカイト製の石鏃である。全体は大きく割り取られた所を片面のみ加工して、鏃としたものである。長さ2.0cm、幅1.7cm。排土中より出土した。

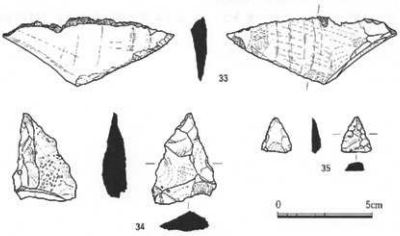


図24　石器実測図 (1：2)

(36) 付近で採集できる花崗岩を利用した磨石である。4面に磨り込んだ痕が認められる。砥石か、叩き石の一種ではないかと思われる。長さ23.5cm、幅15.0cm、厚さ8.0cm。

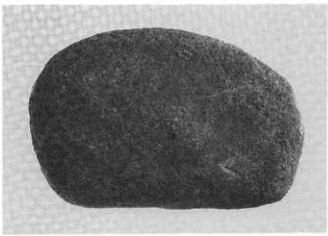


図25　磨石 (36)

ま と め

当調査地の北東部では、梅原末治氏に

よる調査[註2]、北白川小学校で発掘調査[註3]が行われており、飛鳥時代から平安時代の遺構、遺物を検出している。さらに北部の上終町遺跡での発掘調査[註4]では縄文時代早期の住居跡を発見し、貴重な成果を得ている。

今回の調査では、主に縄文時代前期・後期の遺構、遺物を多数検出した。遺構の性格は明らかではないが、調査できなかった遺構も含め、今回の調査地にはさらに多くの遺構、遺物が存在すると考えられる。

また、出土した遺物の破片の大きさ、量などから考えると、川の氾濫などにより運ばれたものではない。これは、当地が生活基盤となる地域であったことを裏付けている。さらに、現在指定されている遺跡範囲でも示されるように、小倉町別当町遺跡の中心的な位置を占めることも考えられる。

今後、詳細な発掘調査を行い、当遺跡がさらに明らかになることを期待したい。

(伊藤・尾藤・吉村・竜子)

註1　岡田茂弘 「縄文文化の発展と地域性－近畿」『日本の考古学II　縄文時代』 河出書房新社 1965

註2　梅原末治 「北白川廃寺阯」『京都府史蹟名勝天然紀念物調査報告』第19冊　京都府　1939

註3　1994年度発掘調査　未報告

註4　網　伸也 「北白川廃寺２」『平成２年度　京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所　1994

3　最勝寺跡・岡崎遺跡（94ＫＳ389）

調査経過（図26）

調査地は、左京区岡崎最勝寺町63番地で、京都市によるグランドなど、公園整備計画に伴い調査を実施した。当地は最勝寺跡、岡崎遺跡に該当する。

掘削工事の大半は下水道、グランド排水用の暗渠であり、その他に植木・トイレ基礎・電線埋設工事がある。調査は、掘削工事順にNo.1からNo.17まで地点番号をつけて実施した。なお、工事施工範囲の東側三分の二部分は1991年に発掘調査[注1]済みである。測量水準点は、道路上のマンホール上面を仮水準点±0とした。以下のマイナス数値は仮水準点からの計測値である。

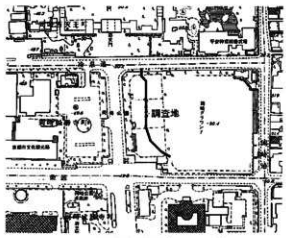


図26　調査位置図（1：5,000）

遺　構（図版32、図27・28）

No.2～6・13・17地点で土壙7基、No.8地点で溝1条を検出した。

No.2地点（－36cm）では、無遺物となる粗砂層を切って、南北幅4.5m、深さ0.67mの土壙を検出した。埋土から平安時代の土師器、瓦類、凝灰岩片が出土した。

No.3地点（－45cm）では、南北幅2.1m、深さ0.7mの土壙を検出した。埋土から、瓦類が多量に出土した。

No.5地点（－38cm）では、南北幅1.3m、深さ1.0mの土壙を検出した。埋土から多量の瓦類が、出土した。

No.6地点（－51cm）では、南北幅1.1m以上、深さ0.35m以上ある土壙を検出した。埋土から、軒平瓦3点を含む多量の瓦類が出土した。

No.8地点（－63cm）では、無遺物

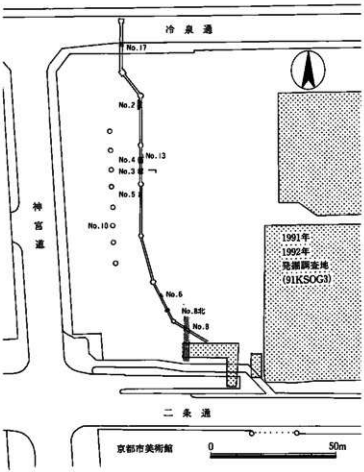


図27　遺構位置図（1：1,500）

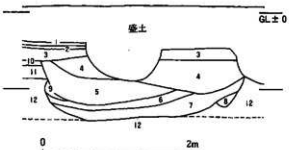


図28　遺構断面図（1：50）

の粗砂層を切って、幅2.7m、深さ0.8mの南北溝を検出した。この溝は掘削断面と直交しておらず、実際には幅約2.5mである。埋土からは、鎌倉時代の土師器と軒瓦が出土した。なお、この溝は、調査地点から4m南側の発掘調査でも確認されている。

No.13地点（－50cm）では、幅3.0m、深さ0.1m以上の土壙を検出した。埋土から軒平瓦が出土した。

No.17地点（－45cm）では、幅1.0m以上、深さ0.2mの土壙を検出した。埋土から瓦類が出土した。

遺　物（図29）

出土した軒瓦は、軒丸瓦1点、軒平瓦6点で、時期はいずれも平安時代後期である。他に、瓦と共に土師器皿もわずかに出土している。軒平瓦の成形技法は、折曲げ式のみで接合式はなく、すべて山城産である。

単弁十葉蓮華文軒丸瓦（1）　中房に蓮子はなく、内区の弁を取り囲むように弁間文が連結してめぐる。外区の珠文は小さい。外縁幅は左右は広く、上下は狭くなり、瓦当面は左右に長い楕円形になる。瓦当裏面に指オサエ痕が多くつく。笵はC型。色調は灰褐色。No.8地点出土。

三巴文軒平瓦（2）　瓦当部右端の破片。内区に右巻巴と左巻巴を配する。瓦当部成形技法は折曲げ式。色調は明褐色。No.8地点出土。

唐草文軒平瓦（3）　中心飾りはなく、左右に均整状に唐草文が展開する。瓦当部成形技法は折曲げ式で、瓦当裏面に粘土を付加して補強し、横方向の指オサエをする。瓦当部凹面はヘラケズリで、一部内区にいたる。胎土の中心部が黒色、まわりは灰色、外表面は黒いイブシ。砂粒を多く含む。No.6地点出土。この地点から同文瓦が他に1点出土している。

均整唐草文軒平瓦（4）　瓦当部右半分の破片。三葉の唐草文が2反転し、界線が唐草文を切る。瓦当部成形技法は折曲げ式で、文様面に布目痕が残る。瓦当裏面に粘土を付加して補強し、縦方向にヘラケズリ調整。瓦当部凹面はヘラケズリ。No.6地点出土。

唐草文軒平瓦（5）　極端に狭い内区に主葉のみの唐草文、界線の外には小さく密な連珠を配する。瓦当部成形技法は折曲げ式で、瓦当裏面に共土を付加する。付加粘土の剥離面に縄目タタキ痕があり、叩き板による調整が考えられる。文様面には布目痕が残る。胎土は灰黒色、軟質。No.13地点出土。

剣頭文軒平瓦（6）　剣頭文は大きく、やや不ぞろいである。瓦当部成形技法は折曲げ式で、布目痕が瓦当裏面にまでみられる。瓦当部凹面を厚くヘラケズリする。胎土は、白色砂粒が多く

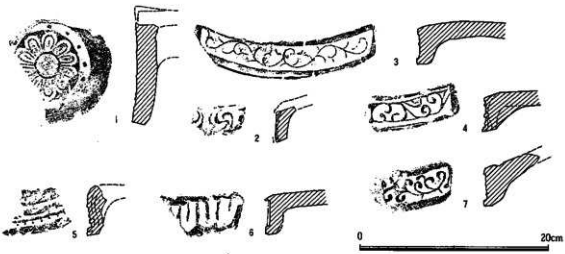


図29　瓦拓影・実測図（1：4）

灰黒色、軟質。No.10地点出土。

唐草文軒平瓦（7）　瓦当部右半分の破片。唐草文が右から中心部に向けて展開する。瓦当部成形技法は、鈍角をなす半折曲げ式で、瓦当部裏面に横方向の指オサエ痕が並ぶ。平瓦部凹面に瓦当笵の打圧による褶曲痕がある。胎土は灰白色で軟質。南庄田瓦窯産。機械掘削中の排土より出土。

ま と め

岡崎地域は、明治時代には博覧会場、敗戦後は進駐軍の駐屯地となり、その後グランドとして整備された経過がある。そのため最勝寺の遺構面が著しく削平され、今回のNo.8地点で検出した南北溝などの深い遺構だけが残存したと考えられる。この溝は、発掘調査での検出分6mを含めて、約16mの間を確認したことになる。現在、最勝寺の寺域が確定されておらず断言できないが、最勝寺東限溝の可能性が高い。

また、No.3・5・6地点の土壙からは、最勝寺に関係すると考えられる多量の瓦類が出土した。出土した瓦を神宮道での立会調査[註2]で出土した瓦の状況と比べると、破片が小さく、後世に耕作などの障害物として埋め直した可能性もある。

（尾藤・吉村・竜子）

註1　内田好昭他「最勝寺跡・岡崎遺跡」『平成3年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1995

註2　尾藤徳行・吉村正親「最勝寺跡・岡崎遺跡（94KS257）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成6年度』　京都市文化観光局　1995

4　尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡（95ＫＳ62）

調査経過（図30）

調査地は、左京区岡崎最勝寺町・成勝寺町に所在する二条通、神宮道、冷泉通西側にかけての道路と歩道上で、関西電力埋設管布設に伴い1995年５月９日から８月９日まで調査を実施した。調査範囲は５m間隔に地点番号を付け、それを単位として遺構、遺物の登録基準とした。

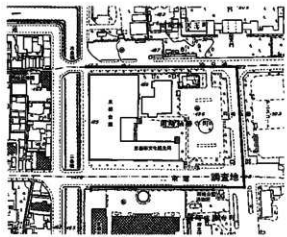


図30　調査位置図（1：5,000）

当地は、平安時代後期に白河に造営された六勝寺の中にあり、平安京の二条大路を延長した二条大路末で尊勝寺・最勝寺の寺域内にも相当することから、これらに関連した遺構や遺物の検出が予想された。さらに弥生時代から古墳時代の岡崎遺跡の範囲にも含まれる。

調査の結果、二条大路末に関する遺構群、最勝寺と尊勝寺寺域内の建物基壇の地業、大量の瓦を含む土壙などを検出した。なお、調査は工事掘削範囲内の遺構を確認しながら行い、重要な遺構や遺物の発見に際しては工事関係者の協力により、部分的に発掘調査に切り替えた。それ以外は５m間隔ごとに断面観察と計測を行って、旧地形の状況を明らかにすることとした。

遺　構（図版33・34、図31～36）

今回の調査で確認した遺構は総数71基あり、古墳時代から江戸時代にわたり、その中でも平安時代のものが多数を占め、六勝寺に関する建物の地業やそれに関連する瓦溜・土壙などがある。

調査範囲内の基本層序は各地区ごとに異なるが、神宮道の二条通以北から冷泉通まで、冷泉通の神宮道交差点から西50m間は、現地表下0.25m前後が道路舗装で、次いで厚さ0.2mの近代整地土、その下が厚さ0.5mの時期不明の褐色泥砂層があり、その下が平安時代の遺構面となる。それ以外の地区では現地表下0.3m前後が道路舗装、次いで厚さ0.6mの黒褐色泥砂層、厚さ0.2m程の黒褐色砂泥層、厚さ約0.1mの暗褐色砂泥層、その下が平安時代の遺構面となり砂層は古墳時代の遺物包含層である。ただ二条通の神宮道交差点より西では、交差点付近で現地表下から1.3m程でこの土層が確認できるのに対し、それ以外の地点では、現地表下1.85～2.0mでようやく古墳時代の遺物包含層が確認でき、その層の直上まではいずれも平安時代後期の遺物が包含されていた。以下、各通りごとに検出した遺構について概略する。

二条通　この区間は、道路南側の歩道部を疏水脇から神宮道交差点部まで横断するもので、西端疏水脇を起点No.10とし、以後東に５m間隔で神宮道交差点折れ曲がり部No.54まで割り振り、断面観察や遺物取り上げの単位とした。この間は基本層序でも触れたように、平安時代の遺構深度が他の地点に比べかなり深い。ただこの傾向は神宮道交差点の西端No.51東1.4mまで続いた後、現地表下1.3mまで急に立ち上がっていたことが判明した。また現勧業館への埋設管引き込みの

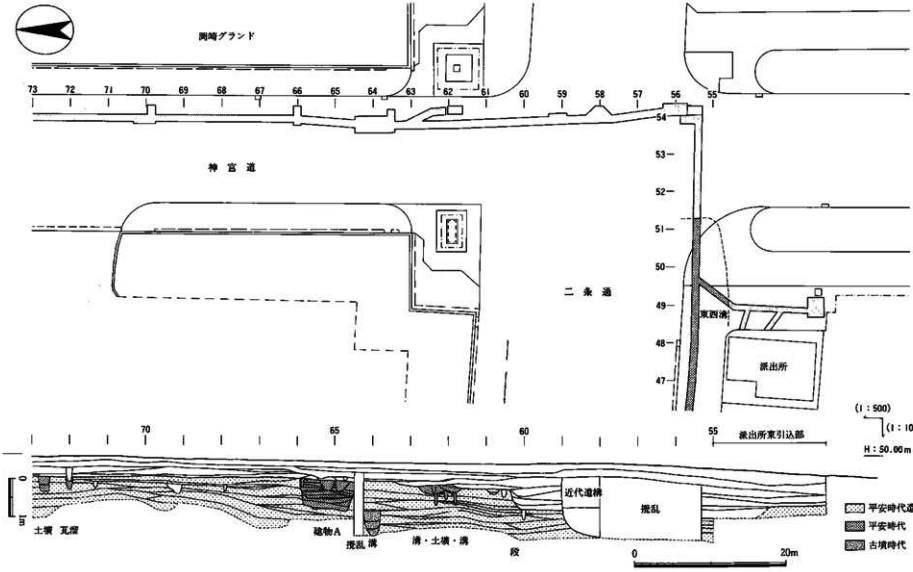


図31 二条通・神宮道調査位置・断面図1

際の調査でも歩道と敷地境界付近で現地表下より1.4mで立ち上がっていた。しかもその周部付近には平安時代後期の瓦が密集して認められた。1992年の勧業館内での発掘調査成果によると、二条大路の南側溝が確認されなかったこと、平安時代の検出面が現地表下1.4m前後であることから、今回歩道内で確認した平安時代の遺物包含層は、北側の立ち上がりは確認されていないが、幅5m以上、深さ0.7mの東西方向の細長い大規模な遺構と考えられ、二条大路末の南側溝の可能性が高い。1994年の神宮道の二条通から冷泉通にかけての水道管埋設工事に伴う立会調査（94KS257）[注1]で確認した、南北幅4.6m以上、深さ0.44mの東西方向の溝状遺構とほぼ同規模で、深さはそれより上回るものである。両者とも平安時代後期の溝状の堆積が各々確認でき、二条大路末の両側溝と考えられる。溝が立ち上がった東側では、幅0.25m以上、深さ0.1mの土壙状の遺構が1基あり、その中には河原石が詰まった状態で認められた。

神宮道二条通から冷泉通間　この区間は、No.55を起点として神宮道を北へNo.87までとした。この間で41基の遺構を確認した。平安時代に属するものは建物の地業、瓦溜、柱穴、土壙などがある。No.55～59までは、既存管埋設による撹乱が著しく残存状態が悪かったが、No.55では、土層を確認することができた。ここではNo.51以東と同様、現地表下1.3mで無遺物層の砂層が認められた。No.60から北1.4mで0.66mの急激な段差が認められ、それより以北は、現地表下0.6m前後と浅いところで遺構群が確認できる。この段差の裾部と肩部で、各々径0.4～0.6m、深さ0.2～0.3mの時期不明の柱穴を1基ずつと肩部に土壙1基が認められた。No.62付近では、少なくても10基以上の土壙や柱穴が重複した状態で確認された。94KS257の調査で確認した遺構の延長上に相当するが、該当する溝状遺構は認められず、小規模な遺構群が立地するような場所であったと考えられる。No.64では現地表下1.3mで南北幅2.05m、深さ0.65mの断面U字形の溝状遺構が1条確認され、堆積層中から庄内式並行の土器群が出土した。

No.64～66間では掘込み地業のある建物跡を1基確認した。その地業は南北幅6.5m以上、深さ0.8mである。南端は既存管により撹乱を受け詳細は不明であるが、北端は基壇造成後、掘込みを行い幅0.24m、厚さ0.24m、長さ0.69mの凝灰岩地覆石が据えられているのが確認された。石の上面には幅8cm、深さ3cmのくり込みがあり、羽目石の受けと考えられる。また基壇上面には径1.6～1.75mの円形を呈する礎石据付け跡を南北に2箇所で確認した。据付け跡の中には、径30cm前後の河原石5～6個を円形

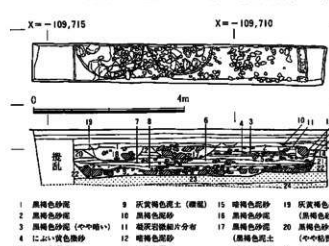


図32　神宮道No.64～66間建物A平面・断面図（1：100）

に配して据えていたことから、これらの石は根石と考えられる。両者の心々間は、約2.1m(7尺)を測る。掘込み地業の最下部には、厚さ15cmで径15～30cmの河原石を密に敷き詰め、その上に厚さ10cmで小さな河原石を敷いて固めた後、小石混じりの土、砂、微砂、土を順に叩き締めて積んでいるのが確認された。

No67～72間では、径0.28m、深さ0.20mと径0.38m、深さ0.17mの柱穴状の遺構や径0.9m、深さ0.2mの土壙状の遺構があり、遺物の出土はないが平安時代後期の遺構面の下層より検出したことから、それより古い時期と考えられる。

No72では、江戸時代と平安時代後期の遺構が重複して検出された。後者は、径0.8m、深さ0.36m、断面U字形を呈し、埋土中から瓦と共に緑釉土塔が1点出土した。

No72～73間では、径1.45m、深さ0.41mの土壙が1基あり、底近くから12世紀代の土師器が多量に出土した。

No73～74間では径1.1m、深さ1.1m以上の円形石組井戸を1基確認した。井戸枠の上部は河原石組であるが、ほとんどが崩れていた。下部は径0.55mの桶を利用した井筒であった。筒内からの遺物の出土は、ほとんど認められない。この井戸のすぐ北で径2.75m、深さ1.1mのほぼ円形を呈する土壙を1基確認した。底付近には、径8～15cmの河原石を均一に含むが、内部施設を示す痕跡は認められない。両者とも江戸時代に属する。

No75～79間では径0.75m、深さ0.1m前後で底に凹凸のある浅い土壙が1基、同様の径2.02m、深さ0.12mの土壙が1基と、径1.02m、深さ0.26mのレンズ状を呈する土壙が1基あり、この遺構内には径10cm前後の河原石を均一に含

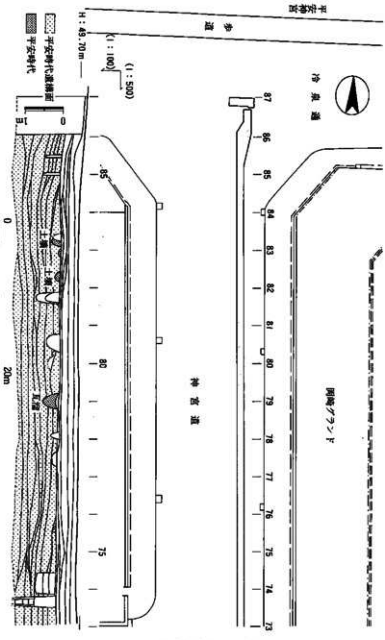


図33　神宮道調査位置・断面図2

んでいた。前者からは遺物の出土がなく時期が不明であるが、後2者は江戸時代である。

No.79では径2.1m、深さ0.42mの平安時代後期の瓦溜があり、多量の遺物が出土した。

No.80～82間では時期不明の土壙を2基、層位関係から平安時代より古い土壙を1基確認した。

No.82では径1.5m、深さ0.18m、径1.2m、深さ0.1mのいずれも浅い土壙を2基確認し、平安時代後期の遺物が出土し、後者の中には凝灰岩の破砕片が均一に含まれる。

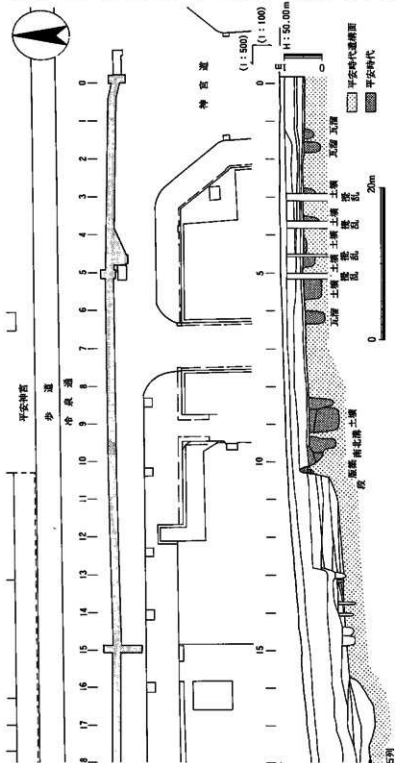


図34　冷泉通調査位置・断面図1

No.83では時期不明の土壙が2基重複して認められた。

No.85～86間では、径0.3～0.33m、深さ0.5m前後の柱穴を2基南北に確認した。両者の心々間は2.31mを測る。埋土中から遺物の出土がなく、時期は不明である。

冷泉通神宮道から疏水間

この区間は、道路中央部を掘削することから夜間調査となった。そのためこの区間だけは独自に番号をふり、神宮道冷泉通交差点の折れ曲がり部分を起点No.0とし、以後西に、5m間隔にNo.40まで通し番号を付けた。

No.0～12間ではNo.7～8間を除くと、1ないし2基の土壙、瓦溜を確認した。その内No.5・6間とNo.8・9間の瓦溜は、東西3m以上、深さ0.7～0.82mを測る大規模なものである。

No.9では、幅2.0m、深さ0.72mを測る南北方向の溝状遺構を1条確認した。これは94KS257の調査において当地の南側で確認している。またこの遺構の西側で、幅1.15m、

厚さ0.38mの規模で版築状の盛土を確認した。

このことから、これらの遺構は築地とそれに伴う内溝と考えられる。さらに盛土の西は、0.75mの急激に下がる段差が存在する。掘部は平坦になり、神宮道の段差部で検出した柱穴のような施設は、確認できなかった。

№11～15間までは江戸時代の暗渠や溝状遺構、柱穴、平安時代後期の瓦を混入する江戸時代の瓦溜などがある。

№15から西3.7mで0.55mのやや浅い段がみられる。段の肩部に沿って、多量の瓦が廃棄された状態で認められた。

№18で南北方向の河原石組列1条とそれに伴う幅0.82m、深さ0.25mの溝状遺構を検出した。この溝の下部には溝より古い、径0.28m、深さ0.4mの柱穴が認められた。しかし、今回の調査ではこれに対応するような遺構が認められなかったことから、規模や性格については不明である。

№21の西3.5mで重複する江戸時代の遺構群があり、その脇に0.2m程の小さな段があり、その西には河原石組を伴う南北の雨落溝を1条確認した。溝は、幅0.4m、深さ0.25mの断面U字形を呈し、

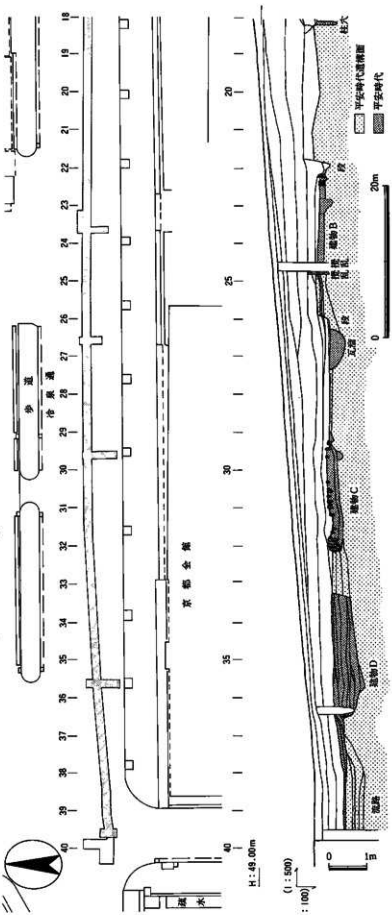


図35　冷泉通調査位置・断面図2

両肩部には各々幅0.55mの範囲に３石ずつ河原石を平坦面を上にして敷く。石組の掘形内やそれより西には、厚さ0.15m内に導く密な版築による整地層が確認できたことから建物基壇と予想される。この層の範囲が、№24西２mの地点で確認した既存管の攪乱を境にして認められないことから、その建物規模は東西約12m前後と考えられる。

№25西４mで0.2mの浅い段があり、それから６mの範囲に大規模な瓦溜が認められる。

№29～33間でも、河原石組を伴う雨落溝が確認された。溝は北東隅と北西隅を確認したことから、心々間で東西12.75mを測る。溝は、幅0.5m、深さ0.3mの断面U字形を呈する。両肩部には幅0.7m前後で河原石を３列敷く。ただ南側歩道内の同年の大阪ガスの立会調査では、径50cm程の

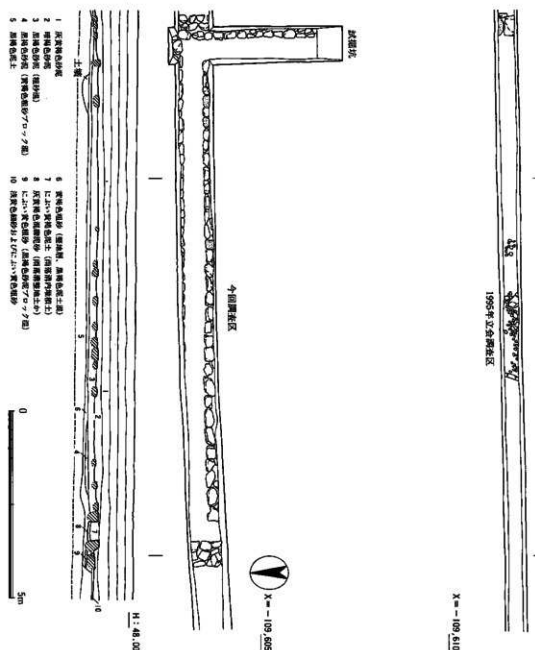


図36　冷泉通No.29～33間建物Ｃ平面・断面図（1：100）

大きい偏平な河原石を据えているのが確認されていることから、場所によって河原石の大きさや敷き方が異なっている可能性がある。建物基壇に相当する範囲内には明瞭な版築層は確認できなかった。なお北東隅内側河原石組付近の下層から幅1.1m、深さ0.2mの浅い土壙を1基確認し、その中から12世紀前半の土器群が出土することから、建物の上限年代を知る手がかりが得られた。

No.33～37間では、東西18m以上にわたって建物基壇に伴う掘込み地業を確認した。掘込みの深さは最大0.85m、平均0.65mを測り、底には厚さ10cmで径10～30cmのやや大きな河原石を敷き、その上には厚さ0.05～0.15mの小礫混じりの黒褐色泥土、もしくは泥砂と厚さ数cm以下の褐色泥土を互層に積んでいるのを確認した。地業の上面には東西方向の河原石が1列あり、それが基壇の外装施設の一部と考えられる。なお版築の整地層内から北宋期の白磁片や11世紀後半から末の土器類がまとまって出土することから、地業をする際に何らかの祭祀を行ったと想像できる。

No.37以西では、西に下がる落込みが認められ、落込みの最下部には古墳時代の土器を含む堆積層があり、さらに上部の堆積層内から、11世紀後半から末の土器群や小礫を均一に含む層を確認した。このことから、古墳時代から形成された落込みが寺院造成直前まで存在し、その造営時にあたって整地した可能性が考えられる。

No.39西2.5mより以西は、既存管埋設による攪乱のため土層観察は不可能であった。そのため現在の疏水とNo.37で検出した落込みとの関連、寺院造営時の整地の関連は今後の課題となった。

遺　物（図版35～38、図38～43）

出土した遺物は、古墳時代から江戸時代にわたり、なかでも平安時代後期のものが圧倒的多数を占め、次いで江戸時代、古墳時代となり、平安時代前期から中期のものはごくわずかである。古墳時代のものは岡崎グランドの調査成果と同様庄内並行期のものが主で、江戸時代は後期に属する陶磁器類である。平安時代後期のものは瓦類が圧倒的多数を占め、土器類はほんのわずかに過ぎず、ここで掲載したのは、丸瓦・鬼瓦・緑釉土塔各1点以外すべて軒丸・軒平瓦である。ここでは、調査区の二条通・神宮道出土分と、冷泉通神宮道から疏水出土分を分けて説明する。また、冷泉通神宮道から疏水間出土分は、調査地点ごとに扱った。

二条通・神宮道（図版35～38、図38～41）　出土遺物は整理箱に86箱分である。大部分が瓦類で、土器はごくわずかである。瓦類の大半はNo.79から出土している。軒瓦の点数は、軒丸瓦67点、軒平瓦23点である。他に緑釉土塔1点がある。軒瓦の時期は、1点（2）を除き大半が平安時代後期である。

遺物の出土地点は、1（No.19）、2・3（No.26）、4（No.36）、5（No.50）、6（No.53）、7（No.61～62）、8～20（No.72）、21～26（No.75）、27～29（No.77）、30～32（No.82～83）、33～64（No.79）、65（No.80）である。

偏行唐草文軒平瓦（1）　唐草文は、左から右方向に展開。瓦当部成形技法は、包込み式で、瓦当側端を丸く仕上げる。瓦当面に白いハナレ砂が付着。黒色イブシ。灰色、硬質。播磨産。

三巴文軒丸瓦（2）　多孔質、灰色、やや軟質。近世瓦である。

複弁蓮華文軒丸瓦（3）　蓮弁は互いに接し、二重界線の内側より弁間文が付く。灰白色、軟

質。播磨産。

単弁蓮華文軒丸瓦（4） 中房の蓮子は不明瞭、珠文は小さく、間隔はやや広い。瓦当部側面下半はヘラケズリ、瓦当面を偏平につくる。黒色イブシ。多孔質、淡灰黄色、軟質。山城産。

偏行唐草文軒平瓦（5） 顎は浅い段顎。淡灰色イブシ。多孔質、灰色、やや軟質。

蓮華文軒丸瓦（6） 厚い菊花状の八葉蓮弁で、弧状に連結する界線が蓮弁を取り巻く。黒色イブシ。チャートを多く含み、多孔質、灰色、軟質。山城産。

複弁蓮華文軒丸瓦（7） 蓮弁は互いに接し、ハート状に崩れる。界線はなく、すぐ外縁となる。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、上下に粘土を付加して接合。瓦当面には粗いハケメ状の条痕がみられる。瓦当部上面はタテヘラケズリの後、ヨコナデ。黒い砂粒が多く、灰白色、硬質。播磨産。

蓮華文軒丸瓦（8） 蓮弁の盛り上がりはきわめて薄く、不均等に割り付けられた蓮弁を界線と間弁が囲む。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、上下に粘土を付加して接合。暗灰色イブシ。淡黄灰色、軟質。播磨産。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（9） 中房には１＋６の蓮子。蓮弁は細い界線で画される。瓦当部全面に漆黒の自然釉がかかる。黒色、硬質。播磨産。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（10）（9）と同文、やや大型。瓦当部裏面上部に溝をつくり丸瓦を差し込み、上下に粘土を付加して接合。灰色、硬質。播磨産。No.79地点出土の瓦と同一個体。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（11） 中房には１＋６の蓮子。文様形態は（9）と同じで、蓮弁は小さく、界線・区画線はやや太い。黒色イブシ。淡灰白色、やや軟質。播磨産。

二巴文軒丸瓦（12） 右巻き巴文。頭部は離れ、尾部は互いに接して界線となる。珠文は12個で大きい。瓦当部裏面上部に比較的薄い丸瓦を当て、上下に粘土を付加して接合。瓦当部裏面タテナデ。丸瓦部凸面は格子目のタタキ。内区上部に笵傷が認められる。暗灰色イブシ。多孔質、灰色、軟質。同笵品は枚方市淀川河床より出土している。

半截華文軒平瓦（14） 瓦当部右端の破片。簡略化した花文を外縁から下向きに配する。瓦当部成形技法は半折曲げ式。黒色イブシ。胎土の芯は漆黒、やや軟質。山城産。

半截華文軒平瓦（15）（14）と同文の小片。灰白色、やや軟質。山城産。

蓮弁文軒平瓦（16・17） 蓮弁を横一列に配する。瓦当部成形技法は、半折曲げ式。（16）は明褐色、（17）は灰白色、いずれも軟質。栗栖野窯産。

唐草文軒平瓦（18～20） 唐草文が大きく反転する一群。瓦当部成形技法は、半折曲げ式で、（18）は平瓦面全体に布目痕が残る。いずれも不完全なイブシ。（18・19）は褐色、軟質、（20）は灰白色、軟質。産地は、栗栖野を中心とした地域。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（21・22） 文様形態は同じで、（22）の蓮弁がやや大きい。中房に１＋６の蓮子を配し、細い界線で画す。瓦当部裏面上部に溝をつくり丸瓦を差し込み、上下に粘土を付加して接合。いずれも全面黒色イブシ。（21）は灰色、軟質、（22）は灰黒色、硬質。播磨産。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（23） 中房は１＋６の蓮子。蓮弁の形はやや不明瞭で、外区に二重界

線が巡る。瓦当部裏面上部に溝をつくり丸瓦を差し込み、上下に粘土を付加して接合。瓦当面全面に指紋が多く残っている。灰白色、硬質。播磨産。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（24） 文様が不明瞭でかなり退化する。瓦当面に指紋、笵傷が多く残っている。瓦当部裏面上部に溝をつくり丸瓦を差し込み、上下に粘土を付加し接合。灰黒色イブシ。多孔質、軟質。山城産。

二巴文軒丸瓦（25） 右巻き巴文。珠文の大きさ、間隔は不揃いである。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、上下に粘土を付加し接合。淡灰色イブシ。多孔質、淡黄灰色、軟質。

単弁十二葉蓮華文軒丸瓦（26） 中房は１＋４の蓮子。蓮弁に意図的なハケメ疵を施す。笵型の割れがあり、文様がずれる。暗灰色イブシ。多孔質、灰色、やや軟質。播磨産か。

単弁十八葉蓮華文軒丸瓦（27・29） 小ぶりの瓦。蓮弁の割り付けが均等でなく、文様が歪む。瓦当部側面下半のヘラケズリで、瓦当面は左右に長い楕円を呈する。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、粘土を付加し接合。共に淡灰色イブシ。（27）は灰白色、軟質。（29）は灰黒色、軟質。山城産。（29）の上半部はNo.82～83地点出土。

唐草文軒平瓦（28） 小片。瓦当部裏面に溝をつくり平瓦を差し込み、上下に粘土を付加し接合。全面に自然釉。灰色、硬質。播磨産。

複弁蓮華文軒丸瓦（30） 中房は１＋４の蓮子、珠文は二重圏線の中に配する。暗灰色イブシ。多孔質、灰色、軟質。山城産。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（31）（７・22）と同笵。暗灰色イブシ。淡灰色、硬質。播磨産。

唐草文軒平瓦（32） 瓦当部右端の破片。瓦当部成形技法は、折曲げ式。瓦当部凹面・顎部凸面ヘラケズリ。顎部に朱が付着。暗灰色イブシ。多孔質、灰白色、軟質。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（33・45） 同笵。弁部はやや厚手で、外区に二重の界線がめぐる。（33）は漆黒イブシ。（33）は淡黄白色、軟質、（45）は灰白色、硬質。播磨産。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（34・42～44） いずれも同文で、（44）は蓮弁を一回り小さく作る。いずれも灰色、硬質。播磨産。これらと同文瓦は、No.72・75・82～83地点でも出土しており、もっとも出土数が多い。

単弁十六葉蓮華文軒丸瓦（35・36） いずれも（27・29）と同文である。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、上下に粘土を付加して接合。（35）の丸瓦部凸面に縄目タタキと、２条のヘラ記号「＼」あり。（36）は黒色イブシ。（35）は淡黄褐色、（36）は暗灰色、いずれも軟質。山城産。

巴文剣頭文軒丸瓦（37） 中房に右巻きの三巴文、内区に珠文、外区に剣頭文を配する。断面形は（36）と共通点が多い。暗灰色イブシ。灰色、やや軟質。山城産。

宝相華文軒丸瓦（38） 花芯は小さく、十字形の花弁を二重に重ねる。連珠は６個で、小さく間隔は広い。暗灰色イブシ。多孔質、暗灰色、やや軟質。山城産。

単弁蓮華文軒丸瓦（39） 小片。内区に幅広の蓮弁と外縁に接するT字状の間弁を配する。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、上下に粘土を付加して接合。黒色イブシ。淡黄褐色、軟質。山城産。

単弁蓮華文軒丸瓦（40） 小剝片。連結する間弁が蓮弁をとり囲み、外区に小粒の珠文を粗く

配する。黒色イブシ。黒色、軟質。山城産か。

単弁蓮華文軒丸瓦（41） 蓮弁の先が剣頭文状で、蓮弁は16葉と考えられる。瓦当部裏面上部に溝をつくり丸瓦を差し込み、上下に粘土を付加して接合。瓦当部上面に叩き板状の痕が付く。瓦当面に黒色イブシ。多孔質、褐灰色、硬質。

蓮華文軒丸瓦（46）（8）と同笵で、成形技法も同じ。黒色イブシ。灰白色、軟質。播磨産。

複弁八葉蓮華文軒丸瓦（47） 中房には1＋8の蓮子、外区外縁上に珠文を密に配する。瓦当側面全体に粗い縄目タタキによる調整。蓮弁左方に笵傷。瓦当面に灰黒色イブシ。多孔質、淡黄灰色、軟質。山城産。

二巴文軒丸瓦（48・49） 同一個体。右巻き巴文で、巴文、珠文は太く大きい。瓦当部裏面上部に溝をつくり丸瓦を差し込んで、上下に粘土を付加して接合。灰黄色、軟質。山城産。

複弁八葉蓮華文軒丸瓦（50） 中房には1＋4の蓮子。瓦当部裏面上部に溝をつくり丸瓦を差し込んで、上下に粘土を付加して接合。瓦当面上部に2条の笵傷。淡灰色イブシ。チャートを含み、灰黒色、軟質。山城産か。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（51）（30）と同笵。瓦当面右側に細い笵傷。瓦当部裏面上部に溝をつくり丸瓦を差し込み、上下に粘土を付加して接合。瓦当笵型はC型。灰黒色イブシ。灰色、軟質。山城産。

丸瓦（52） 丸瓦凸面にヘラ記号「×」がつく。淡黄褐色、軟質。山城産か。

三巴文軒丸瓦（53） 右巻き巴文で、頭部は互いに接し、尾部は離れる。瓦当笵型はB型。瓦当部側面の粗い縄目タタキ調整は（47）と共通する。灰黒色イブシ。淡黄褐色、軟質。山城産。

半截蕾文軒平瓦（54）（14・15）と同笵。瓦当部成形技法、調整は同じ。漆黒のイブシ。黄白色、軟質。山城産。

蓮弁文軒平瓦（55） 蓮弁11枚を横一列に配する。瓦当部成形技法は、半折曲げ式。平瓦部凹面にヘラ記号「＼」。明黄白色、軟質。山城産。

蓮弁文軒平瓦（56・57）（55）と同様の文様形態で、蓮弁を横一列に配する。瓦当部成形技法は、折曲げ式。（56）の平瓦部凸面にヘラ記号「＼」。（57）は黒色イブシ。（56）は明黄白色、（57）は黄褐色、いずれも軟質。山城産。

雁行文巴文軒平瓦（58） 中心飾りにくずれた雁行文を上下に2個、左右に各2個の三巴文を配する。瓦当部成形技法は、折曲げ式。瓦当部裏面は指オサエ。淡黒灰色イブシ。灰色、軟質。山城産。

均整唐草文軒平瓦（59） 宝珠状の中心飾りから太めの唐草文が左右に大きく3反転する。瓦当部成形技法は、半折曲げ式。平瓦部凹面に圧縮痕がみられる。瓦当面は暗灰色イブシ。5㎜大の小石を含み、灰白色、軟質。山城産。

均整唐草文軒平瓦（60） 宝珠状の中心飾りから、唐草が左右に3反転し、界線が全周する。平瓦部凹面はナデ。瓦当部成形技法は、包込み式。淡灰色、硬質。播磨産。

唐草文軒平瓦（61） 瓦当部左端の破片。瓦当部成形技法は、折曲げ式。灰色イブシ。灰白色、

軟質。山城産。

斜格子文軒平瓦（62） 瓦当文様をヘラ状工具で斜格子に描く。瓦当部成形技法は、半折曲げ式。淡黄灰色、軟質。山城産。同文の類例が鳥羽離宮南殿の調査で出土。

唐草文軒平瓦（63・64） 瓦当部左・右端の一部。瓦当部成形技法は、（64）が半折曲げ式。（63）は折曲げ式。いずれも灰黒色イブシ。、淡黄白色、軟質。丹波産。

宝相華文軒丸瓦（65）（38）と同笵か。瓦当部裏面上部に溝をつけ丸瓦を差し込み、上下に粘土を付加して接合。淡灰色イブシ。灰色、軟質。山城産。

緑釉土塔（13） 底部径7.5cm、高さ2.9cm。成形は型による。外面は、型抜きのための細かい布目痕が見られる。施釉は、上面のみで底部は無釉。土塔の出土例は、法勝寺跡、尊勝寺跡、鳥羽離宮跡、尾張国府跡などにあり、法勝寺跡が最も多い。

冷泉通神宮道から疏水（図42・43） 夜間立会の遺物は整理箱に58箱出土した。内容は大半が瓦類で、土器はごくわずかである。各調査地点から出土しているが、特にNo.6地点瓦溜、No.9地点土壙1・2、No.14地点瓦溜、No.20地点西瓦溜、No.22地点瓦溜、No.25地点瓦溜、No.26地点瓦溜からは大量に出土している。また、No.30～32地点建物雨落溝からも少量出土している。

瓦類には軒丸瓦36点・軒平瓦23点・丸瓦・平瓦・鬼瓦1点がある。時期は大半が平安時代後期で、一部鎌倉時代のものもある。軒瓦・鬼瓦出土地点は、66・73・83(No.25)、67・77・80・84(No.21)、68(No.20)、69(No.38)、70・72(No.3)、71(No.23)、74(No.28)、75(No.26)、76・78(No.9)、79・81(No.22)、82(No.30～32)、85(No.37)、86(No.26)、88(No.4)、87(No.28) である。

複弁八葉蓮華文軒丸瓦（66） 蓮弁・子葉を凸線で表す。間弁は棒状。瓦当笵はB型。瓦当部裏面上部に溝をつけ丸瓦を差し込み、粘土を付加して接合。瓦当部側面下半ヨコヘラケズリ、上半タテヘラケズリ。裏面オサエ。黒灰色、硬質。山城産。

単弁六葉蓮華文軒丸瓦（67） 蓮弁中央は窪み、子葉無し。瓦当笵はB型。瓦当部裏面上部に溝をつけ丸瓦を差し込み、粘土を付加して接合。瓦当部側面下半ヨコナデ、裏面ヨコナデ。丸瓦凸面タテナデ、凹面布目。黒灰色、やや軟質。山城産。

単弁九葉蓮華文軒丸瓦（68） 蓮弁・子葉を凸線で表す。間弁はT字状で連続する。瓦当笵はB型。瓦当部裏面上部に溝をつけ丸瓦を差し込み、粘土を付加して接合。瓦当部側面下半ヨコヘラケズリ、上半タテナデ。裏面ナデで外周ヨコヘラケズリ。黒灰色、硬質。山城産。

複弁九葉蓮華文軒丸瓦（69） 蓮弁・子葉を凸線で表す。瓦当部裏面上部に浅い溝をつけ丸瓦を差し込み、粘土を付加して接合。瓦当部側面ヨコヘラケズリ、裏面オサエ。黒灰色、やや軟質。山城産。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（70） 蓮弁・子葉を凸線で表す。瓦当部側面下半ヨコナデ、裏面ナデで外周オサエ。黒灰色、軟質。山城産。

単弁八葉蓮華文軒丸瓦（71） 蓮弁は上・下二重に4弁ずつ配する。蓮弁は花形で子葉あり。瓦当笵はB型。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、粘土を付加して接合。瓦当部側面下半ヨコヘラケズリ、上半タテヘラケズリ。裏面オサエで外周ヨコヘラケズリ。灰燈色、硬質。山城産。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（72） 子葉はわずかに盛り上がる。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、粘土を付加して接合。瓦当部側面下半ヨコナデ、上半不定方向ナデ。裏面ナデ。灰色、堅緻。播磨産。

単弁二十四葉蓮華文軒丸瓦（73） 蓮弁は棒状である。周りには蕊がめぐり、蓮弁と対応する。瓦当部側面下半ヨコナデ。裏面不定方向のナデ。灰色、堅緻。播磨産。

単弁八葉蓮華文軒丸瓦（74） 蓮弁は互いに接し、子葉無し。周りには蕊がめぐり、蓮弁と対応する。瓦当笵型B型。瓦当部裏面上部に溝をつけ丸瓦を差し込み、粘土を付加して接合。瓦当部側面下半ヨコナデ。裏面ナデ。灰色、堅緻。播磨産。

複弁八葉蓮華文軒丸瓦（75） 子葉有り。間弁は棒状。瓦当部裏面上部に浅い溝をつけ丸瓦を差し込み、粘土を付加して接合。瓦当部側面下半ヨコヘラケズリ。裏面ヨコナデ。暗灰色、硬質。大和産。

三巴文軒丸瓦（76） 右巻き巴文。頭部は離れ、尾部は互いに接して界線となる。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、粘土を付加して接合。瓦当部側面下半ヨコナデ、上半タテナデ。裏面オサエ後にナデ。暗灰色、硬質。山城産。

三巴文軒丸瓦（77） 右巻き巴文。頭部は離れ、尾部は界線に接しない。瓦当部裏面上部に丸瓦を当て、粘土を付加して接合。瓦当部側面上半タテナデ、裏面ナデ。丸瓦凸面タテナデ、凹面布目、側面タテヘラケズリ。黒灰色、やや軟質。

唐草文軒平瓦（78） 唐草文は両側から中心に2転する。主葉は連続して大きく反転し、子葉は強く巻き込む。瓦当笵はB型。曲線顎。瓦当部成形技法は半折曲げ式。瓦当部凹面ヨコナデ、布目端のまつりあり。顎部凸面・裏面ヨコナデ、側面ナデ。平瓦凹面布目、凸面ヨコナデ、側面タテヘラケズリ。平瓦凸面にヘラ記号「＋」あり。黄黒色、硬質。山城産。

唐草文軒平瓦（79） 唐草文は左から右に展開する。主葉は連続して大きく反転し、子葉は巻き込む。曲線顎。瓦当部成形技法は半折曲げ式。瓦当部凹面ヨコヘラケズリ。顎部凸面ヨコヘラケズリ、裏面ヨコナデ、側面ナデ。平瓦凹面布目、凸面ヨコナデ、側面タテヘラケズリ。平瓦凸面にヘラ記号「Ⅲ」あり。暗灰色、硬質。山城産。

唐草文軒平瓦（80） 唐草文は中心から両側に3転する。主葉は連続して緩やかに反転し、子葉は巻き込む。瓦当笵はB型。曲線顎。瓦当部成形技法は半折曲げ式。瓦当部凹面ナデ、布目端のまつりあり。顎部凸面ヨコヘラケズリ、裏面ヨコナデ、側面タテヘラケズリ。平瓦凹面布目、凸面タテナデ、側面タテヘラケズリ。黄黒色、やや軟質。山城産。

偏行唐草文軒平瓦（81） 唐草文は左から右に展開する。主葉は連続して大きく反転し、子葉は巻き込む。曲線顎。瓦当部成形技法は半折曲げ式。瓦当部凹面ヨコヘラケズリ、布目端のまつりあり。顎部凸面ヨコヘラケズリ、裏面ヨコナデ、側面タテヘラケズリ。平瓦凹面布目、凸面ヨコナデ、側面タテヘラケズリ。平瓦凸面にヘラ記号「＋」あり。暗灰色、硬質。山城産。

均整唐草文軒平瓦（82） 中心飾りは宝相華文で、唐草文は両側に2転する。主葉は連続して反転し、子葉は巻き込み、宝相華文を配する。段顎。瓦当部成形技法は、包込み式。瓦当部凹面ヨコナデ。顎部凸面・裏面ヨコナデ、側面タテナデ。灰色、堅緻。播磨産。

偏行唐草文軒平瓦（83） 唐草文は中央から両側に展開する。唐草文の主葉は連続して反転し、子葉は巻き込む。段顎。瓦当部成形技法は、包込み式。瓦当部凹面ヨコナデ。顎部凸面・裏面ヨコナデ、側面タテヘラケズリ。平瓦凹面ヨコナデ、凸面ナデ、側面タテヘラケズリ。灰色、堅緻。播磨産。

偏行唐草文軒平瓦（84） 唐草文は左から右に展開する。唐草文は陰刻で、主葉は連続して反転し、子葉は巻き込む。段顎。瓦当部成形技法は、包込み式。瓦当部凹面ヨコナデ。顎部凸面・裏面ヨコナデ、側面タテナデ。平瓦凹面・凸面タテナデ、側面タテヘラケズリ。灰色、堅緻。播磨産。

均整唐草文軒平瓦（85） 唐草文は右から左に展開する。唐草文の主葉は連続して大きく反転し、子葉は巻き込む。段顎。瓦当部成形技法は、折曲げ式。瓦当部凹面ヨコヘラケズリ。顎部凸面ヨコ縄タタキ、裏面下半縄タタキ、上半ヨコナデ。平瓦凸面タテ縄タタキ。暗灰色、やや軟質。丹波産。

均整唐草文軒平瓦（86） 唐草文は中央から両側に３転する。唐草文主葉は連続して反転し、３転目は外区から派生する。子葉は強く巻き込む。曲線顎。瓦当部成形技法は、包込み式。瓦当部凹面ヨコナデ。顎部凸面・裏面ヨコナデ。平瓦凹面タテナデ、凸面ナデ。灰色、堅緻。播磨産。

偏行唐草文軒平瓦（87） 中心飾りは上向きC字形で、唐草文は中央から両側に６転する。唐草文の主葉は連続して反転し、子葉は強く巻き込む。段顎。瓦当部成形技法は、顎部貼り付け式。瓦当部凹面布目、端部ヨコナデ。顎部凸面・裏面ヨコナデ。平瓦凹面布目、凸面ナデ、側面タテナデ。黒灰色、硬質。

鬼瓦（88） 顔面は盛り上がり、鼻は高く下面に鼻孔有り。頬は高く盛り上がる。上歯は４本、牙は大きく上だけに配する。成形は、笵型による。表面はナデで調整し、鼻両側はヨコヘラケズリ、鼻孔は棒による穿孔。側面タテヘラケズリ、抉形内はナデ。裏面は大きく窪みタテナデ。灰色、堅緻。

なお、産地の特定できないものに関しては、明記しなかった。

ま と め

今調査の結果、最勝寺と尊勝寺、並びに六勝寺の地割に関する新たな知見を得ることができた。1994年神宮道の二条通から冷泉通の立会調査[註1]により、最勝寺の南限と北限が明らかにされ、最勝寺の寺域が確定したかにみえた。南限に関しては、二条大路の北側溝想定位置で溝ないしは柱穴を確認し、また二条通南歩道部で南側溝に想定される東西方向の大溝を確認したことから、二条大路の位置が確定するにいたった。その結果、道幅は十七丈（約51m）となり、その場所は平安京の二条大路を延ばした位置にあたることから、二条大路末に関しては平安京の条坊を延長して施行されたことがほぼ確実になったといえる。ただ二条大路末の北側溝に関しては、1959年京都会館建設時の調査成果[註2]により想定位置と塔が余りに接近していること、1991年岡崎グランドの調査成果[註3]では想定位置より南に５m程ずれた位置に築地の地業がみられることなどから、必ずしも想定位置には施行されないと考えられ、尊勝寺の南限と最勝寺と法勝寺の間の街区は、二条大路

末に突きでたような構造となっていたと考えられる。

最勝寺の北限に関しては、1994年神宮道の調査で冷泉通交差点で検出した遺構から、冷泉小路末は現在の冷泉通北端を北築地心に、また道路中央で南築地心を想定した。今回の調査は南築地付近を行ったが、それに該当するものが確認できず、代わりに瓦溜・土壙などの遺構群を確認したことから寺域の北限はさらに北に延びていると考えられた。その結果、冷泉小路末に関しては、1976年平安神宮南側の調査で検出した東西の溝を北側溝に、冷泉通り北端検出の遺構を南側溝に想定し、1994年の見解をさらに北に四丈拡張した推定案を示したことになる。

また、今回確認した4棟の建物遺構のうち建物Aは、最勝寺の南限想定位置にきわめて近いことから門の可能性が考えられるが、そうすると門が南限より内側に引っ込んだ配置となる。また建物BからDについては、尊勝寺の寺域内で金堂より北に位置する。杉山信三氏による尊勝寺の伽藍配置[註4]と比較すると類似し、しかも各建物の規模も近似していることが判る。その結果、杉山案に基づくと建物Bは法華堂に、建物Cは経蔵に、建物Dは講堂の南東隅に各々想定できる。

（上村和直・堀内明博・吉村）

註1　尾藤徳行・吉村正親「最勝寺跡・岡崎遺跡（94ＫＳ257）」『京都市内遺跡立会調査概報　平成6年度』　京都市文化観光局　1995

註2　杉山信三他「尊勝寺発掘調査報告」『平城宮跡第一次　伝飛鳥板蓋宮跡　発掘調査報告』奈良国立文化財研究所　学報第10冊　奈良国立文化財研究所　1961

註3　内田好昭他「最勝寺跡・岡崎遺跡」『平成3年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1995

註4　上村和直　『六勝寺跡発掘調査〈推定尊勝寺阿弥陀堂跡〉現地説明会資料』（財）京都市埋蔵文化財調査研究所　1979

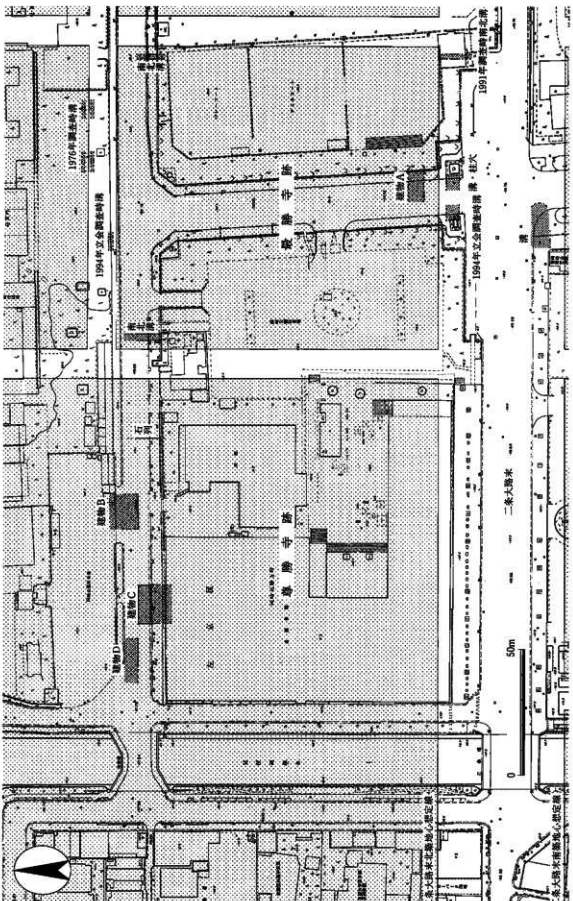


図37　尊勝寺・最勝寺条坊復原図（1：1,500）

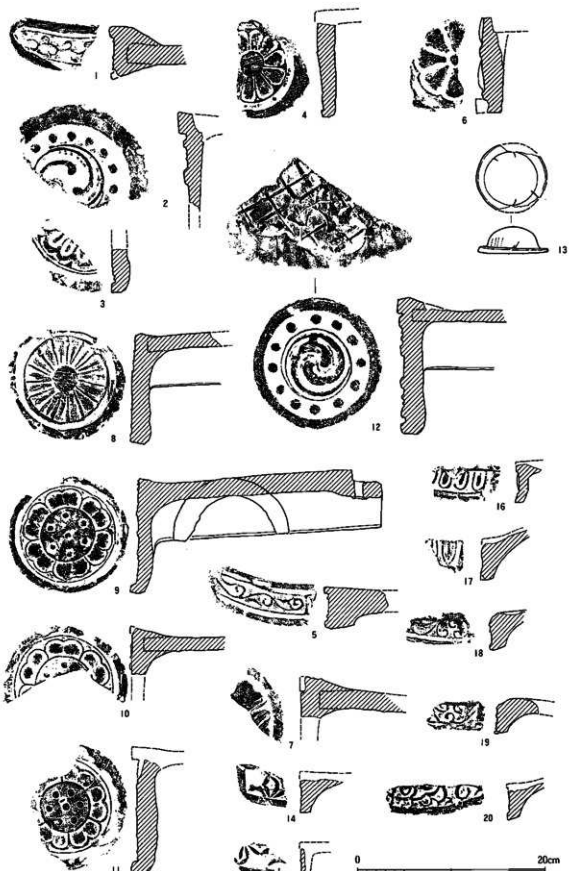


図38　瓦拓影・実測図（1：4）

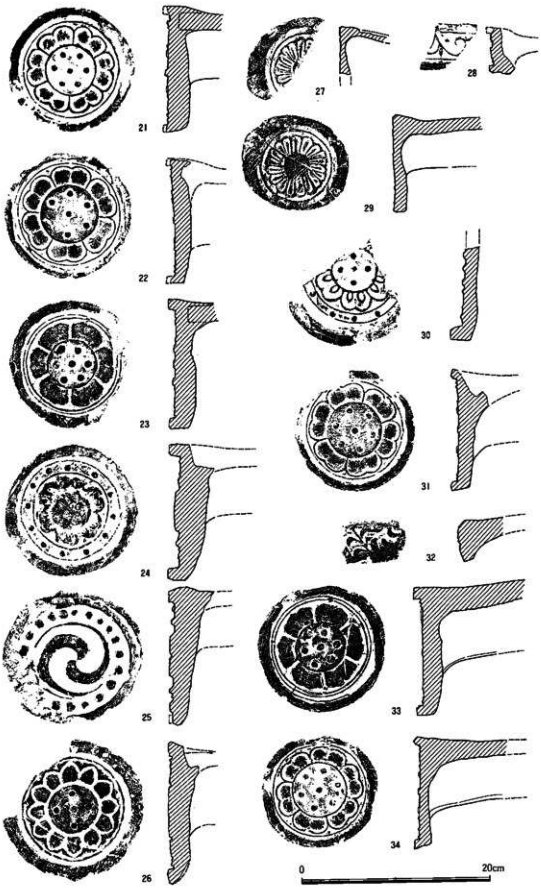


図39　瓦拓影・実測図（1：4）

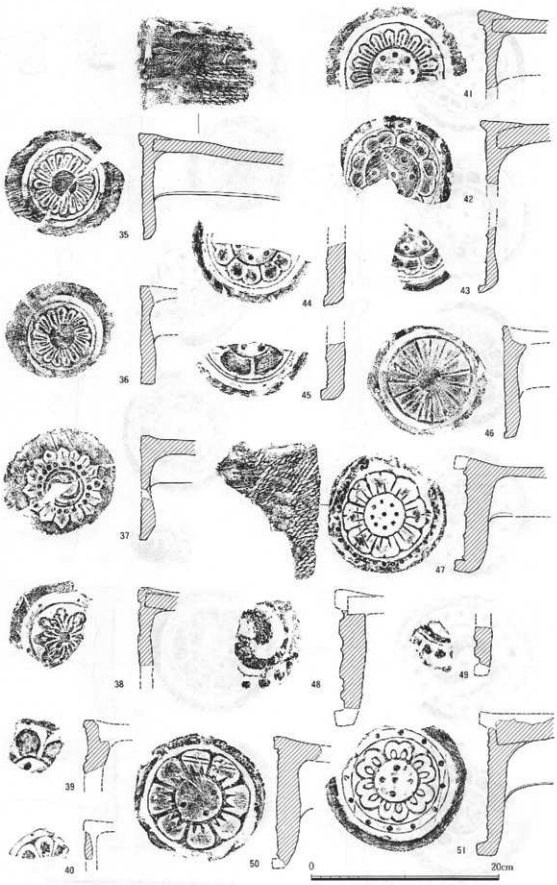


図40　瓦拓影・実測図（1：4）

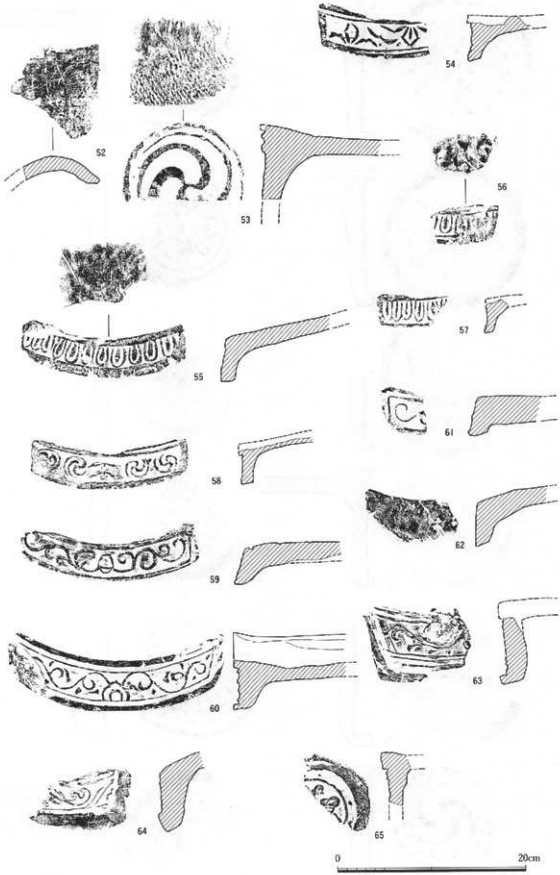


図41　瓦拓影・実測図（1：4）

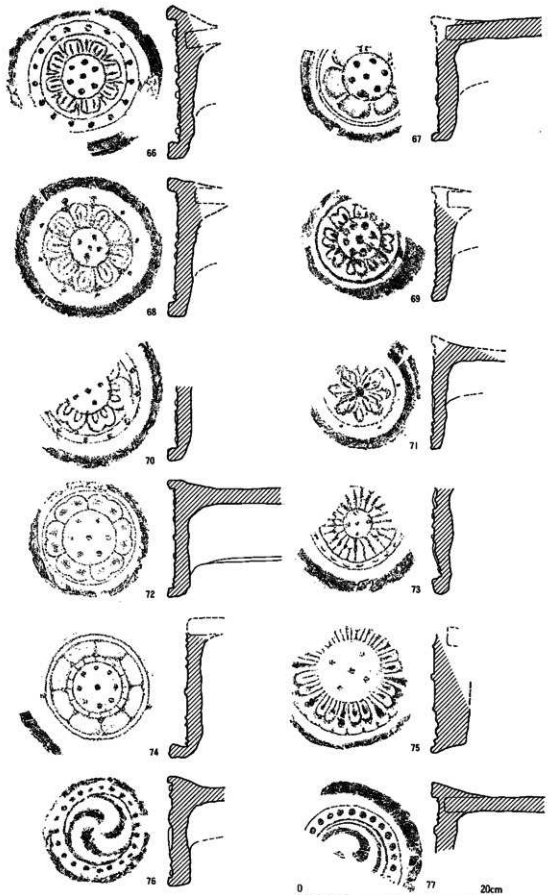


図42　瓦拓影・実測図（1：4）

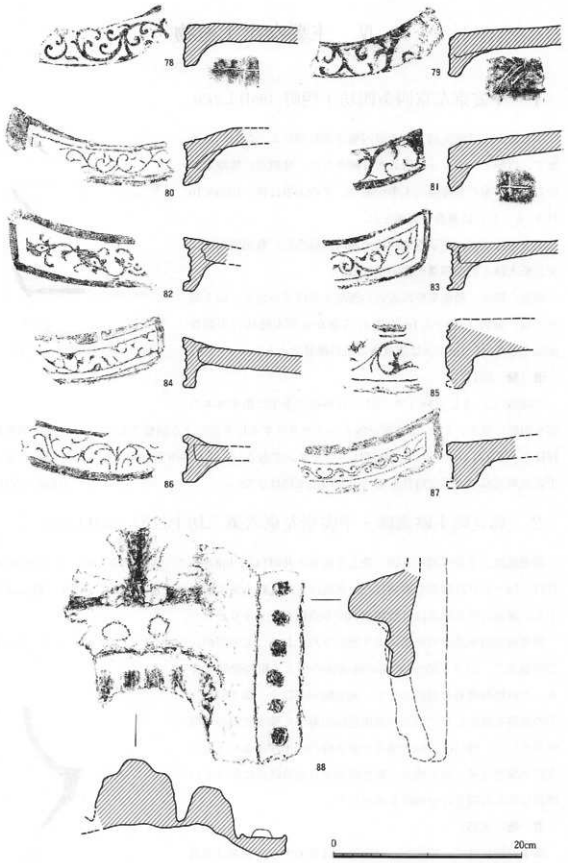


図43　瓦拓影・実測図（1：4）

Ⅳ　主要な出土遺物

1　平安京左京四条四坊十四町（95ＨＬ275）

中京区寺町通蛸薬師下る西側円福寺前町268-５、270、271番地で、店舗・マンション建設が計画された。建設前に敷地北側にある地下室の基礎撤去工事があり、その工事に伴い1995年10月４・６・11日に調査を実施した。

調査地は平安京左京四条四坊十四町に該当し、敷地東端には東京極大路と同西側溝が推定される。

調査の結果、敷地東側は近世の撹乱を受けていたが、No.１地点では、地表下1.4～2.1mの第４・５層から平安時代の土器類が出土した。2.1m以下は無遺物の粗砂礫層である。

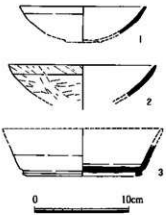


図44　遺物実測図（1：4）

遺　物（図44）

土師器（１・２）は楠Ａで、（１）は外面の下半に指オサエの痕を明瞭に残す。（２）は外面全体をヘラケズリするＣ手法による調整である。（３）は、須恵器杯Ｂで、体部はロクロナデ、底部はヘラオコシである。いずれも９世紀前半のものと思われる。平安京東辺部では平安時代前期の遺物の出土例は少ない。　（尾藤・吉村）

2　烏丸綾小路遺跡・平安京左京六条二坊十二町（95ＨＬ199）

調査地は、下京区醒ヶ井通六条上る佐女牛井町143、146番地で、店舗建設工事に伴い1995年８月11・14・23日に調査を実施した。当地は、烏丸綾小路遺跡、平安京左京六条二坊十二町に該当する。測量の仮水準点は、敷地北西の歩道縁石上を±０とした。

調査地の南半部は旧基礎により撹乱されており、北半部のNo.１地点では、水準点＋50～１cmまでが盛土で、以下－55～140cmが無遺物の粘土・粗砂礫層となる。この粗砂礫層を南肩として、南北幅90cm以上、深さ55cm以上の流路を検出した。埋土の黒褐色砂泥層から弥生土器が１個体出土した。他には、No.２地点で鎌倉時代の土師器皿を多量に含む土壙を３基、No.３地点で弥生時代から古墳時代にかけての磨滅した土器類を含む流路を検出した。

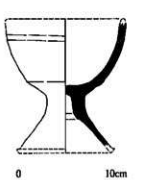


図45　遺物実測図（1：4）

遺　物（図45）

厚手の脚付鉢で、脚端部、口縁端部は欠失する。色調は赤褐色で表面は磨滅する。山城地域でのこの種の器形は、畿内第Ⅳ様式末から第Ⅴ様式の中頃までみられる。共伴遺物がなく時期

を明確にし得ないが、中臣遺跡の住居跡出土遺物[註]（第Ⅴ様式前半）に近い時期と考えられる。

（尾藤・吉村）

註　森岡秀人「山城地域」『弥生土器の様式と編年－近畿編Ⅱ』　木耳社　1990

3　得長寿院跡・岡崎遺跡（95ＫＳ274・289）

左京区岡崎徳成町10番地（95ＫＳ274）と同15-11番地（95ＫＳ289）の２箇所で鉄骨住宅の建築が計画され、その基礎工事に伴い1995年10月４・13・19日に調査を実施した。調査地は東大路通を挟んで西側（95ＫＳ274）と東側（95ＫＳ289）で、得長寿院跡、岡崎遺跡に該当する。仮水準点は、95ＫＳ274では敷地北東部、95ＫＳ289では敷地南西部の歩道縁石上を±０とした。

（95ＫＳ274）　敷地西奥の水準点－50cmで、南北幅90cm以上、深さ53cmの土壙を検出した。埋土の暗灰黄色砂泥層から多量の瓦類が出土した。

（95ＫＳ289）　現地表は西から東に高く、Ｎａ１地点で水準点＋28cm、東端のＮａ２地点で＋38cmである。Ｎａ１地点の水準点－72cmで、東西幅60cm以上、深さ70cm以上の土壙を検出した。埋土のオリーブ褐色泥砂層から土師器皿、瓦類が出土した。水準点－89cm以下は、無遺物の粗砂層である。

Ｎａ２地点では、水準点－82～100cmで暗オリーブ褐色砂泥の遺物包含層を検出した。遺物包含層より平安時代末期から鎌倉時代の土師器皿、軒平瓦が出土した。水準点－1.2m以下は無遺物の粗砂層である。

遺　物（図46）

宝相華文軒平瓦。瓦当の接合技法は、いわゆる印籠継ぎで、段顎になる。胎土は乳褐色、焼成は軟質。同文系の軒平瓦の中では大型に属する。隣接する尊勝寺跡の発掘調査[註]で、類例が出土している。

（尾藤・吉村・竜子）

図46　瓦拓影・実測図（1：4）

註　上村和直『六勝寺跡発掘調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市文化観光局　1979

調査一覧表

I　1994(平成6)年度　1～3月期

平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
兵庫寮	上・中立売通七本松西入三軒町46	2/17	盛土のみ。	HQ464	1
大蔵	上・七本松通中立売下る三軒町62	1/17	盛土のみ。	HQ429	1
大蔵	上・中立売通土屋町東入田丸町379	2/10	盛土のみ。	HQ461	1
大蔵	上・仁和寺街道七本松東入白竹町189-12	2/28, 3/1	盛土のみ。	HQ478	1
内教坊	上・中立売通日暮東入新白水丸町456-4	1/26・27	盛土のみ。	HQ438	1
右近衛府	上・下長者町通御前東入三助町280-16	3/20	検出できず。	HQ511	1
図書寮	上・下長者町通七本松西入黒瑠町242	2/22・23	盛土のみ。	HQ472	1
内蔵寮	上・上長者町通千本西入五番町173	3/2・23	地表下0.28m以下、褐色砂泥の無遺物層。	HQ481	1
縫殿寮	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町33-1の一部	3/8	盛土のみ。	HQ495	1
梨本	上・智恵光院通下長者町上る下山里町24-37	1/30・31	地表下0.75m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HQ439	1
職御曹司	上・裏門通出水上る白銀町251-1	1/31, 2/8	盛土のみ。	HQ444	1
内裏	上・下立売通千本東入下る中務町490-112	12/13・14・26, 1/5	地表下0.25m以下、平安前期の包含層、整地層、土壙、平安前期～中期の土壙、包含層。本文10ページ。	HQ393	1
内裏	上・出水通浄福寺東入西田村備前町239	3/8・24	地表下1.28mで江戸の包含層。	HQ494	1
西雅院	上・日暮通丸太町上る西入西院町746-15	3/2・6	地表下0.5m以下、褐色砂泥の無遺物層。	HQ482	1
左馬寮	中・西ノ京左馬寮町7-1	2/21・23	地表下1.05m以下、黄褐色砂礫の無遺物層。	HQ469	1
左馬寮	中・西ノ京左馬寮町3-1　朱雀第二小学校	3/7・27	地表下0.6mで灰白色泥砂の無遺物層。	HQ493	1
典薬寮	中・西ノ京草坂町7-14	1/6	盛土のみ。	HQ419	1
典薬寮	中・西ノ京草坂町7-15	1/6	地表下0.3m以下、褐色泥砂の無遺物層。	HQ420	1
典薬寮	中・西ノ京草坂町7-18	3/7	盛土のみ。	HQ491	1
典薬寮	中・西ノ京草坂町7-17	3/7	盛土のみ。	HQ492	1
豊楽院	中・聚楽廻中町53	1/9	巡回時、工事終了。	HQ422	1
豊楽院	中・聚楽廻中町44	2/27～3/11	地表下0.05mで平安の遺構面、東西方向の壇上積基壇北縁部で延石検出。本文3ページ。	HQ513	1
豊楽院	中・聚楽廻南町6-18	3/27	検出できず。	HQ521	1
朝堂院	上・千本通丸太町上る小山町地先	2/1・6	検出できず。	HQ453	1
大膳職	上・大宮通椹木町下る一町目830	2/24	地表下0.9m以下、褐色泥砂の無遺物層。	HQ473	1
大膳職	上・松屋町通丸太町上る三丁目657の一部	3/22	盛土のみ。	HQ512	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町11-10の一部	3/24・27	盛土のみ。	HQ517	1

平安京左京（HL）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
北辺二坊　四町	上・堀川下之町他地内	3/14	地表下5.5mで江戸の包含層。6.0mにて1m大の石。	HL500	2
二条三坊十五町	中・東洞院通竹屋町上る三本木町445.445-2	12/16, 1/6・9	地表下1.53mで平安後期の土壙、平安末期～鎌倉の落込み。	HL400	3
二条四坊　四町	中・二条通高倉西入松屋町59.61	2/21・22・24	地表下1.61m以下、室町・江戸の包含層。2.19mで平安後期の土壙。	HL471	3
二条四坊十六町	上・京都御苑3	2/9・10	地表下0.85m以下、東京極大路路面11、包含層、土師器片。1.77mで鎌倉の南北溝、東京極大路西側溝。	HL449	3
三条一坊　八町	中・西ノ京北聖町	2/1	地表下1.9m以下、褐色砂礫の無遺物層。	HL445	2
三条一坊　四町	中・西ノ京南聖町17-12～16	2/27, 3/10	地表下0.65m以下、氾濫堆積。	HL476	2
三条一坊　六町	中・西ノ京親学院町～西ノ京池ノ内町地内	3/9・10・13・16	地表下0.6m以下、湿地堆積。	HL496	2
三条三坊　二町	中・釜座通御池上る下松屋町724-3	1/26・27	地表下1.63mで包含層、土師器皿、高杯。	HL436	3
三条四坊　五町	中・三条通高倉東入桝屋町68他	3/8・13・15・27	地表下1.2m以下、鎌倉・江戸の包含層、江戸の土壙、溝梢。	HL488	3
三条四坊十一町	中・御池通東洞院東入笹屋町～御池通鉄屋町中白山町地先	11/8～10・14・21, 12/5, 1/5	地表下1.05m以下、路面7、平安前期～後期の包含層、灰釉陶器、平安～室町の包含層。	HL345	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
三条四坊十一町	中・御池通、東洞院通～御幸町通	12/22, 1/23・24・26, 2/5	地表下1, 2mより下、平安末期～鎌倉の包含層、土壙、灰釉陶器、白磁。	HL414	3
三条四坊十三町	中・鍛屋町通三条上る下白山町306－2	11/7～10, 12/22, 1/5	地表下1, 24mより下、平安後期、鎌倉、室町の土壙、包含層、高杯、陶器、瓦器、緑釉陶器。	HL341	3
四条四坊十三町	中・鍛屋町通錦小路下る例屋町511, 511－1	3/14	地表下2, 0mより下、灰オリーブ色泥砂の無遺物層。	HL501	5
五条二坊　七町	下・仏光寺通堀川西入晴明町646	1/30, 2/1	検出できず。	HL442	4
五条四坊　四町	下・東洞院通松原上る俊徳町587－1	1/25・27・31	地表下1, 08mより下、暗灰黄色粗砂礫の無遺物層。	HL434	5
五条四坊　七町	下・高倉通仏光寺上る西前町375－1	1/25・27	地表下1, 15mより下、鎌倉・室町の土壙。	HL432	5
六条一坊　一町	下・中堂寺南緒町地内　1－6・7	1/25	地表下0, 2mで江戸の包含層。	HL435	4
六条二坊　七町	下・堺町通五条上る柿本町678, 620－2	2/28, 3/1	地表下0, 08mで江戸の包含層。	HL479	4
六条二坊　九町	下・醒ヶ井通松原下る猿屋町58, 58－2	1/9・10・17	地表下0, 7m以下、弥生の土壙、弥生土器底部、平安後期・室町の土壙、平安末期の包含層。	HL421	4
六条二坊　九町	下・堀川通、四条通～五条通	2/15・17, 4/3～7/30	地表下0, 26mで路面、鎌倉～室町・鎌倉後期の落込み、錦小路北側溝。	HL459	4
七条二坊　八町	下・堀川通花屋町下る本願寺門前町	3/31	慢乱のみ。	HL522	6
八条三坊十四町	下・東洞院通七条下る東塩小路町	12/14, 1/5・17・24	地表下1, 24mで室町の包含層。	HL398	7
八条四坊　七町	下・小稲荷町78－7他	2/24	盛土のみ。	HL474	7
九条三坊　三町	南・西洞院通、東寺道～九条通地内	2/15, 5/25	慢乱のみ。	HL458	7
九条四坊　六町	南・東九条南山王町52－1他7	2/16, 3/3	地表下0, 64m以下、オリーブ褐色粗砂の無遺物層。	HL460	7
九条四坊十二町	南・東九条西西町地先	3/23・29	慢乱のみ。	HL516	7

平安京右京（HR）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
二条二坊　十町	中・西ノ京中御門町131	1/9・11	盛土のみ。	HR427	9
二条三坊　四町	中・西ノ京南壇井町25～27	2/21・24・28	地表下1, 1m以下、にぶい黄褐色砂質の無遺物層。	HR475	8
三条一坊　四町	中・西ノ京里光町他	2/8・20・21	地表下0, 5m以下、明黄灰色粗砂礫の無遺物層。	HR45C	9
三条一坊　四町	中・西ノ京柳馬町1－6他	8/29～2/21	地表下1, 2mで鎌倉～室町の南北溝、平安の包含層。	HR134	9
三条一坊　四町	中・西ノ京小倉町～西ノ京椿尾町地先	8/30, 9/2～7, 1/9・21	地表下1, 1mで平安の包含層。	HR220	9
三条一坊十三町	中・西ノ京西月光町19－1	12/20, 2/20	地表下0, 9mで平安の包含層。	HR410	9
四条三坊　十町	右・西院春依町25他, 山ノ内赤山町1－1他	3/17・23	地表下1, 2m以下、オリーブ褐色泥砂の無遺物層。	HR508	10
五条二坊　五町	中・壬生西檜町31, 31－1	2/20, 3/8・9	地表下0, 5mで包含層、土師器片。	HR466	11
五条二坊十六町	右・西院興町3, 3－6	2/21・26	地表下0, 9mで包含層、土師器片。	HR467	11
五条三坊　五町	右・西院太田町地内	12/7, 1/25	地表下0, 6m以下、褐色砂泥の無遺物層。	HR387	10
五条四坊十一町	右・西京猫喜野町5他	10/19, 12/16, 1/13	地表下1, 2m以下、湿地堆積。	HR307	10
六条一坊十一町	下・中堂寺栗田町1	2/17	地表下0, 76mで落込み、遺物なし。	HR463	11
六条一坊十一町	下・中堂寺栗田町1	3/2・9・24	地表下0, 56mで平安中期の溝。	HR485	11
六条二坊　九町	右・西大路通、四条通～五条通	12/14, 3/3・31, 4/12	慢乱のみ。	HR404	11
六条二坊十二町	右・西院東中水町20	3/15・16・22	地表下0, 88m以下、褐色砂泥の無遺物層。	HR505	11
六条四坊　一町	右・西院清水町120, 141	1/9・23	検出できず。	HR423	10
七条一坊　二町	下・朱雀分木町市有地	10/3, 1/5	地表下0, 7m以下、灰オリーブ色砂泥の無遺物層。	HR278	13
七条一坊　六町	下・朱雀宝蔵町60	1/30	地表下1, 1m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HR441	13
七条一坊　八町	下・朱雀分木町43, 45－1	1/26, 2/1	地表下0, 85m以下、オリーブ灰色砂礫の無遺物層。	HR437	13
七条二坊十一町	下・西七条北畑田町10	1/18・20	地表下0, 4mで包含層、須恵器片。	HR431	13
八条一坊　三町	下・梅小路日影町1－11	1/17・23	盛土のみ。	HR430	13
八条三坊　四町	南・吉祥院西ノ庄東屋敷町32	1/10・11	検出できず。	HR428	12
九条一坊　二町	南・唐橋赤金町60－1, 61－1	12/26, 1/12	地表下0, 67mに下、流れ堆積。	HR417	13
九条一坊十三町	南・唐橋西寺町1	2/21・22	地表下0, 2mで包含層、土師器片。	HR468	13
九条三坊　七町	南・吉祥院西ノ庄淵ノ西町20－2	1/9・10	検出できず。	HR426	12

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
鞍馬寺経塚群	左・鞍馬本町632　鞍馬小学校	3/31, 4/4・7, 10/9	検出できず。	RHS23	
埋物園北遺跡	北・上賀茂畔勝町地先	11/16, 1/9・13・23, 2/10	地表下0.5m以下、盛地堆積。	RH354	
植物園北遺跡	北・上賀茂松本町6－7	3/15・31, 4/17	地表下0.3m以下、氾濫堆積。	RH506	
本山古墳群	北・上賀茂本山、左・岩倉幡枝町地内	3/15・22・23・27・28	地表下0.5m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	RH507	

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
常盤東ノ町古墳群	右・常盤森町8－4	12/14, 7/14, 9/20, 11/20	盛土のみ。	UZ403	
東衣手町遺跡	右・西京極東衣手町37－1の一部	3/14	検出できず。	UZ498	

北白川地区（KS）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
岡崎遺跡・最勝寺跡	左・岡崎最勝寺町63	12/12～4/10	平安後期の土壙、瓦を多量に含む土壙、溝。本文23ページ。	KS389	
岡崎遺跡・得長寿院跡	左・岡崎堀池町	1/23, 2/13	地表下5.3m以下、流れ堆積。	KS433	
小倉町別当町遺跡	左・北白川下別当町23	3/14・17・20	地表下0.58mで縄文前期・後期の柱穴、住居跡状遺構。本文17ページ。	KS504	
北白川萬寺	左・北白川東瀬ノ内町50－3	2/6	盛土のみ。	KS446	
北白川萬寺	左・北白川東瀬ノ内町50－1	3/14	地表下0.6m以下、包含層、瓦。	KS499	
京都大学総合博物館内遺跡	左・吉田二本松町1	3/2・6	地表下0.86mで礫層の落込み。	KS480	
白河街区跡	左・岡崎入江町33	3/23・24	地表下0.78mで包含層、土師器片。	KS514	
禅林寺旧境内	左・永観堂町48	3/20・28, 4/5	地表下0.5mで溜町の包含層、白土器の壺、青磁鳥花瓶。	KS510	

南・桂地区（MK）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
上久世遺跡	南・久世上久世町361、362－1	1/30	盛土のみ。	MK440	
散布地	西・大原野上里南ノ町23他	12/6, 1/27, 8/15	地表下0.8m以下、旧堆堆積。	MK383	
散布地	西・大原野上里南ノ町	2/7・8・10・13	地表下0.9m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	MK451	
芝古墳群	西・大原野石見町	2/6, 4/28, 9/12	地表下2.1m以下、オリーブ褐色粘土の無遺物層。	MK448	
法華山寺跡	西・御陵峰ヶ堂	12/16, 1/12, 2/13・15	検出できず。	MK401	
法華山寺跡	西・御陵峰ヶ堂町一丁目82の一部	2/16	地表下0.2m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	MK457	
松室遺跡	西・松室向屋町～松室北河原町	3/31, 4/3・6・17	地表下1.2mでオリーブ色砂泥の無遺物層。	MK524	

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
安祥寺下寺跡	山・安朱桟敷町9－2	2/9	地表下0.9mで包含層、土師器片。	RT455	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町236	3/14	地表下0.27m以下、黄褐色砂の無遺物層。	RTS02	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町236	3/14	盛土のみ。	RTS03	
中臣遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎240	3/23	盛土のみ。	RTS15	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町236	3/24	地表下0.2m以下、にぶい黄褐色砂礫の無遺物層。	RTS19	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町236	3/24	検出できず。	RTS20	
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り657	2/21	地表下0.6m以下、整地層、落込み、包含層、江戸の瓦層。	RT470	
法性寺跡	東・本町十五丁目778	2/20	掘削土より平安～室町の軒丸瓦、軒平瓦、塔。	RT465	
法性寺跡	東・本町二十一丁目462-29-30-36	3/7	地表下0.2mで室町～江戸の石で護岸した南北溝。桃。	RT490	

鳥羽地区（TB）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
唐橋遺跡	南・唐橋川久保町38-1	1/9-12	地表下0.6m以下、オリーブ黒色泥土の湿地堆積。	TB424	
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町地先	2/6	地表下0.83m以下、黄褐色粗砂の流れ堆積。	TB447	
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町3-1	2/8	地表下1.15mで包含層、土師器片。	TB452	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町94、竹田権ノ井町47-3の一部	2/9	盛土のみ。	TB456	
鳥羽離宮跡	伏・中島前山町7-1	3/1-6	地表下0.69m以下、池内堆積。	TB477	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町144-11	3/3	検出できず。	TB483	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町144-12	3/3	検出できず。	TB484	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町144-13	3/3	検出できず。	TB486	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町144-14	3/3	検出できず。	TB487	
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町32	3/17	検出できず。	TB509	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町地先	3/24	地表下1.03mで包含層、土師器片。1.22m以下、池状堆積。	TB518	
深草遺跡	伏・深草綿森町40-1	'94/4/25,'95/4/20	地表下0.14mで包含層、土師器片。	TB38	

伏見・醍醐地区（FD）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
伏見城跡	伏・桃山町島津53-8,54-2・3	1/31	検出できず。	FD443	

長岡京地区（NG）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
長岡京跡	南・久世殿城町280-1,281-1	10/3,1/13・17・19	地表下1.1mで土壌、落込み、遺物なし。	NG279	
長岡京跡	伏・久我西出町10-13	12/15,3/27	検出できず。	NG407	
長岡京跡	南・久世殿城町600-1	1/9,2/7	地表下1.55m以下、褐色砂質の無遺物層。	NG425	
長岡京跡	南・久世東土川町	2/16,3/7	検出できず。	NG462	
長岡京跡	西・大原野上里南ノ町、大原野上里鳥見町他	3/6～9/27	地表下0.6m以下、緑灰色細砂の無遺物層。	NG489	
長岡京跡	伏・羽束師菱川町地内	3/9-13-16	検出できず。	NG497	

II　1995(平成７)年度　４～12月期

平安宮 (HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
漆室	上・御前通一条下る東竪町130-２	10/13	地表下0.37mで平安～室町の包含層。	HQ285	1
漆室	上・御前通一条下る東竪町130-１	12/11	巡回時、工事終了。	HQ359	1
大蔵	上・仁和寺街道七本松東入一番町99-12・3、98-4	10/9・12	盛土のみ。	HQ273	1
右近衛府	上・御前通下立売上る三丁目西上之町245-18	8/7	盛土のみ。	HQ195	1
右近衛府	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町388-６	10/2・3	地表下0.2mで包含層、土師器片。	HQ262	1
右近衛府	上・御前通下立売上る二丁目仲之町289-５	10/30	検出できず。	HQ305	1
右近衛府	上・御前通下立売上る三丁目西上之町278-45	12/13・14	盛土のみ。	HQ369	1
宴の松原	上・七本松通下長者町下る三番町268	4/4	盛土のみ。	HQ４	1
宴の松原	上・七本松通下長者町下る三番町268-２	7/11	盛土のみ。	HQ151	1
宴の松原	上・下立売通七本松東入長門町435-48	10/11・12	盛土のみ。	HQ281	1
内蔵寮	上・上長者町通千本西入五番町173A	9/27・28	盛土のみ。	HQ256	1
内蔵寮	上・上長者町通千本西入五番町173B	10/18	盛土のみ。	HQ292	1
内蔵寮	上・下長者町通千本西入六番町367-３	12/12	検出できず。	HQ366	1
縫殿寮	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町25	4/10	地表下0.56mで包含層、土師器片。	HQ11	1
縫殿寮	上・下長者町通裏門西入坤高町58	7/25・26	盛土のみ。	HQ164	1
縫殿寮	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町33-４	8/30・31	盛土のみ。	HQ228	1
縫殿寮	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町29	11/15	地表下0.26m以下、明黄褐色泥砂の無遺物層。	HQ323	1
縫殿寮	上・下長者町通裏門西入坤高町60-1, 62-1	11/30	地表下0.1mで包含層、土師器片。	HQ344	1
左近衛府	上・出水通大宮西入東天秤町145	5/15	盛土のみ。	HQ66	1
左近衛府	上・日暮通出水上る秤口町59	11/28・29	検出できず。	HQ339	1
職御曹司	上・出水通智恵光院西入田村備前町205-２	10/20・24	盛土のみ。	HQ296	1
職御曹司	上・出水通日暮西入金馬場町168	12/6・7	地表下0.45mで江戸の包含層。	HQ350	1
内裏	上・千本通出水下る東入十四軒町413-7・49	5/2	盛土のみ。	HQ55	1
内裏	上・裏門通出水上る白銀町261-16	5/8	盛土のみ。	HQ60	1
内裏	上・裏門通出水上る白銀町246-16	6/22	盛土のみ。	HQ123	1
内裏	上・浄福寺通出水下る東入田村備前町244-2	8/1・2	盛土のみ。	HQ185	1
内裏	上・下立売通千本東入田中町477-４	9/19・20	盛土のみ。	HQ251	1
内裏	上・下立売通千本東入田中町477-29	10/6・9	盛土のみ。	HQ271	1
右兵衛府	上・御前通下立売上る天満屋町331	6/6・12	地表下0.3m以下、平安前期の包含層。	HQ102	1
中和院	上・千本通出水西入七番町地先	4/13・17	地表下0.4mで江戸の包含層。	HQ21	1
左兵衛府	上・日暮通下立売上る天秤町579-５	7/17	盛土のみ。	HQ155	1
左兵衛府	上・日暮通出水下る天秤町585-１	8/28・29	地表下0.2mで江戸の包含層。	HQ219	1
東雅院	上・松屋町通椹木町上る二丁目651-２	11/22・27	検出できず。	HQ331	1
造酒司	中・聚楽廻松下町11-23	8/25	盛土のみ。	HQ216	1
内匠寮	上・御前通下立売下る下之町404-４	8/8	地表下0.55mで室町の包含層。	HQ192	1
左馬寮	中・西ノ京左馬寮町７-39	12/5	巡回時、工事終了。	HQ349	1
典薬寮	中・聚楽廻松下町３	5/8	巡回時、工事終了。	HQ58	1
豊楽院	中・聚楽廻中町43-11	8/9～9/2	豊楽院東限築地外溝検出。本文７ページ。	HQ197	1
豊楽院	中・六軒町通、山陰線～旧二条通	12/14・15・18・19	地表下0.32mで落込み、瓦含む。	HQ370	1
朝堂院	上・千本通丸太町下る東入主税町1152	4/24	盛土のみ。	HQ42	1
朝堂院	中・聚楽廻東町24-11	5/29	巡回時、工事終了。	HQ89	1
朝堂院	中・聚楽廻中町49-14	4/28	地表下0.12m以下、褐色砂泥の無遺物層。	HQ98	1
朝堂院	上・千本通二条下る東入主税町812-７	6/13	巡回時、工事終了。	HQ106	1
朝堂院	上・千本通二条下る聚楽町854、中・聚楽廻南町29-２	6/20・21	地表下0.4mで東西の溝、土師器片。	HQ124	1
朝堂院	上・千本通二条下る東入主税町803-３	10/11・12	地表下0.34mで包含層、土師器片。	HQ282	1
陰陽寮	上・智恵光院通丸太町下る主税町952	6/16・19	地表下0.35m以下、褐色砂泥の無遺物層。	HQ119	1
大膳職	上・大宮通椹木町下る一町目855-２	5/17・25	地表下1.0mで江戸の土壙。	HQ71	1
太政官	上・竹屋町通千本東入主税町1104	4/18	地表下0.25mで平安の包含層、緑釉瓦、平瓦、丸瓦。	HQ33	1
太政官	上・竹屋町通千本東入主税町1104	7/12	巡回時、工事終了。	HQ34	1
太政官	上・竹屋町通千本東入主税町1104	4/18	地表下0.25mで平安の包含層。	HQ35	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
太政官	上・竹屋町通千本東入主税町1104	4/18	地表下0.2mで平安の包含層、瓦多量。	HQ36	1
太政官	上・竹屋町通千本東入主税町826-36	4/27	盛土のみ。	HQ54	1
御井	中・西ノ京単坡町11-5・6	12/7	盛土のみ。	HQ357	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町地先	4/17	検出できず。	HQ29	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町11-26	5/23	巡回時、工事終了。	HQ82	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町11-22	8/7	盛土のみ。	HQ194	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町11-33	11/27	巡回時、工事終了。	HQ335	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町11-25	12/22・27	盛土のみ。	HQ376	1
式部省	中・西ノ京式部町41-12	4/17	巡回時、工事終了。	HQ28	1
式部省	中・発掘調査町30	11/29	巡回時、工事終了。	HQ341	1

平安京左京（HL）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
平安京跡隣接地	上・一条通千本東入北伊勢殿横町683	5/29	盛土のみ。	HL88	2
一条大路	上・一条通浄福寺東入南新在家町332	6/29, 7/18	地表下0.34mで江戸の包含層。	HL137	2
北辺二坊 二町	上・大宮通中立売下る雷神町407-2、和泉町通上長者町上る和水町438-1	5/23	盛土のみ。	HL81	2
北辺三坊 一町	上・西洞院通一条下る猿州寺町241	4/13	地表下0.65mで包含層、瓦。	HL16	3
北辺三坊 一町	上・新町通中立売上る正親町 旧中立小学校	10/11・16	地表下0.9mで礫含～室町・江戸の包含層。	HL276	3
北辺三坊 三町	上・室町通中立売下る花立町506	10/19	盛土のみ。	HL294	3
北辺四坊 八町	上・京都御苑内	11/21・22	地表下0.66mで路面。	HL327	3
一条二坊 三町	上・出水通大宮西入家永町762	9/20・21	盛土のみ。	HL254	2
一条二坊 三町	上・大宮通出水下る家永町767-1、760-2	10/2	焼土のみ。	HL263	2
一条二坊 四町	上・大宮通下立売下る要屋町809他	6/22・27・28	地表下1.0mで礫含～江戸の包含層。	HL128	2
一条二坊十四町	上・下立売通油小路東入西大路町136-1、138-1・3	9/28	地表下1.1m以下、整地層、室町の包含層２。	HL265	2
一条三坊 七町	上・衣棚通出水上る御霊町63	11/13～15・17	地表下1.0mで室町の包含層。	HL318	3
二条三坊 二町	中・釜座通、丸太町通～二条通他地内	8/9-11, 9/4・6・22	地表下0.45m以下、時期不明の路面７。	HL198	3
二条三坊 三町	中・竹屋町通柳座東入指物屋町368	12/4	盛土のみ。	HL348	3
二条三坊 五町	中・衣棚通夷川下る堅大恩寺町746	7/13・14	地表下1.45m以下、桃山～江戸の地状堆積。	HL147	3
二条三坊 九町	中・丸太町通室町東入常真横町191	11/9	地表下0.4mで包含層、陶器鉢。	HL316	3
二条三坊 十町	中・烏丸通丸太町下る大倉町205、205-2～5、211、213	9/6	地表下0.69mで江戸以降の包含層。	HL236	3
二条三坊十二町	中・二条通烏丸西入東玉屋町498	5/26・31, 6/27	地表下0.83mで道路側溝の裏込め。1.05m以下、時期不明の路面６。	HL87	3
二条三坊十二町	中・烏丸通二条上る蒔絵屋町258	11/21・22	地表下2.0mで室町～桃山の包含層。	HL325	3
二条四坊十五町	中・御幸町通竹屋町上る荒沙門町557-2	5/23・24	地表下1.0mで礫含の包含層。1.45mから平安後期～鎌倉の落込み。	HL85	3
二条四坊十五町	中・鞍屋町通丸太町下る舟屋町406-1	8/28・29	地表下1.4m以下、平安後期の包含層、落込み。	HL222	3
三条一坊 八町	中・西ノ京北聖町	12/6	攪乱のみ。	HL353	2
三条一坊十五町	中・西ノ京北聖町～門前町	9/12, 11/29・30	攪乱のみ。	HL244	2
三条二坊 九町	中・油小路通二条下る二条油小路町274	4/10・17	地表下1.1m以下、平安前期の油小路西側溝、路面、室町の包含層。	HL８	2
三条二坊十一町	中・姉小路通油小路上る式阿弥町121-3	4/17	地表下1.0mで平安後期の土坡、灰釉陶器椀高台、須恵器壺、黒色土器椀。	HL25	2
三条二坊十六町	中・二条通油小路東入西大黒町316-1、317	12/5	地表下0.75mで平安～江戸の包含層、土師器、緑釉陶器、陶器、瓦。	HL351	2
三条三坊 三町	中・釜座通御池下る津軽町770	7/10	地表下1.8mで桃山～江戸の包含層。	HL142	3
三条三坊 九町	中・二条通烏丸西入東玉屋町499他	4/11, 5/17・18, 6/15・16	地表下1.7m以下、整地層、江戸の包含層。	HL20	3
三条三坊 九町	中・室町通二条下る納豆御前町277	7/14・18	地表下0.5m以下、整地層、桃山の包含層。	HL154	3
三条四坊 二町	中・高倉通御池上る柊町582	11/28	地表下0.52mで江戸の包含層。	HL334	3
三条四坊 三町	中・御池通、東洞院通～御幸町通	8/18, 10/9	攪乱のみ。	HL202	3
三条四坊十三町	中・三条通鞍屋町東入弁慶石町39	7/4, 8/30, 9/1	盛土のみ。	HL144	3
三条四坊十三町	中・鞍屋町通三条上る下白山町306-1他	9/12・13	地表下0.5m以下、江戸の土坡４、陶器多量。富小路路面、平安後期の溝。本文12ページ。	HL243	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
三条四坊十六町	中・釜座町通二条下る尾張町217、214	9/12・19・22	地表下0.92m以下、平安～室町の包含層、江戸の落込み、桃山～江戸の土壙、天目椀10個体、唐津、志野。	HL242	3
三条四坊十六町	中・御幸町通二条下る山本町438、436-2	10/27・30, 11/2	地表下1.43m以下、路面、二条大路と東京極大路の交差点、平安後期の包含層、東京極大路路面。	HL304	3
四条一坊　一町	中・壬生朱雀町1他	4/4・7	盛土のみ。	HL2	4
四条一坊　一町	中・壬生朱雀町8-2　朱雀第一小学校	7/18, 9/8	盛土のみ。	HL156	4
四条一坊　七町	中・壬生馬場町23-2、35-10	4/11・17	検出できず。	HL10	4
四条二坊　一町	中・大宮通三条下る三条大宮町255	6/26・28	地表下2.0m以下、青灰色粘土の無遺物層。	HL135	4
四条二坊　四町	下・四条通黒門東入立中町497	6/21・23	地表下0.66mで鎌倉～室町の包含層。	HL127	4
四条二坊　六町	中・堀川通、御池通～四条通	7/31, 8/29, 9/22	攪乱のみ。	HL172	4
四条二坊　十町	中・油小路通六角下る六角油小路町319他3	4/21・24・25, 5/8	地表下0.86mで平安～室町の土壙、鎌倉～室町の落込み、白磁椀、青磁皿等遺物多数。	HL38	4
四条二坊十三町	中・油小路通錦小路下る藤本町544	5/23・24	地表下1.1mで平安中期の包含層。	HL84	4
四条二坊十五町	中・油小路通六角下る六角油小路町338、339-1～3	12/19・20・22	地表下0.95m以下、鎌倉の包含層、鎌倉～室町の土壙、水溜遺構。敷地南側で平安後期の井戸。	HL378	4
四条三坊　三町	中・新町通錦小路上る百足屋町391、393	5/16	盛土のみ。	HL67	5
四条三坊　四町	中・新町通錦小路下る小結棚町436	8/3・18	地表下1.0m以下、鎌倉～桃山の土壙、平安・鎌倉後期・室町前期の包含層。	HL186	5
四条三坊十一町	中・錦小路通室町東入占出山町303、305	9/13・22・29	地表下1.05mで平安～鎌倉、室町の土壙。排土からキセル。	HL246	5
四条三坊十三町	中・東洞院通四条上る阪東屋町667-1、664-18	4/10・12	地表下1.0m以下、鎌倉・室町の落込み、整地層、鎌倉～室町の包含層。	HL9	5
四条三坊十三町	中・東洞院通四条上る阪東屋町667-2他	5/10	盛土のみ。	HL65	5
四条四坊　二町	中・六角通高倉西入骸屋町185	10/24・25・27	地表下1.5mで鎌倉の包含層。	HL300	5
四条四坊十四町	中・寺町通蛸薬師下る西側円福寺前町268-5、270、271	10/4・6・11	地表下1.15m以下、平安前期の包含層、室町の土壙。本文48ページ。	HL275	5
四条四坊十六町	中・寺町通三条下る永楽町238-1、239、240	4/26, 5/8	地表下0.55m以下、路面15、うち平安1、鎌倉の包含層。	HL45	5
五条一坊　五町	中・壬生相合町13-1	6/15・19	地表下1.1m以下、オリーブ褐色砂礫の無遺物層。	HL113	4
五条一坊十三町	中・壬生相合町1-20	8/29・30	地表下0.85m以下、整地層、江戸の包含層。	HL224	4
五条二坊　一町	下・猪熊通四条下る松本町265-1・2	4/24	巡回時、工事終了。排土から平安後期～鎌倉の土師器皿、須恵器。	HL43	4
五条二坊十一町	下・油小路通仏光寺下る太子山町596-2	6/12・15・16・20・21	地表下0.85m以下、平安中期～末期の落込み、平安中期～後期の柱穴、平安後期の杭が残存する土壙。平安以前の包含層。1～1.5mで良好な遺構面。	HL112	4
五条二坊十三町	下・油小路通高辻下る麓町629	7/11・24	地表下0.7m以下、平安中期の包含層、平安後期の溝、油小路東側溝、鎌倉～室町の包含層、土壙。	HL143	4
五条三坊　一町	下・四条通西洞院下る妙伝寺町702	7/20	地表下1.14m以下、オリーブ黒色砂礫の無遺物層。	HL161	5
五条三坊　一町	下・新町通四条下る四条町348、綾小路通西洞院東入新釜座町722-1	9/25・29, 10/3・6	地表下1.2m以下、平安前期・中期・後期の包含層、鎌倉の土壙。	HL261	5
五条三坊　二町	下・新町通仏光寺上る船鉾町408	6/20, 7/4	地表下0.72mで包含層、瓦。	HL121	5
五条三坊　三町	下・高辻通西洞院東入堀之内町259-1	8/28・30, 9/1	地表下1.0m以下、室町・桃山の落込み、包含層、西洞院大路路面、側溝。	HL223	5
五条三坊十一町	下・烏丸通仏光寺下る大政所町692、高辻通烏丸西入骨屋町336	6/20・27	地表下1.5m以下、平安後期、鎌倉、鎌倉～室町の包含層。	HL120	5
五条三坊十一町	下・烏丸通仏光寺下る大政所町675	10/11・19	地表下1.01mで鎌倉～室町の土壙。	HL279	5
五条三坊十三町	下・高辻通烏丸東入南側因幡堂町655、656	9/11・18	地表下0.68mで室町の包含層。	HL241	5
五条三坊十六町	下・四条通烏丸東入長刀鉾町31、32-3	6/12・21	地表下1.9mで桃山の土壙・室町の包含層。	HL111	5
五条四坊　五町	下・高辻通柳馬場西入泉正寺町454、454-2他2	6/26・27	地表下2.41mで江戸の井戸。増塙と石を積む。底部に「岩倉」銘をもつ陶器椀。地点3の2.41mで古墳期の土器。	HL131	5
五条四坊十一町	下・仏光寺通麩屋町西入仏光寺東町125	4/24	地表下1.28m以下、鎌倉の包含層。	HL41	5
五条四坊十一町	下・麩屋町通仏光寺下る鍋屋町257-6	5/18・26	地表下1.15m以下、桃山～江戸の包含層。	HL75	5
五条四坊十三町	下・麩屋町通高辻下る鍵屋町214	9/20	攪乱のみ。	HL257	5
五条四坊十四町	下・御幸町通高辻上る橘町446	4/13	地表下1.52m以下、平安後期・室町の包含層。	HL17	5
六条二坊十二町	下・醒ヶ井通六条上る佐女牛井町143、146	8/11・14・23	地表下0.53m以下、弥生の落込み、平安後期～鎌倉の土壙、土師器多量。本文48ページ。	HL199	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
六条三坊十六町	下・不明門通松原下る宮ノ前458-1・2・5他	6/29	盛土のみ。	HL133	5
六条四坊 二町	下・東洞院通五条上る扇薬町569,571,573,575-2	8/7	地表下1,55mで包含層、土師器片。	HL189	5
六条四坊 八町	下・松原通高倉東入杉屋町270,272	6/29・30,7/10	地表下1,25m以下、室町・江戸の包含層。	HL134	5
七条一坊 四町	下・朱雀正会町15-2	4/26	地表下0,65mで平安の包含層、白磁碗。	HL51	6
七条二坊十一町	下・西中筋通正面下る丸屋町116-1	8/21～23	地表下1,25m以下、平安末期～鎌倉の包含層。	HL208	6
七条二坊十三町	下・油小路通七条上る米屋町185,185-1～3	8/2・4・9	地表下0,95m以下、平安前期・中期・鎌倉・室町の包含層、遺物多数。	HL182	6
七条二坊十五町	下・油小路通正面上る仏具屋町216	4/4・11	地表下1,09m以下、平安中期の土壌、緑釉陶器、黒色土器、室町の土壌。	HL 1	6
七条三坊十三町	下・不明門通七条上る粉川町227	7/20・30	地表下1,19m以下、鎌倉の包含層、平安後期の土壌、灰釉陶器、瓦器椀、須恵器蓋。	HL162	7
七条四坊 一町	下・東洞院通六条下る鍛冶町146	11/6・7	地表下0,6m以下、室町の東洞院大路跡。	HL312	7
七条四坊 四町	下・東洞院通七条上る釉屋町242,238-1・4	9/6～8	地表下1,85m以下、平安の流れ堆積、緑釉陶器、平安中期～鎌倉の包含層、流れ堆積、灰釉陶器。地点2の流れ堆積を肩として鎌倉の井戸。	HL237	7
七条四坊十三町	下・三ノ宮町通七条上る下三ノ宮町301	9/18	検出できず。	HL252	7
七条四坊十五町	下・加茂川筋上ノ口下る菊屋町318-2,319-2	8/29	地表下0,55m以下、流れ堆積。	HL225	7
八条二坊 二町	下・塩小路通猪熊西入功門中之町75	6/15・26	検出できず。	HL114	6
八条二坊 三町	下・梅小路通大宮東入古御旅町207-1	8/28・29	地表下1,5m以下、緑灰色砂礫の無遺物層。	HL220	6
八条二坊 七町	下・堀川通下魚棚西入錦屋町～西堀川通塩小路上る志水町地先	11/9・10・13・22	地表下1,2m以下、江戸～近代の礎跡層。	HL317	6
八条三坊 一町	下・七条通新町西入夷之町696-3,698	8/21・22・28・30,9/1	地表下0,3m以下、平安末期～鎌倉の整地層。0,62mで七条大路路面。	HL209	7
八条三坊 三町	下・西洞院通塩小路下る東塩小路町866他	8/7・25,9/1・20	地表下2,08m以下、平安末期・鎌倉の包含層。	HL188	7
八条三坊 八町	下・七条通烏丸西入西境町165-1	8/30,9/4	地表下1,1mで室町の包含層。1,7m以下、流れ堆積。	HL227	7
八条三坊十六町	下・烏丸通七条東入真苧屋町212	11/15～17	地表下0,7m以下、路面3、流れ堆積、平安前期の包含層。掛土より須恵器甕。	HL321	7
八条四坊十三町	下・屋形町6-1	5/22	検出できず。	HL80	7
八条四坊十五町	下・川端町9-2・7・8	10/9	盛土のみ。	HL277	7
八条四坊十六町	下・七条通加茂川筋西入稲荷町458,460	12/18	地表下1,48mで江戸の包含層。1,75m以下、流れ堆積。	HL374	7
九条一坊 八町	南・東寺町531	5/22・30	地表下0,85mで掘地堆積、瓦質の五徳。	HL78	6
九条二坊 三町	南・西九条南小路町19-2	10/9・12・13	地表下0,56mに下、鎌倉の包含層、平安後期～室町の落込み、鎌倉小路西側溝。	HL272	6
九条二坊十一町	南・西九条藤王町50-1・2	5/22・30	地表下0,56mに下、弥生・平安後期の包含層。	HL79	6
九条二坊十四町	南・西九条寺日町13 九条弘道小学校	10/12	盛土のみ。	HL287	6
九条三坊十四町	南・東九条北烏丸町11	10/27・30	地表下1,2mで鎌倉～室町の包含層。	HL303	7

平安京右京（HR）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
一条大路	上・一条通七本松西入鳩ヶ鼻町～一条通下ノ森東入東町地先	8/3・28	慶乱のみ。	HR190	9
一条大路	上・一条通、御前通～七本松通地内	12/1	全面夜間工事のため調査できず。	HR346	9
北辺三坊 四町	北・大将軍一条町～大将軍西町地内	5/22・30・31,6/8	地表下0,14m以下、包含層、土師器片。	HR77	8
一条二坊 三町	上・御前通下立売上る天満屋町325	4/26	地表下1,3m以下、黄褐色泥砂の無遺物層。	HR49	9
一条二坊 四町	中・西ノ京西鹿垣町63	6/15・20	地表下0,3mで平安の包含層、灰釉陶器。	HR109	9
一条二坊 七町	上・上ノ下立売通御前西入堀川町527-9・10・47	7/25・31	盛土のみ。	HR168	9
一条三坊 五町	中・西ノ京柏栄町24-10	7/24・27	地表下0,5mで包含層、土師器片。	HR163	8
一条三坊十二町	中・丸太町通南裏、馬代通～右・花園木辻南町	6/20～23,7/18・19	地表下0,7m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HR126	8
一条三坊十六町	右・花園鹿司町1,13,花園猪毛町8-1,871他	5/8・18,6/8	盛土のみ。	HR59	8
二条二坊十一町	中・西ノ京上合町56,57	12/6・8	盛土のみ。	HR354	9

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
二条二坊十一町	中・西ノ京笠殿町地内	12/10·13～15·27	慨乱のみ。	HR361	9
二条二坊十二町	中・西ノ京南上合町104	12/11·12	地表下0.45mで平安後期～鎌倉の包含層。	HR362	9
二条三坊　二町	中・西ノ京中御門四町111, 113	5/9	地表下0.94mで平安の溝、大狄御門大路北側溝。土師器、須恵器片。	HR61	8
二条四坊十二町	右・太秦安井柳通町　安井小学校	7/25·30	地表下0.98m以下、湿地堆積。	HR169	8
三条一坊　一町	中・西ノ京壬生池町8～12	4/26	地表下0.6m以下、褐色砂礫の無遺物層。	HR50	9
三条一坊　四町	中・西ノ京御輿町地内	12/11	盛土のみ。	HR363	9
三条二坊　一町	中・西ノ京朝堀町27-2	8/17·31, 9/1	地表下0.63mで平安前期の包含層。灰釉陶器。	HR200	9
三条三坊十二町	右・西院金龍町15-1, 中・西ノ京鳥ノ内町17-2	7/31, 10/31, 11/2	盛土のみ。	HR180	8
三条三坊十四町	中・西ノ京月輪町38	8/18·21	地表下0.25mで包含層、土師器片。	HR201	8
四条一坊　四町	中・壬生御所ノ内町39	8/22·24·29	地表下1.18mで江戸の包含層。	HR213	11
四条一坊　六町	中・壬生花井町3	10/16·17·20·23	地表下1.4m以下、オリーブ灰色粘土の無遺物層。	HR290	11
四条二坊　五町	中・壬生朱雀町1～5	10/30, 11/21·24	検出できず。	HR306	11
四条三坊　一町	右・西院上花田町21	5/23	巡回時、工事終了。	HR83	10
四条四坊　七町	右・山ノ内山ノ下町14-2	10/3·4·5	地表下1.0m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。	HR268	10
四条四坊　七町	右・山ノ内山ノ下町14-2	11/29	検出できず。	HR342	10
四条四坊十三町	右・山ノ内西裏町～西院笠目町地内	5/25·31, 6/1, 7/7·10·27, 8/2, 9/18	地表下1.2mで湿地堆積。	HR86	10
五条一坊　一町	中・壬生高畑町10	10/18·20·23	検出できず。	HR293	11
五条一坊　二町	中・壬生高畑町57-1	6/19	盛土のみ。	HR122	11
五条四坊　八町	右・西院安塚町25～27	6/6·12	地表下1.76m以下、明黄色砂泥の無遺物層。	HR101	10
五条四坊　八町	右・西院安塚町5-2の一部	10/11	巡回時、工事終了。	HR283	10
五条四坊十三町	右・西院西田町26, 36-2	7/28, 8/2	検出できず。	HR177	10
六条一坊　六町	下・中堂寺南町地先	4/4	地表下0.74m以下、褐色砂泥の無遺物層。	HR 3	11
六条一坊　六町	下・中堂寺南町地先	4/13	地表下1.2m以下、褐灰色砂礫の無遺物層。	HR22	11
六条一坊　八町	下・中堂寺北町30-1	6/20·21	検出できず。	HR125	11
六条一坊十三町	下・御前通一筋東の通、五条通～花屋町通上る	10/16·26, 11/16·28	地表下1.2m以下、オリーブ褐色砂泥の無遺物層。	HR291	11
六条一坊十三町	下・中堂寺粟田町地先	12/6·14	検出できず。	HR355	11
六条二坊　三町	下・西七条東御前田町～西七条赤社町地先	6/26·28	検出できず。	HR136	11
六条二坊　三町	下・西七条東御前田町24他7、西七条赤社町20-1他8	7/7·10·12	盛土のみ。	HR146	11
六条二坊　三町	下・西七条東御前田町24他7、西七条赤社町20-1他8	11/22	盛土のみ。	HR333	11
七条一坊　八町	下・朱雀分木町43, 45-1	10/25·30	地表下0.5m以下、褐色砂泥の無遺物層。	HR298	13
七条二坊十一町	下・西七条市部町12-2	6/23·27	地表下0.36mで平安の包含層。	HR130	13
七条二坊十五町	下・西七条名倉町6	11/22·24	地表下0.6m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HR332	13
七条三坊　七町	右・西京極南庄境町7-1	4/13·17	地表下1.06m以下、褐色砂泥の無遺物層。	HR23	12
七条四坊　二町	右・花屋町通、高野大路一筋東通～西小路一筋西通地内	7/27, 8/2·17·29	地表下1.3m以下、にぶい黄褐色砂泥の無遺物層。	HR174	12
七条四坊　六町	右・西京極北高町15	9/18·20	地表下0.4mで包含層、土師器片。	HR250	12
八条二坊　六町	下・梅小路石橋町5	5/2·8·18	地表下0.28m以下、池内堆積。	HR56	13
八条三坊　七町	下・七条御所ノ内西町68-13他	6/6·12	検出できず。	HR97	12
九条一坊　四町	南・新千本通西側、針小路通～九条通地内	6/15～9/21	地表下1.1m以下、氾濫堆積。	HR115	13
九条一坊　四町	南・唐橋高田町59	7/19·20	地表下1.36m以下、湿地堆積。1.5mで江戸の包含層。	HR159	13
九条一坊十四町	南・唐橋西寺町33-2	4/21·26	掛土から布目瓦。	HR40	13
九条一坊十五町	南・唐橋門脇町4-1	8/21·23·24	西半部試掘調査済み　地表下1.3m以下、氾濫堆積、古墳期の高杯、須恵器甕、口縁に波状文あり。	HR210	13
九条四坊十四町	南・吉祥院内河原町3-2, 4, 6, 7-1	12/14	盛土のみ。	HR371	12

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉下在地町126-1	6/29·30	盛土のみ。	RH138	
岩倉中在地遺跡	左・岩倉村松町60の一部	11/17	盛土のみ。	RH324	
北野遺跡	北・北野紅梅町46-1·2	4/21·24·25	地表下0.6m以下、奈良時代の溝、室町の柱穴、時期不明の柱穴、土壙。	RH39	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
北野遺跡・北野廃寺	北・北野上白梅町52～55	4/18	地表下0.3mで包含層、土師器片。	RH32	
北野遺跡・北野廃寺	北・北野上白梅町16の一部	9/11	巡回終、工事終了。	RH239	
北野遺跡・北野廃寺	北・北野上白梅町31、32	11/2・6	地表下0.63mで礎金一室町の西方向の落込み。	RH311	
飛 楽 第 跡	上・先哲墓寺過大宮西入先妙蓮寺町542	4/13・17	地表下1.0mで江戸の包含層。	RH15	
植物園北遺跡	北・上賀茂薮田町33－1	7/27・31	盛土のみ。	RH176	
植物園北遺跡	北・上賀茂荒草町30－1	8/4・9	盛土のみ。	RH191	
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町23	9/1	盛土のみ。	RH230	
植物園北遺跡	北・上賀茂松本町94、103の一部	10/3・5	地表下0.6m以下、褐色砂混の無遺物層。	RH270	
平安京跡隣接地	上・七本松通一条下る観音町～一条通下ノ森東入東町地先	7/27	盛土のみ。	RH173	
室町殿跡	上・今出川通室町西入堀出ン町308	8/22・23	地表下1.83mで平安末期の土壙。	RH207	
室町殿跡	上・烏丸通今出川上る西入岡松町262	8/22～24	地表下0.38mで庭石、南北1m、東西1.4mの方形。0.88mで室町の包含層。	RH211	

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
上ノ段町遺跡	右・太秦裏子ヶ辻町35－8	6/16	地表下0.5mで土壙、土師器片、炭。	UZ118	
広隆寺旧境内	右・太秦東蜂岡町10	11/14	盛土のみ。	UZ315	
広隆寺旧境内	右・太秦蜂岡町15	12/4・12	検出できず。	UZ347	
雲宝寺/町古墳群・仁和寺院家跡	右・雲盤一ノ井町5、5－1	9/26～29、10/6・7	地表下0.5mで古墳・平安の溝、刀子出土。本文15ページ。	UZ255	
雲宝寺/町古墳群・仁和寺院家跡	右・雲盤一ノ井町5、5－1	12/11	地表下0.43m以下、灰オリーブ色砂礫の無遺物層。	UZ360	
東衣手町遺跡	右・西京極東衣手町37－1の一部	4/13・17	検出できず。	UZ24	
広沢池遺跡・山越古墳群	右・山越観町1他	8/7～10/3	地表下0.4m以下、沼底堆積、包含層、土師器片。	UZ196	

北白河地区（KS）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
一乗寺向畑町遺跡	左・修学院大林町9－1	9/13・14・28	地表下0.6m以下、石器剥片（サヌカイト）を含む湿地堆積、縄文の包含層、弥生の土壙。	KS245	
岡崎遺跡・延勝寺跡	左・岡崎円勝寺町1－20・21	6/30、7/10	地表下1.11mで礎金一室町の包含層、時期不明の土壙。	KS139	
岡崎遺跡・成勝寺跡	左・岡崎成勝寺町地先	5/11・13	地表下1.14mで平安以降の二条大路末南側溝。	KS64	
岡崎遺跡・尊勝寺跡	左・岡崎最勝寺町2－34・37	7/12・14・20	地表下1.21m以下、平安後期の包含層。	KS145	
岡崎遺跡・尊勝寺跡・最勝寺跡	左・岡崎最勝寺町～岡崎成勝寺町	5/9～8/9	二条大路末南北両側溝、最勝寺、尊勝寺寺域内の建物基壇地業、大量の瓦を含む土壙。本文26ページ。	KS62	
岡崎遺跡・得長寿院跡	左・岡崎徳成町10	10/4	地表下0.5mで整地層をきって平安末期の土壙、平・丸瓦多量。本文49ページ。	KS274	
岡崎遺跡・得長寿院跡	左・岡崎徳成町15－11	10/13・19	地表下1.0m以下、平安の落込み、平安末期～鎌倉の包含層。本文49ページ。	KS289	
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町　京都市動物園	7/18	地表下0.23mにて柱穴。遺物なし。	KS157	
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎南御所町43－10	7/24	盛土のみ。	KS165	
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町　岡崎公園内	11/6・7	地表下1.8m以下、流れ堆積。	KS314	
京都大学北部構内遺跡	左・北白川東高町27	6/15・16・18	地表下0.52mで弥生～古墳の包含層。	KS116	
京都大学北部構内遺跡	左・北白川追分町60	7/3・10	地表下1.05mで包含層、土師器片。	KS140	
京都大学北部構内遺跡	左・北白川追分町41－5	9/14	地表下0.85mで包含層、土師器片。	KS248	
白河街区跡	左・北門前町地先	4/18、5/19・22	地表下0.38m以下、平安後期・江戸の土壙、平安の包含層。	KS30	
白河街区跡	左・聖護院東町19、19－1	6/12	地表下0.25mで平安末期の包含層。	KS110	
白河街区跡	左・浄土寺真如町～岡崎真如堂前町地内	9/25～10/31	攪乱のみ。	KS260	
白河街区跡	左・吉田下大路町22	7/27・31	地表下0.9mで室町の包含層。	KS170	
白河街区跡	左・吉田下大路町30	8/1・3	地表下0.18mで室町の土壙。	KS179	
白河街区跡	左・吉田下大路町14	8/7・8	地表下0.35mで平安末期～鎌倉の土壙3。	KS187	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
白河街区跡	左・聖護院河原町31、31－1、34－3	10/11・17	地表下1.05m以下、黄褐色粗砂の無遺物層。	KS286	
白河街区跡	左・頓町357	11/22	盛土のみ。	KS330	
白河北殿跡	左・某九太町22	11/28	盛土のみ。	KS337	
白河南殿跡	左・聖護院蓮華蔵町4－33	7/28	盛土のみ。	KS171	
法成寺跡	上・河原町通広小路下る梶井町～河原町通九太町上る出水町地先	7/13・18、9/4・5・28	地表下0.3m以下、室町の包含層、路面。	KS150	
法成寺跡	上・河原町通東側、広小路通南一筋目～九太町他	11/13・15～17・28、12/6	地表下1.03mで江戸の包含層。	KS319	

南・桂地区（MK）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
大藪遺跡	南・久世殿城町551	6/2・5	盛土のみ。	MK95	
大藪遺跡	南・久世大藪町255、261	7/4	地表下0.15mで包含層、土師器、須恵器片。	MK141	
久我東町遺跡	伏・久我東町7－61	7/19・24	地表下1.05m以下、褐色砂泥の無遺物層。	MK160	
中久世遺跡	南・久世中久世町二丁目98－1	5/2	地表下0.45m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。	MK57	
中久世遺跡	南・久世殿城町地内	5/10・18・19・25・26・30	地表下1.1m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	MK53	
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目地内	10/2・4・26	地表下1.48m以下、弥生の流路。	MK264	
中久世遺跡	南・久世中久世町736	10/23	盛土のみ。	MK297	

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
大塚遺跡	山・大塚野溝町86　音羽中学校	6/16	盛土のみ。	RT117	
勧修寺旧境内	山・勧修寺泉玉74	4/7	盛土のみ。	RT 5	
芝町遺跡	山・鳶茶屋屋敷町14－1	5/6、7/10	地表下0.72mで包含層、陶器片。	RT99	
製鉄遺跡	山・四ノ宮鎧ヶ谷	4/17・18・20	地表下1.15m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	RT27	
珍皇寺旧境内	東・小松町11－21	11/6	地表下0.4mで室町の包含層。	RT313	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町13	4/7	盛土のみ。	RT 6	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町13	4/7	盛土のみ。	RT 7	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町236	4/11	地表下0.35m以下、オリーブ褐色粗砂礫の無遺物層。	RT13	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町236	4/18	地表下0.25m以下、黄褐色砂礫の無遺物層。	RT14	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町224	4/17	地表下0.25m以下、黄褐色粘土の無遺物層。	RT26	
中臣遺跡	山・西野山中臣町27－12	4/20	盛土のみ。	RT31	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町236	5/18	巡回時、工事終了。	RT74	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町236	6/1	地表下0.74m以下、砂礫の無遺物層。	RT90	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町236	6/1	地表下0.15m以下、黄褐色シルトの無遺物層。	RT91	
中臣遺跡	山・御辻番所ヶ口町181	6/6	盛土のみ。	RT100	
中臣遺跡	山・西野山中臣町26－64	6/9	検出できず。	RT105	
中臣遺跡	山・勧修寺東栗栖野町他12	6/27～30	地表下0.3mで包含層、土師器片。	RT129	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町8－35	12/19	地表下0.46mで包含層、土師器片。	RT152	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町273	7/13	地表下0.21mで包含層、土器片。	RT153	
中臣遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎	8/2	盛土のみ。	RT183	
中臣遺跡	山・東野荒野町23－26－27	8/8	盛土のみ。	RT193	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町56－16－17	8/21	検出できず。	RT203	
中臣遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎212－3	9/13	地表下0.44mで包含層、土師器片。	RT247	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町56－23	10/3	盛土のみ。	RT266	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町7	10/3	盛土のみ。	RT267	
中臣遺跡	山・西野山中臣町44－31	10/24・25	検出できず。	RT299	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町13	11/1	盛土のみ。	RT307	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町13	11/1	盛土のみ。	RT308	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町13	11/1	盛土のみ。	RT309	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町13	11/1	盛土のみ。	RT310	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町～勧修寺東栗栖野町地先	11/21	検出できず。	RT326	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
中臣遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎212-1	11/30	盛土のみ。	RT343	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町地先	12/12	撹乱のみ。	RT365	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町地先	12/13	地表下0.57m以下、黄褐色粘土の無遺物層。	RT367	
中臣遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎212-4	12/13	盛土のみ。	RT368	
中臣遺跡	山・西野山中臣町72-83	12/18	盛土のみ。	RT375	
中臣遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎212-1	12/27	盛土のみ。	RT377	
中臣遺跡	山・西野山中臣町72-41	12/19	盛土のみ。	RT379	
法観寺旧境内	東・八坂通、東大路通～八坂の塔前	10/26～12/7	地表下0.3m以下、オリーブ黄色粘土の無遺物層。	RT301	
法住寺殿跡	東・今熊野日吉町50	7/24	盛土のみ。	RT166	
法住寺殿跡	東・下堀詰町264	12/5	検出できず。	RT352	
海日寺町遺跡	東・今熊野剣ノ宮町他地内	8/21・28・31、9/1・5、10/3	地表下0.45m以下、オリーブ黄色撹乱の無遺物層。	RT206	
元屋敷廃寺	山・大塚元屋敷町62-24	8/2	盛土のみ。	RT184	
元屋敷廃寺	山・大塚元屋敷町62-6	11/1	地表下0.3m以下、黄褐色砂礫の無遺物層。	RT302	
六波羅政庁跡	東・宮川筋六丁目～三盛町	4/11、7/10	撹乱のみ。	RT12	
六波羅政庁跡	東・本町二丁目91	7/31	地表下0.95mで室町の包含層。	RT178	
六波羅政庁跡	東・妙法院前側町421-1、422-4	9/1・5	地表下0.6m以下、灰オリーブ色撹乱の無遺物層。	RT231	
六波羅政庁跡	東・本町三丁目98、100	9/14	撹乱のみ。	RT249	

鳥羽地区（TB）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
唐橋遺跡	南・唐橋金ノ前町15-9	6/8・15	地表下1.15mで包含層、瓦。	TB104	
唐橋遺跡	南・吉祥院九条町30-1・2	11/27・29	地表下0.95mで炭混入層。	TB336	
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町29、130	4/14	検出できず。	TB19	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町144-9	4/26	盛土のみ。	TB46	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町144-10	4/26	盛土のみ。	TB47	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町144-11	4/26	盛土のみ。	TB48	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町73-2の一部	4/26	巡回時、工事終了。	TB53	
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町4-34	5/19	盛土のみ。	TB76	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町159-39	6/5	盛土のみ。	TB93	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町159-39	6/5	盛土のみ。	TB94	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町159-39	6/5	盛土のみ。	TB96	
鳥羽離宮跡	伏・竹田真幡木町61-4・5（竹田小屋ノ内町）	6/7・8	検出できず。	TB103	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町69（竹田小屋ノ内町）	6/14	地表下0.35mで包含層、瓦。	TB107	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町145-3	7/18	掘削工事なし。	TB158	
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町地先	8/21・23	地表下1.39m以下、整地層、包含層、土師器片、地状堆積。	TB204	
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町56-2	8/21	盛土のみ。	TB205	
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町10-3（中島中道町）	8/23	盛土のみ。	TB214	
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町地先	8/24・28	地表下0.74m以下、湿地堆積。	TB215	
鳥羽離宮跡	伏・竹田田中殿町44	8/25	検出できず。	TB218	
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町1-21	9/4	巡回時、工事終了。	TB232	
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町24-5	9/4	盛土のみ。	TB233	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町地先	9/11	地表下0.64m以下、包含層3、土師器片。1.2m以下、湿地堆積。	TB240	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町145-1・5、289-1、竹田浄菩提院町46-1	9/21	巡回時、工事終了。	TB258	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町145-7	9/21	巡回時、工事終了。	TB259	
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町地先	10/9・11	撹乱のみ。	TB278	
鳥羽離宮跡	南・上鳥羽火打形町地先	11/30	撹乱のみ。	TB338	
鳥羽離宮跡	伏・竹田真幡木町58-5	12/12・13・15	地表下0.64m以下、礫含の包含層。	TB364	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町82-4	12/15	検出できず。	TB373	

伏見・醍醐地区（FD）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
進捗寺跡	伏・深草瓦町20	9/5	地表下0.23mで包含層、瓦、陶体片。	FD234	
日野谷寺町遺跡	伏・日野谷寺町地先	4/20・21・24・26、9/14・20	地表下0.8m以下、暗灰黄色粗砂礫の無遺物層。	FD37	
日野谷寺町遺跡	伏・日野谷寺町地内	6/27、7/11・17	地表下0.97m以下、褐色泥土の無遺物層。	FD132	
深草寺跡	伏・深草俗坊町55－2	9/18・20	地表下0.3mで江戸の包含層。	FD253	
伏見城跡	伏・山崎町360、367、369	5/17	検出できず。	FD68	
伏見城跡	伏・桃山福島太夫西町7	7/26	地表下0.65m以下、褐色粘土の無遺物層。	FD175	
伏見城跡	伏・桃山築長吉中町34、35	8/1、9/4・5	地表下0.3m以下、時期不明の落込み、遠跡の可能性あり。	FD181	
伏見城跡	伏・新町二丁目509	8/22	地表下0.7mで包含層、瓦。	FD212	
伏見城跡	伏・紙子屋町～新町十一丁目地先	8/25・28・29、9/1	地表下1.2mで室町の包含層。	FD217	
伏見城跡	伏・桃山町伊賀60－1	10/5	巡回時、工事終了。	FD280	
伏見城跡	伏・東大手町754	10/13・16～20	地表下0.6mで古墳前期の包含層、土師器壺、壺。	FD288	
伏見城跡	伏・桃山町三河－桃山町松平武蔵地先	11/14・16・17	地表下0.67m以下、明黄褐色砂礫の無遺物層。	FD320	
伏見城跡	伏・桃山町三河47－1	11/15～17	地表下0.42m以下、整地層、桃山の土壌、桃山－江戸の包含層。1.48mで桃山の整地層をきって礎石2個。東西2m間隔。	FD322	
伏見城跡	伏・深草垣染町1－4	12/1	検出できず。	FD345	
伏見城跡	伏・新町十三丁目294－1・8	12/20	検出できず。	FD380	
伏見城跡	伏・京町四丁目166－1	12/20・22	盛土のみ。	FD381	

長岡京地区（NG）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
長岡京跡	伏・羽束師古川町234、235、730	4/13	地表下1.95m以下、湿地堆積。	NG18	
長岡京跡	伏・羽束師愛川町351	4/26、7/6・24	盛土のみ。	NG52	
長岡京跡	西・大原野上里鳥見町地先	5/17	撹乱のみ。	NG72	
長岡京跡	伏・羽束師愛川町地先	5/17・19・25	検出できず。	NG73	
長岡京跡	西・大原野上里勝山町地先	6/14・19・21	撹乱のみ。	NG108	
長岡京跡	伏・羽束師愛川町104	7/10・12	地表下0.9m以下、青灰色砂混の無遺物層。	NG149	
長岡京跡	伏・羽束師古川町389－3	8/28・30	地表下1.1mで平安の包含層。	NG221	
長岡京跡	西・大原野上里男鹿町13－8	9/4・5	盛土のみ。	NG235	
長岡京跡	伏・羽束師愛川町4－2	9/6	地表下0.9m以下、褐灰色砂混の無遺物層。	NG238	
長岡京跡	伏・久我石原町9－21	10/11・17	検出できず。	NG284	
長岡京跡	伏・久我南ノ宮町6－26他	10/19	地表下0.7mで包含層、土師器片。	NG295	
長岡京跡	伏・羽束師志水町127－1	11/28、12/27	検出できず。	NG340	
東土川遺跡・長岡京跡	南・久世東土川町	4/24	撹乱のみ。	NG44	
東土川遺跡・長岡京跡	南・久世大藪町、久世東土川町	7/10・13・14・28、8/28	検出できず。	NG148	

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきたちあいちょうさがいほう
書名	京都市内遺跡立会調査概報　平成７年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	本　弥八郎、近藤章子、端　美和子、宮下則子
編集機関	㈶京都市埋蔵文化財研究所
所在地	〒602　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL075-415-0521
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL075-222-3108
発行年月日	西暦1996年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安宮跡豊楽院	京都府京都市中京区聚楽廻中町	26100		35度０分53秒	135度44分38秒	1995．2．27～3．11		個人住宅
平安宮跡豊楽院	京都府京都市中京区聚楽廻中町	26100		35度０分52秒	135度44分39秒	1995．8．9～9．2		個人住宅
平安宮跡内裏	京都府京都市上京区下立売通東入下る中務町	26100		35度０分58秒	135度44分48秒	1994．12．13～1995．1．5		倉庫
平安京跡左京三条四坊十三町	京都府京都市中京区麩屋町通三条上る下白山町	26100		35度０分21秒	135度46分６秒	1995．9．12・13		マンション

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安宮跡豊楽院	都城	平安	基壇	砥石	
平安宮跡豊楽院	都城	平安・江戸	溝・土壙	瓦類・鴟尾	
平安宮跡内裏	都城	平安前期～中期	土壙・包含層	土器類・瓦類	
平安京跡左京三条四坊十三町	都城	平安後期・江戸	土壙・路面・溝	土器類	

ふりがな	きょうとしないいせきたちあいちょうさがいほう
書名	京都市内遺跡立会調査概報　平成７年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	本　弥八郎、近藤章子、増　美和子、宮下則子
編集機関	㈶京都市埋蔵文化財研究所
所在地	〒602　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL075-415-0521
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL075-222-3108
発行年月日	西暦1996年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
常盤東ノ町古墳群 仁和寺院家跡	京都府京都市右京区 常盤ノ井町	26100		35度０分55秒	135度42分51秒	1995．９．26～ 10．７		展示場
小倉町別当町遺跡	京都府京都市左京区 下別当町	26100		35度１分39秒	135度47分41秒	1995．３．14～ ３．20		マンション
最勝寺跡 岡崎遺跡	京都府京都市左京区 岡崎最勝寺町	26100		35度０分42秒	135度47分９秒	1994．12．12～ 1995．４．10		公園整備
最勝寺跡 岡崎遺跡	京都府京都市左京区 岡崎最勝寺町～岡崎 成勝寺町	26100		35度０分42秒	135度47分０秒	1995．５．９～ ８．９		地中管路

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
常盤東ノ町古墳群 仁和寺院家跡	寺院・集落	古墳・平安	土壙・溝・落込み	土器類・瓦類・鉄製品	
小倉町別当町遺跡	集落	縄文～平安	土壙・柱穴・住居址	土器類・石器	
最勝寺跡 岡崎遺跡	寺院・集落	平安後期・鎌倉	土壙・溝・落込み	土器類・瓦類	
尊勝寺跡 最勝寺跡 岡崎遺跡	寺院・集落	古墳・平安	溝・包含層	土器類・瓦類・鉄製品	

ふりがな	きょうとしないいせきたちあいちょうさがいほう
書名	京都市内遺跡立会調査概報　平成７年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	本　弥八郎、近藤章子、端　美和子、宮下則子
編集機関	㈶京都市埋蔵文化財研究所
所在地	〒602　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL075-415-0521
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL075-222-3108
発行年月日	西暦1996年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京跡 左京四条四坊十四町	京都府京都市中京区 寺町通蛸薬師下る西 御円福寺前町	26100		35度０分10秒	135度46分10秒	1995. 10. 4～10. 6		マンション
烏丸綾小路遺跡 平安京跡 左京六条二坊十二町	京都府京都市下京区 醒ケ井通六条上る佐 女牛井町	26100		34度59分31秒	135度45分21秒	1995. 8. 11～8. 23		店舗
得長寿院跡 岡崎遺跡	京都府京都市左京区 岡崎徳成町	26100		35度０分41秒	135度46分52秒	1995. 10. 4		マンション
得長寿院跡 岡崎遺跡	京都府京都市左京区 岡崎徳成町	26100		35度０分40秒	135度46分53秒	1995. 10. 13～10. 19		個人住宅

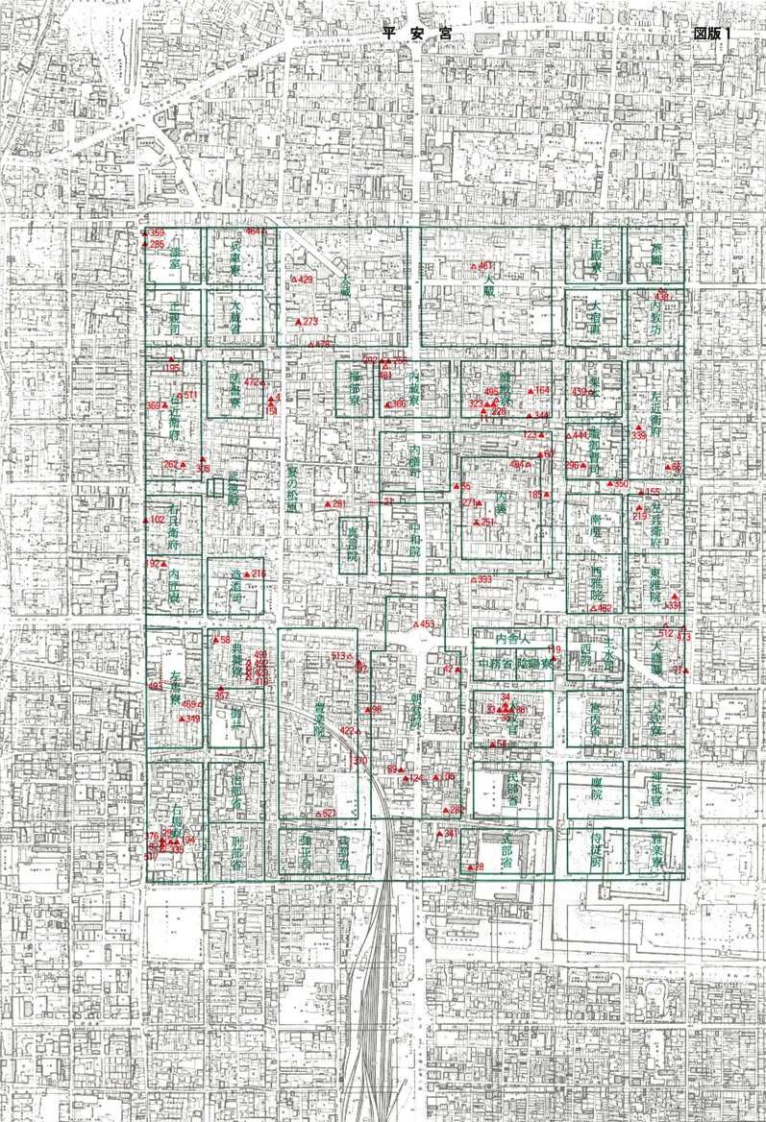
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡 左京四条四坊十四町	都城	平安前期・室町	土壙・包含層	土器類	
烏丸綾小路遺跡 平安京跡 左京六条二坊十二町	都城	弥生～鎌倉	土壙・落込み	土器類	
得長寿院跡 岡崎遺跡	寺院・集落	平安末期	土壙	土器類・瓦類	
得長寿院跡 岡崎遺跡	寺院・集落	平安	落込み	土器類・瓦類	

図　　版

凡 例

△--------1994年度立会調査地点　▲———1995年度立会調査地点

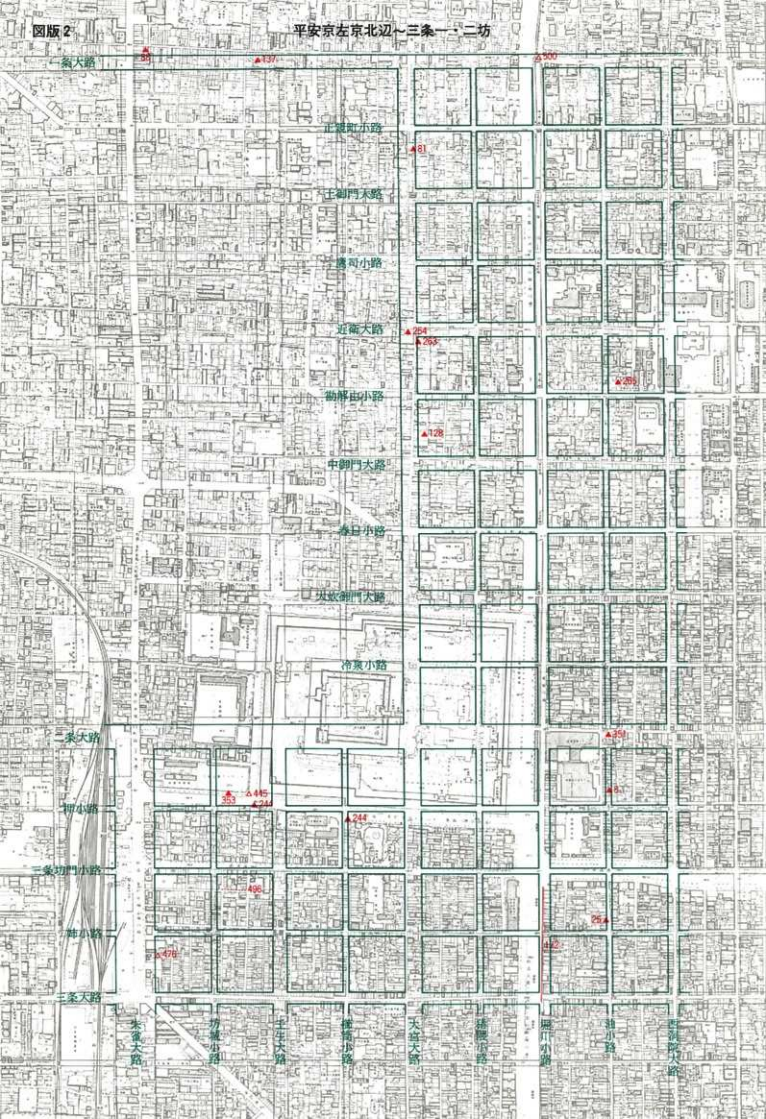
平安宮　　図版1



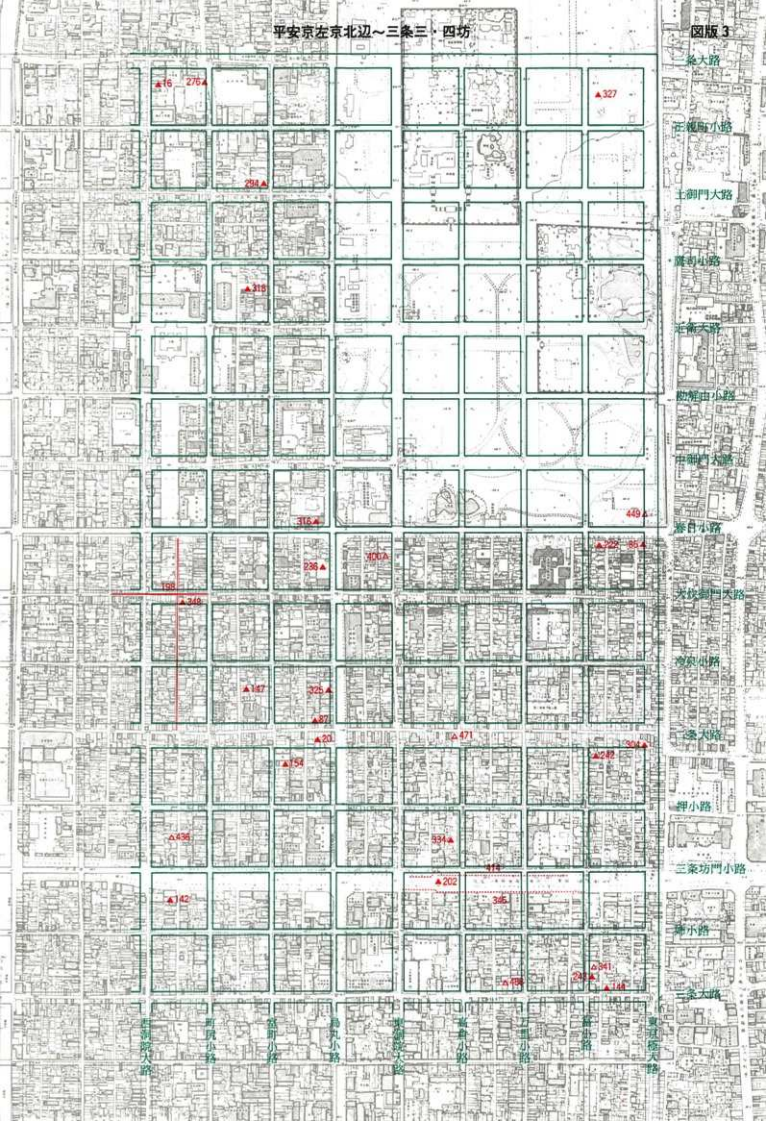
漆室
兵庫寮
大蔵
大蔵
主殿寮
茶園
正親司
大蔵省
大宿直
内教坊
掃部寮
内蔵寮
縫殿寮
梨本
左近衛府
右近衛府
内膳司
職御曹司
内裏
宴の松原
武器殿
右兵衛府
内匠寮
中和院
南廂
左兵衛府
内豊院
西雅院
東雅院
造酒司
内舎人
中務省
陰陽寮
西院
主水司
大膳職
典薬寮
左馬寮
御井
豊楽院
朝堂院
宮内省
大炊寮
治部省
民部省
廩院
神祇官
右馬寮
刑部省
式部省
侍従所
雅楽寮

図版 2

平安京左京北辺～三条一・二坊

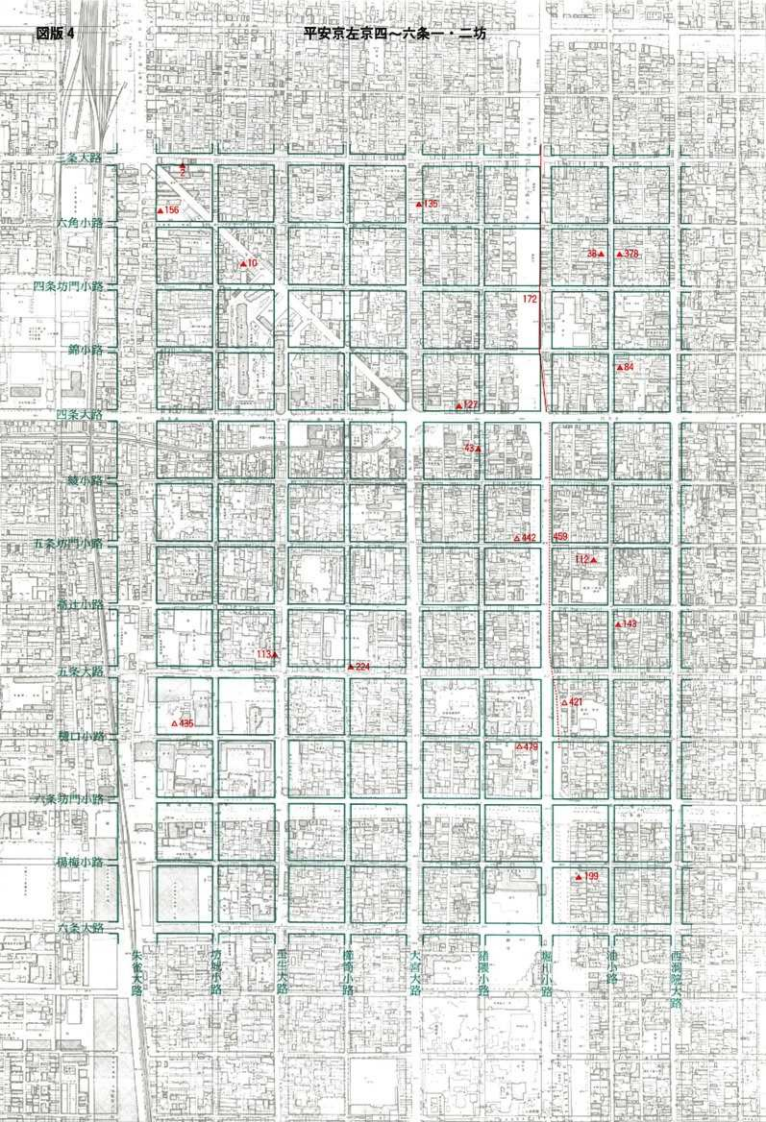


平安京左京北辺～三条三・四坊



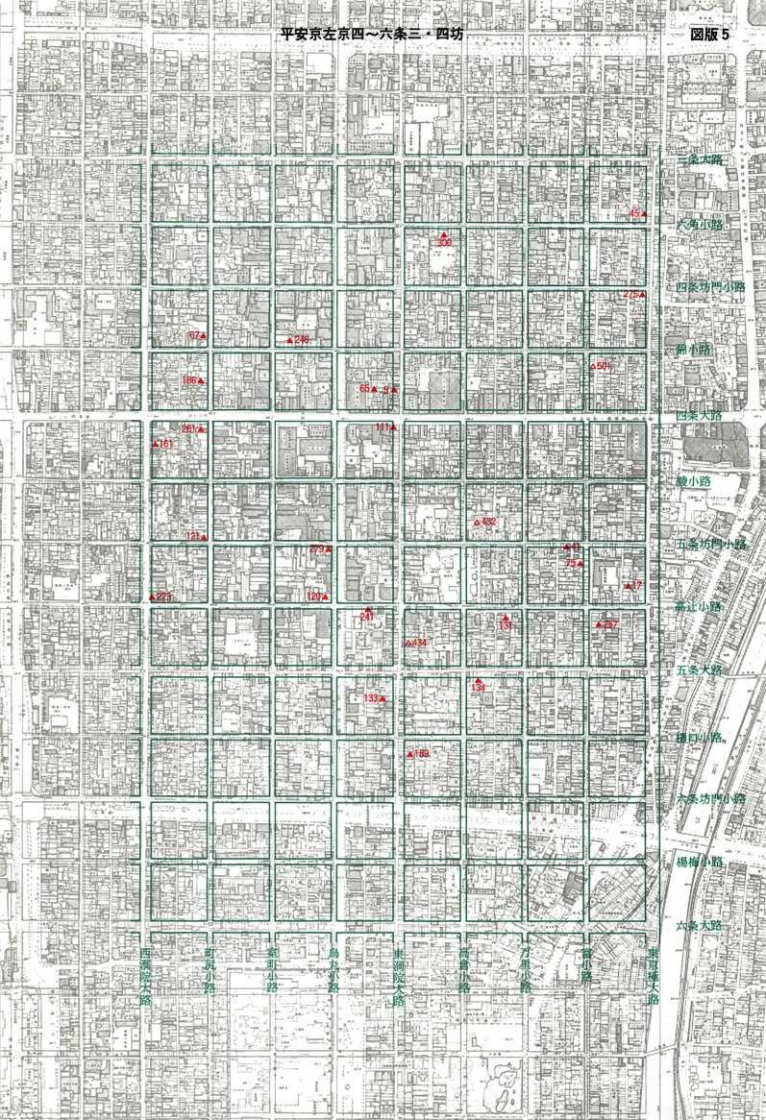
図版 4

平安京左京四～六条一・二坊



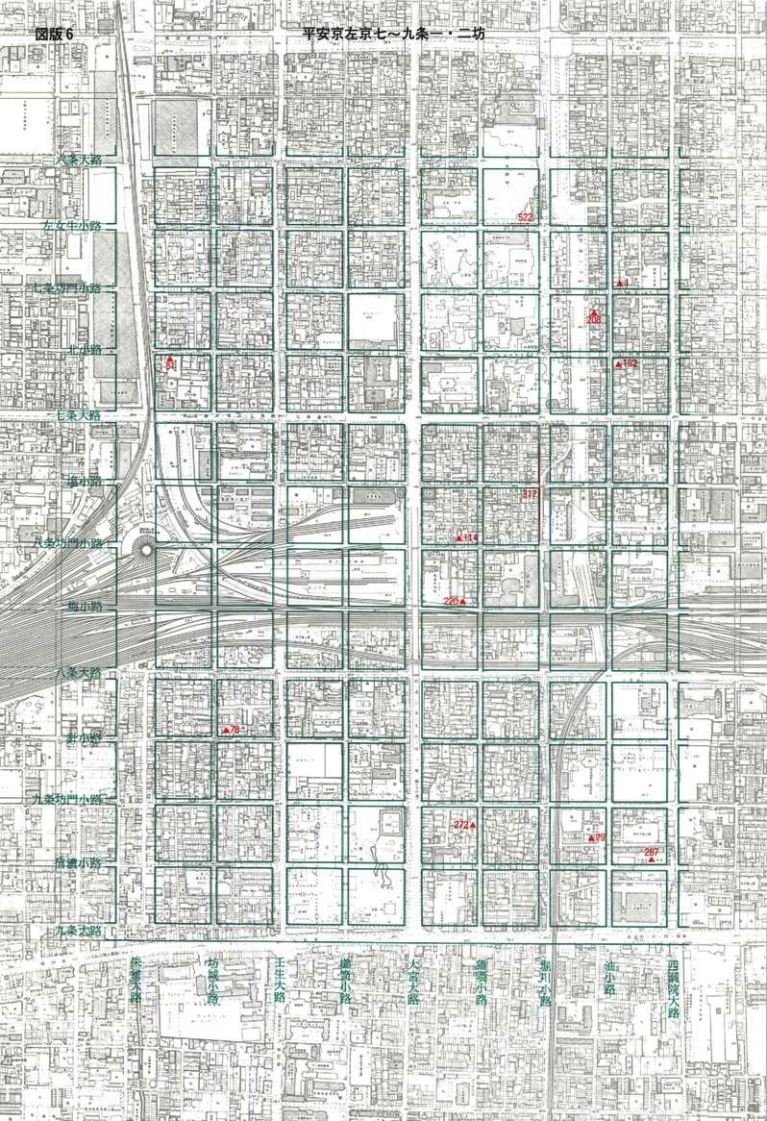
平安京左京四～六条三・四坊

図版 5

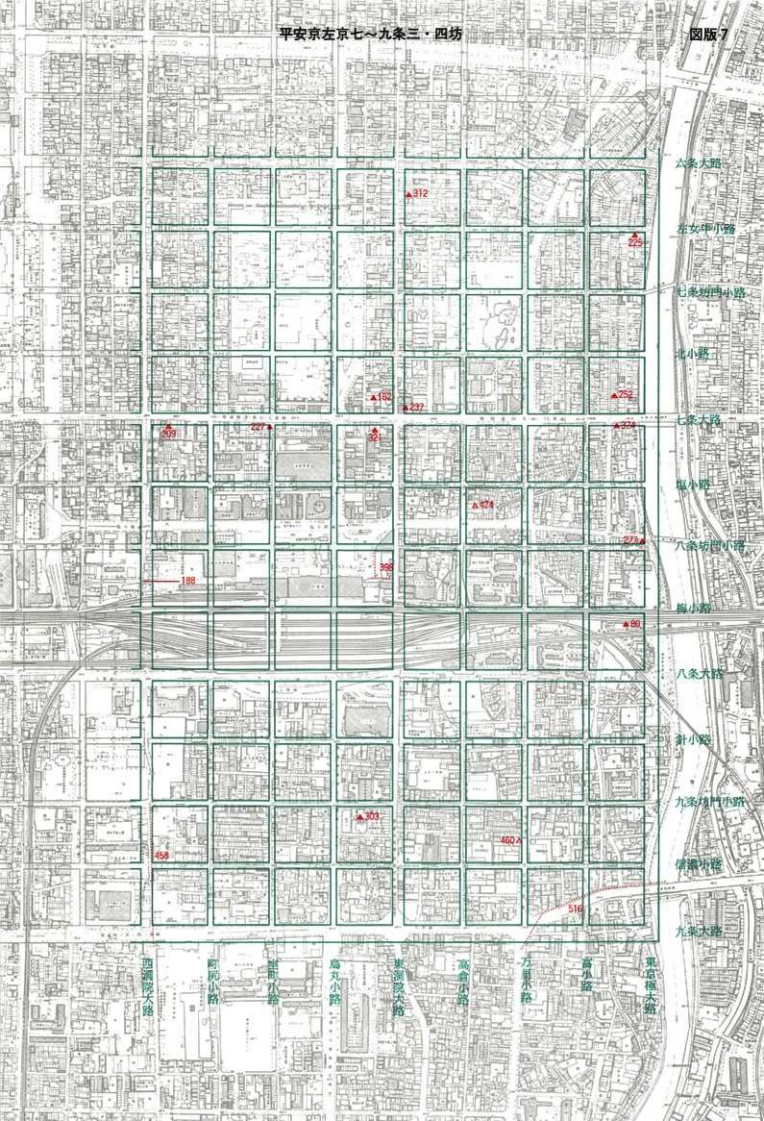


図版6

平安京左京七～九条一・二坊

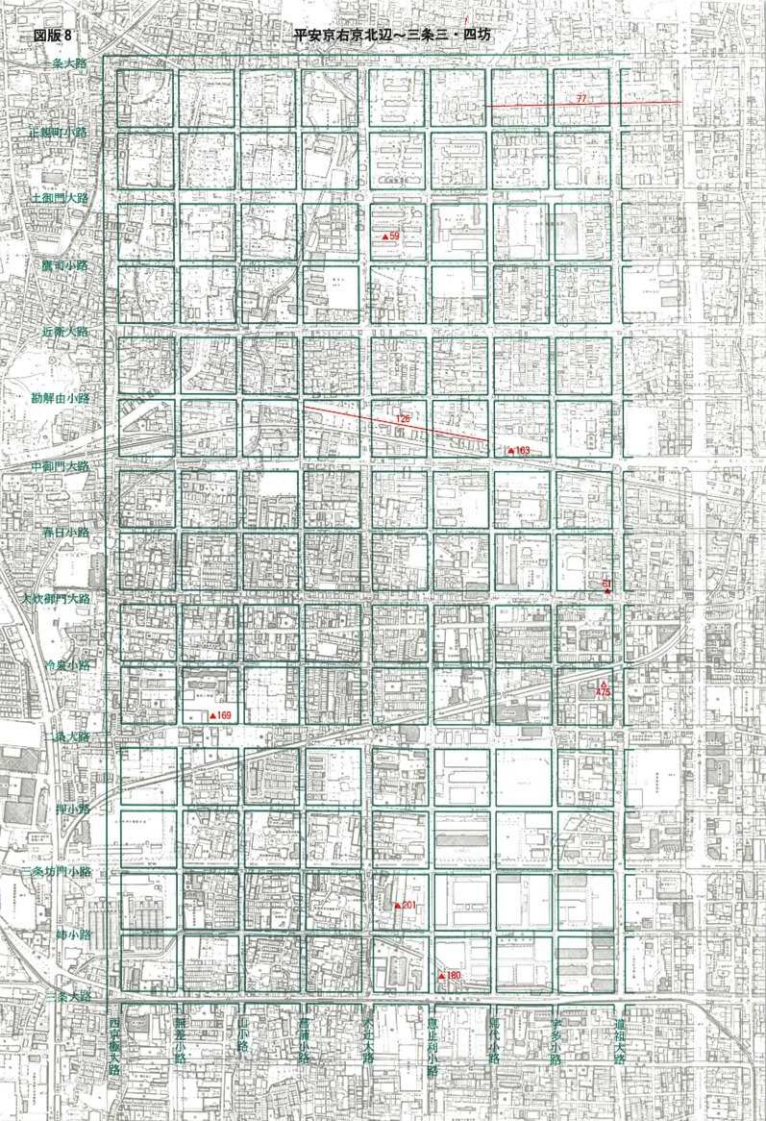


平安京左京七～九条三・四坊



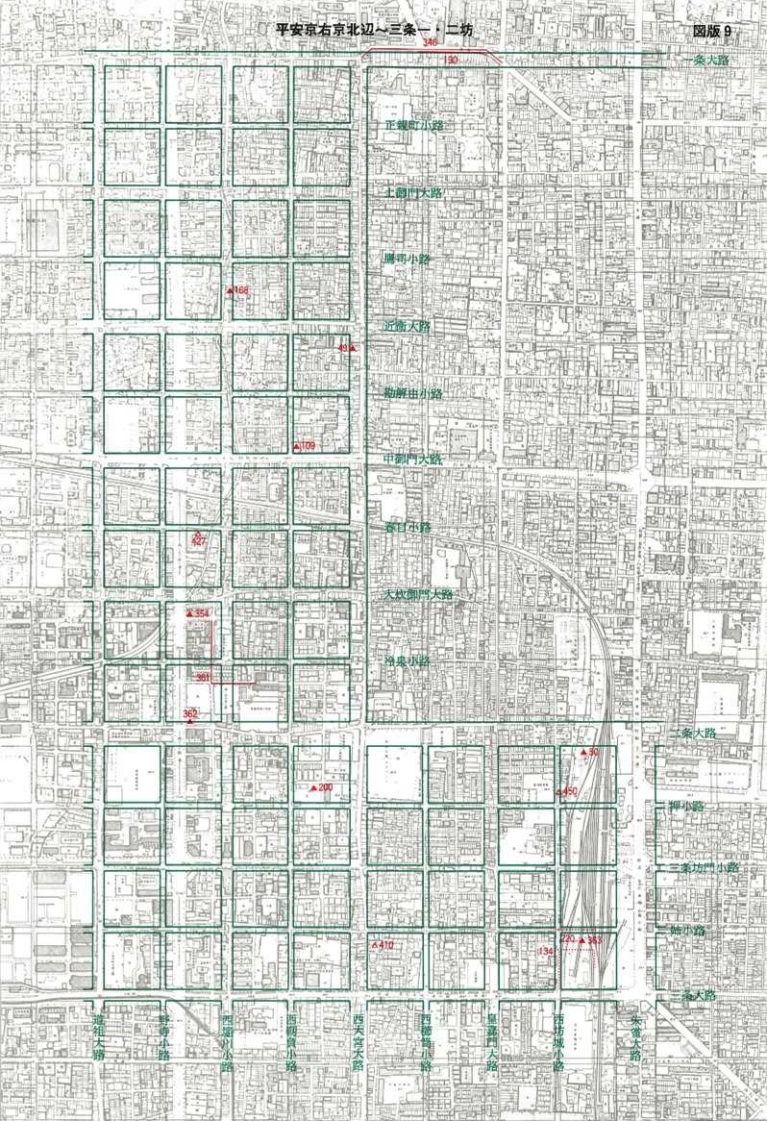
図版 8

平安京右京北辺～三条三・四坊



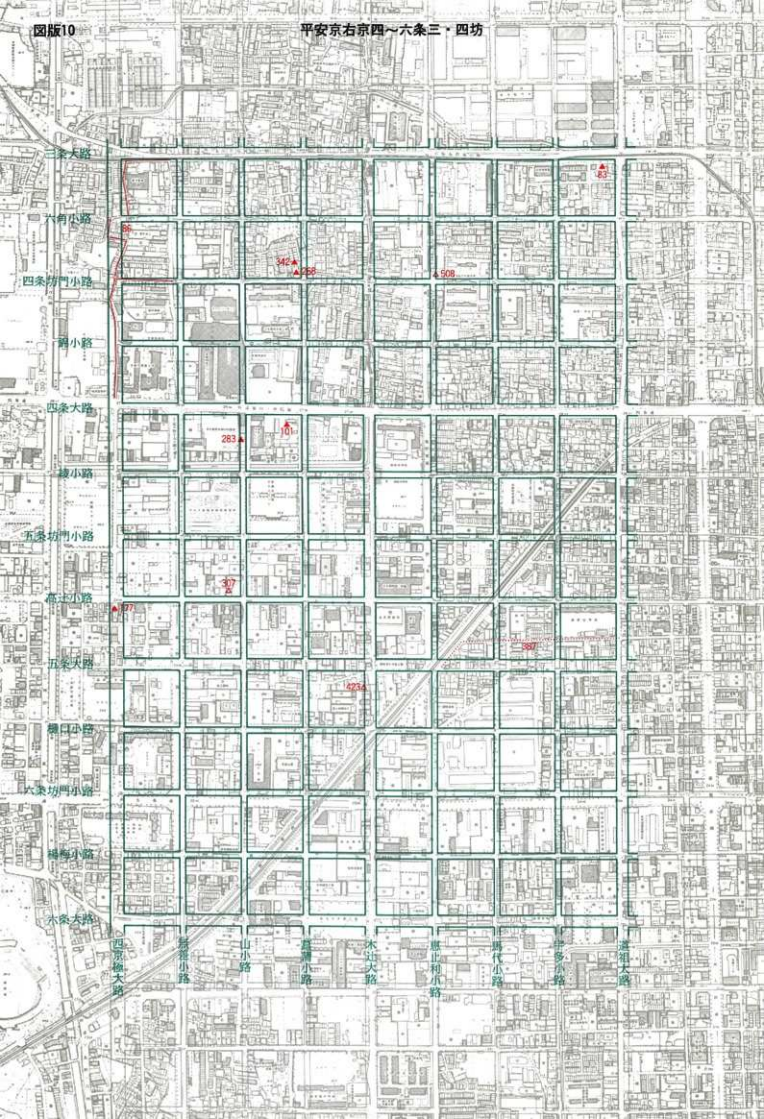
平安京右京北辺～三条一・二坊

図版 9



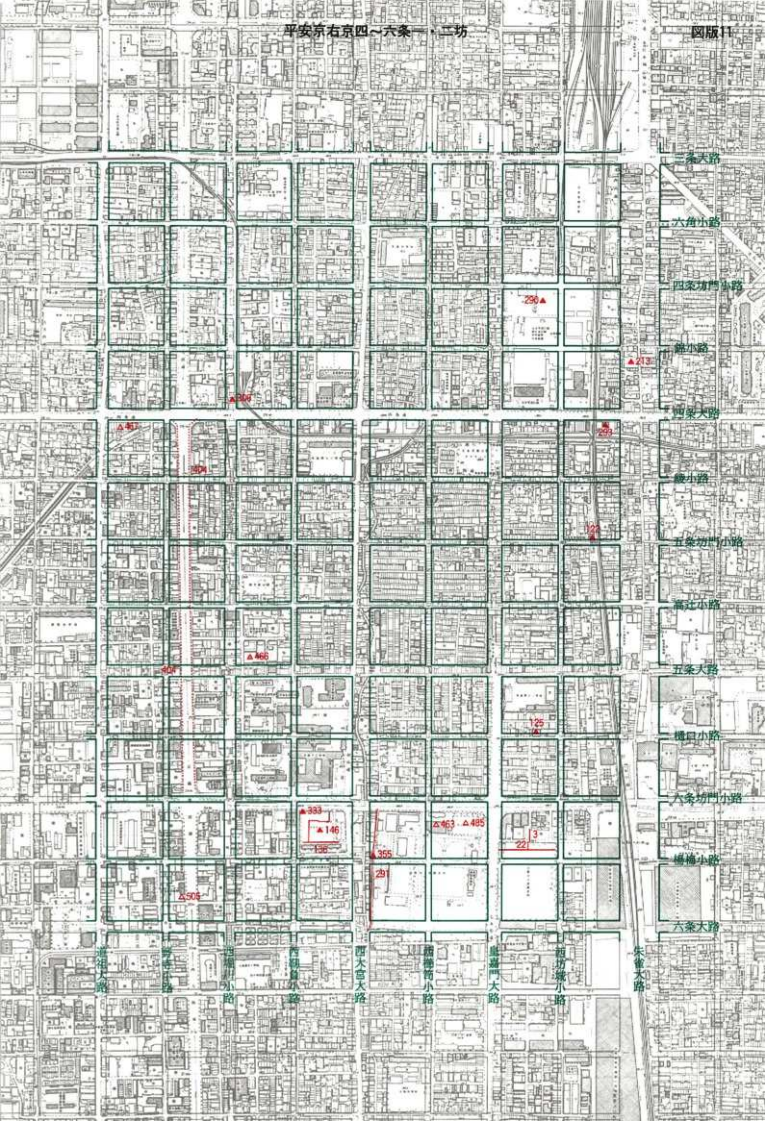
図版10

平安京右京四～六条三・四坊



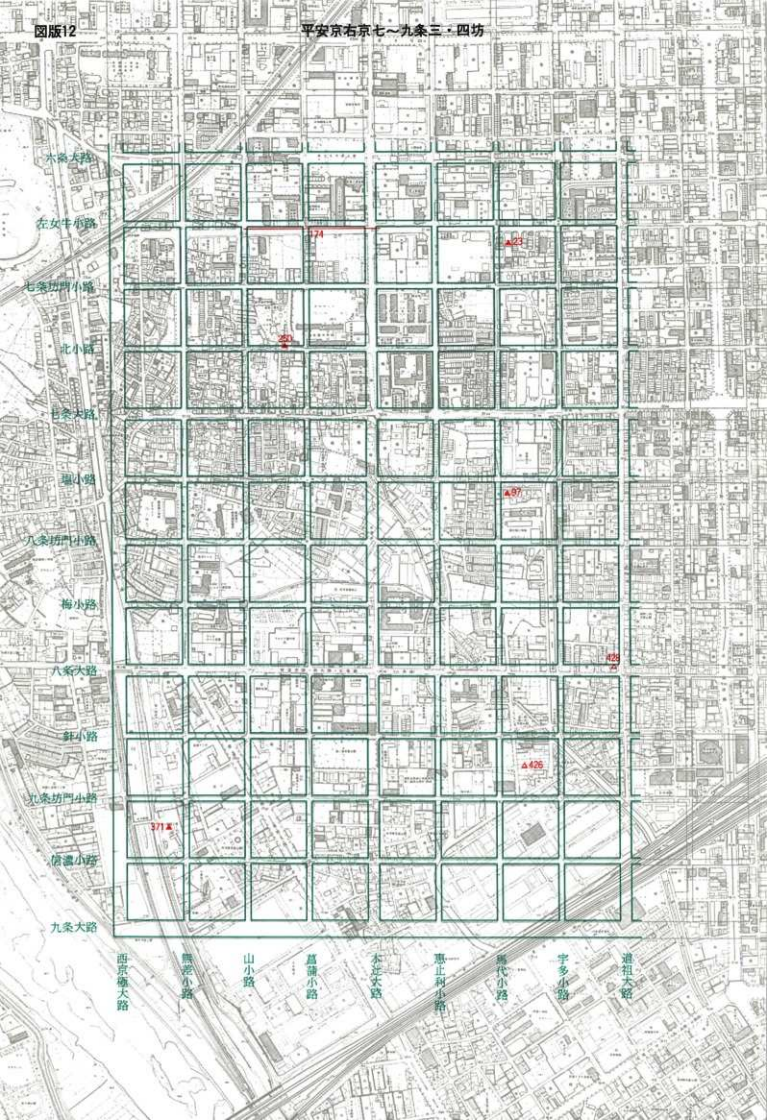
平安京右京四～六条一・二坊

図版11



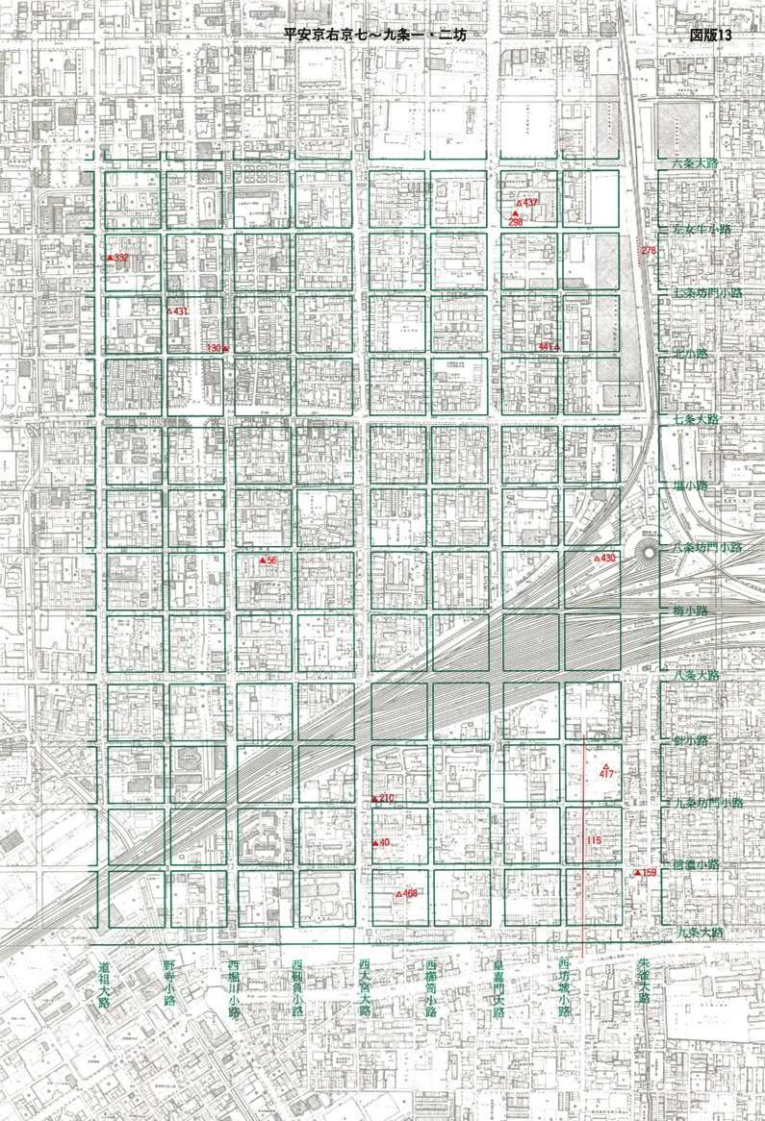
図版12

平安京右京七～九条三・四坊



平安京右京七～九条一・二坊

図版13

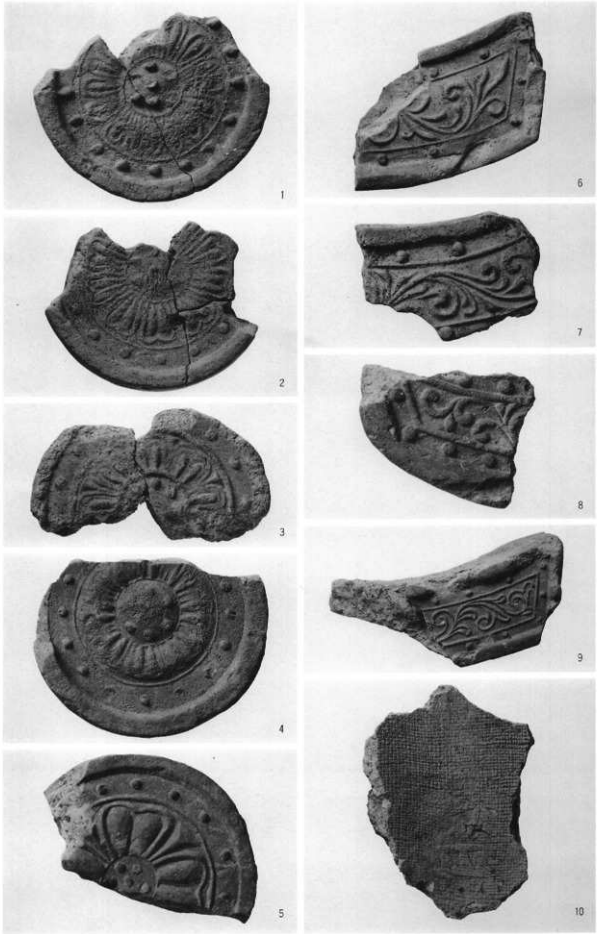


調査地全景（南から）

遺構検出状況（南から）

遺構検出状況（北東から）

延石検出状況（東から）

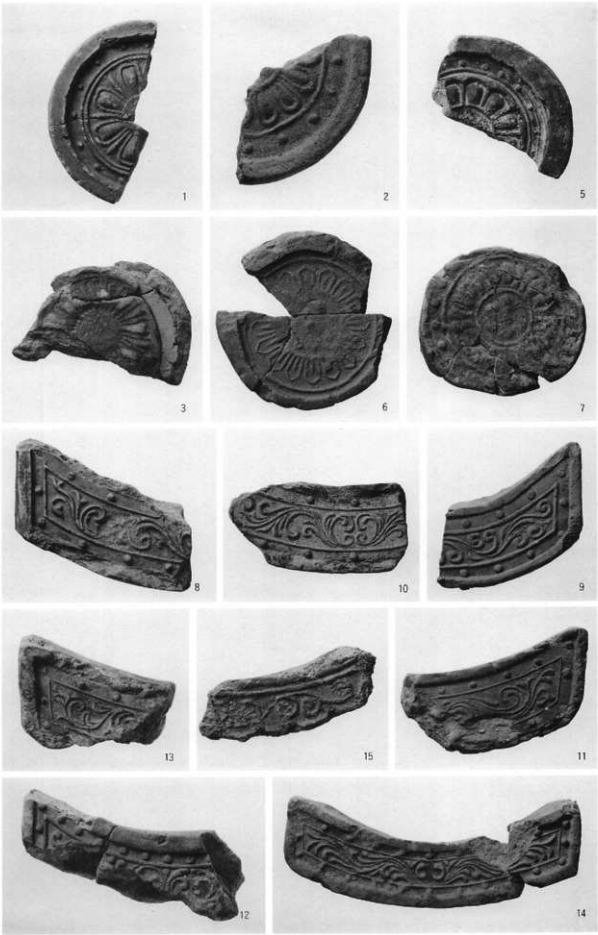


軒丸瓦（1～5），軒平瓦（6～9），文字瓦（10）

調査地全景（東から）

凝灰岩破片出土状況（東から）

溝ＳＤ12検出状況（南から）



軒丸瓦（1～3・5～7），軒平瓦（8～15）

調査地全景（北東から）

土壙ＳＫ12遺物出土状況（北から）

平安京左京三条四坊十三町（95ＨＬ243）出土遺物

土壙ＳＫ12

平安京左京三条四坊十三町（95ＨＬ43）出土遺物

7

8

9

10

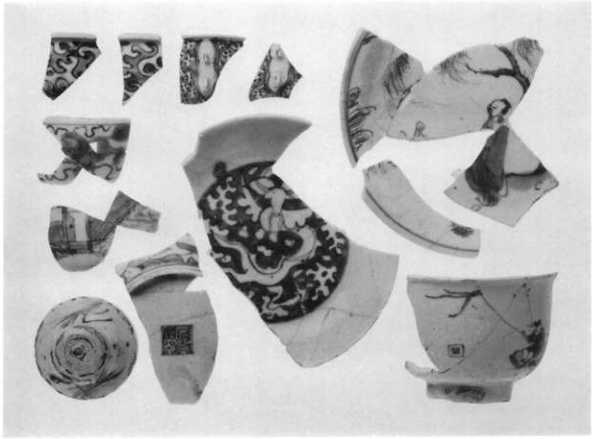
11

12

土壙ＳＫ12

平安京左京三条四坊十三町（95ＨＬ243）出土遺物

土壙ＳＫ12



遺物包含層10

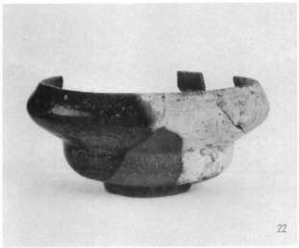
平安左京三条四坊十三町（95HL243）出土遺物

土壙ＳＫ13

平安京左京三条四坊十三町（95ＨＬ243）出土遺物

20

21


22

23

24

25

土壙ＳＫ13

26

27

28

29

30

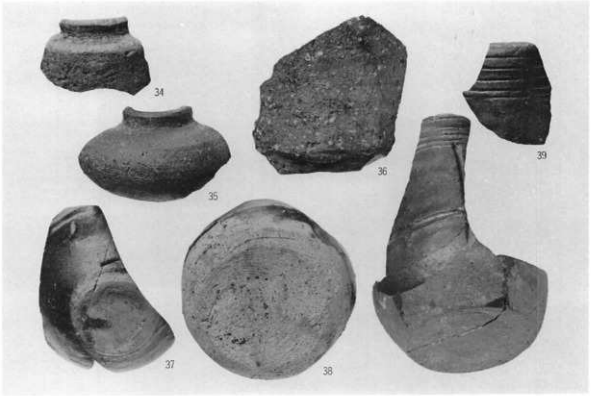
31

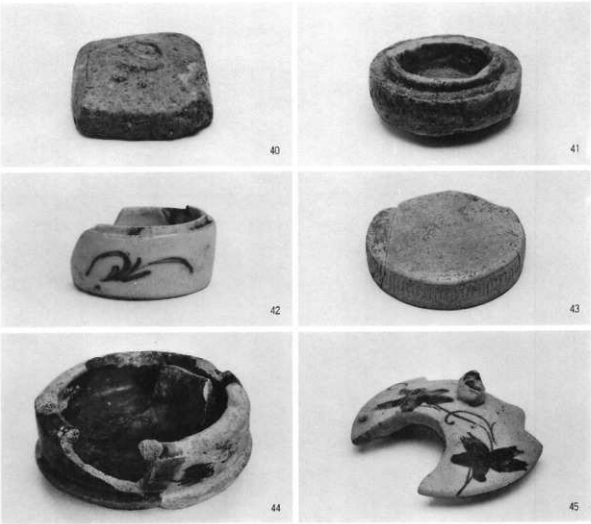
32

33

土壙ＳＫ13（30），土壙ＳＫ14（26～29・31），第３層（32），その他（33）

平安京左京三条四坊十三町（95HL243）出土遺物





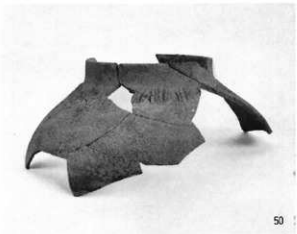
土壙ＳＫ12（38・44・45），土壙ＳＫ13（39），土壙ＳＫ14（36），
遺物包含層10（37・42・43），第３・第６層（34・35・41），その他（40）

46

47

48

49


50

51

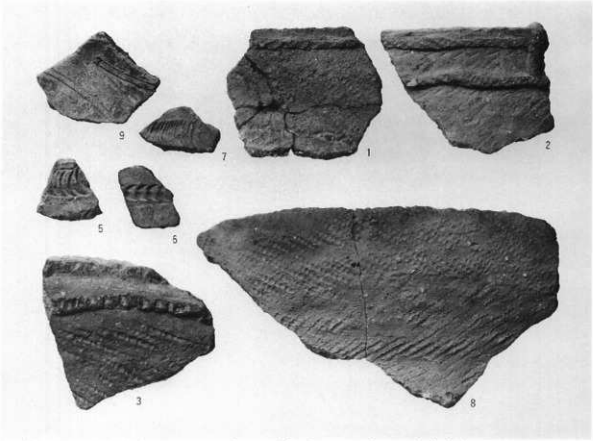
52

土壙ＳＫ13（52），土壙ＳＫ14（50），土壙ＳＫ18（46・49・51），遺物包含層10（48），第３層（47）

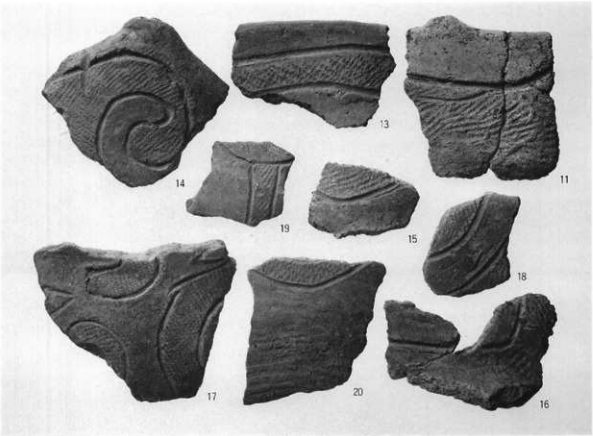
No.2 地点断面（北から）

No.2 地点遺物出土状況（北から）

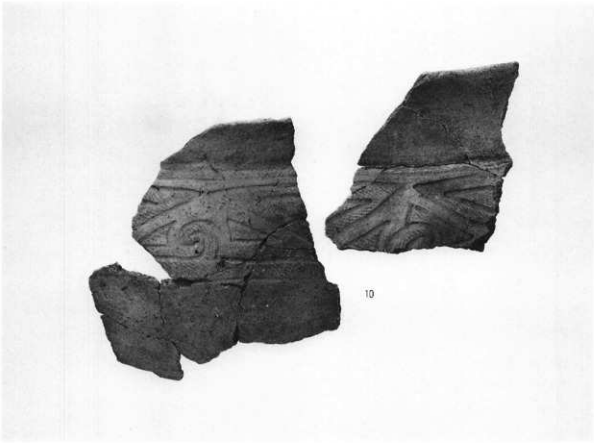
No.5 地点遺物出土状況（北から）



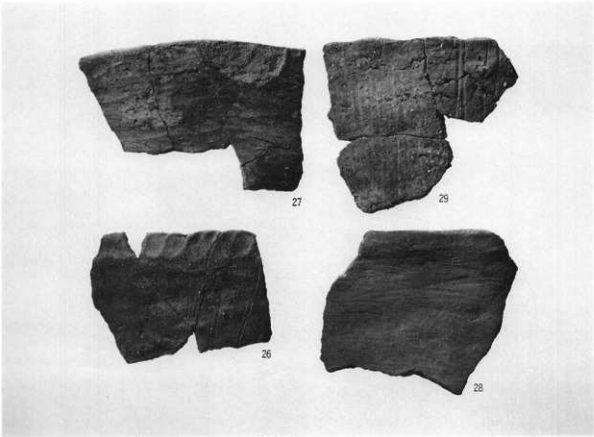
縄文土器　No.2地点（2・3・8・9），No.3地点（1・5・7），No.5地点（6）



縄文土器　No.2地点（11・13～18・20），No.3地点（19）



縄文土器　No.5地点（10）



縄文土器　No.2地点（26・29），No.2・3地点（27），No.5地点（28）

23

24

21

33

34

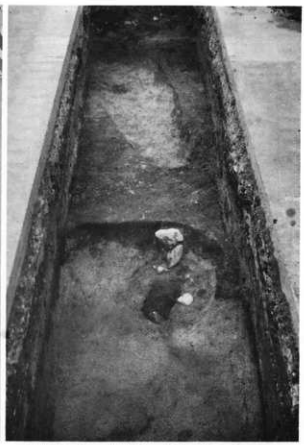
35

縄文土器　No.2地点（21），No.5地点（23・24）
石器　No.2地点　スクレイパー（33）・石鏃（34），その他地点　石鏃（35）

No.3 地点　土壙（東から）

No.8 地点　溝（北東から）

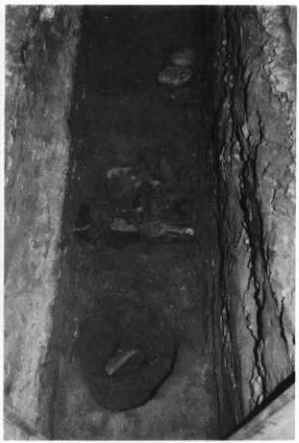
神宮道No.64～66間建物A（北から）



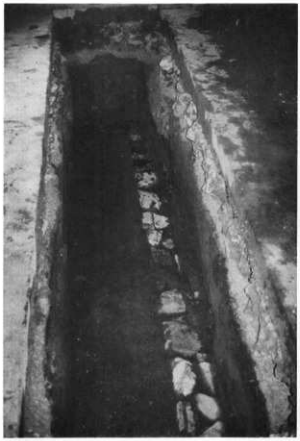
神宮道No.67～72間柱穴・土壙（南から）

神宮道No.64～66間建物A地業（北東から）

冷泉通No.33～37間建物D地業（西から）

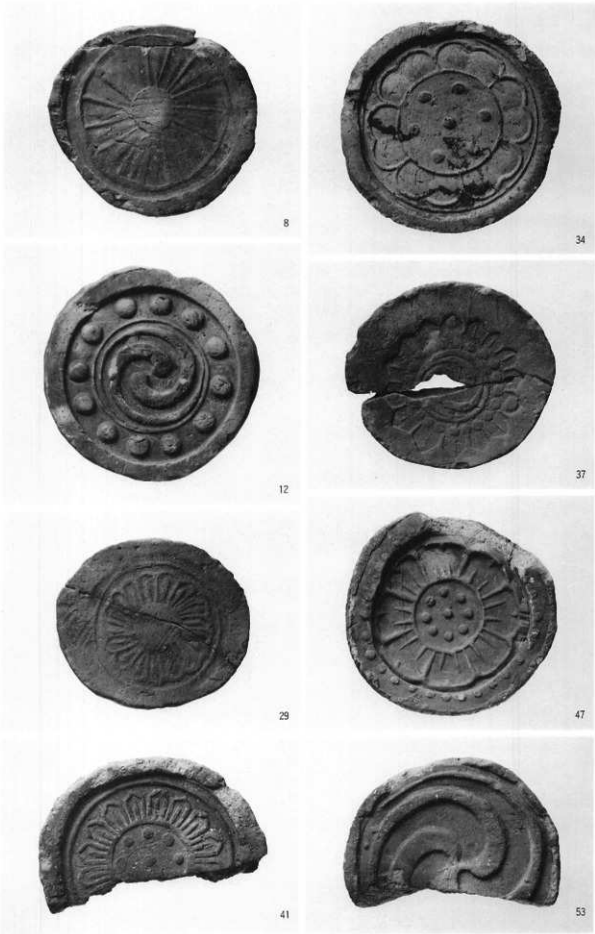


冷泉通No.18石組・柱穴（西から）

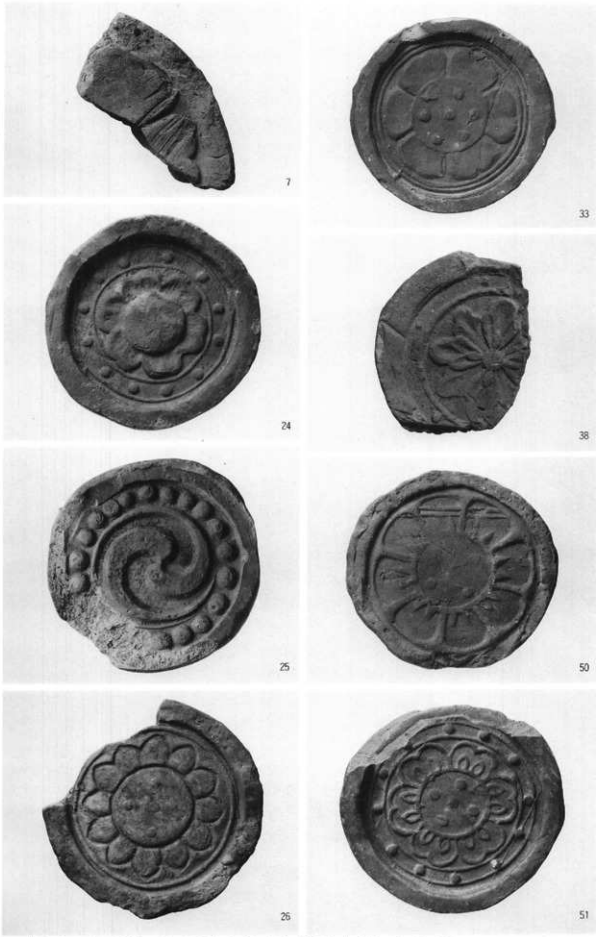


冷泉通No.29～33間建物C東側雨落溝（南から）

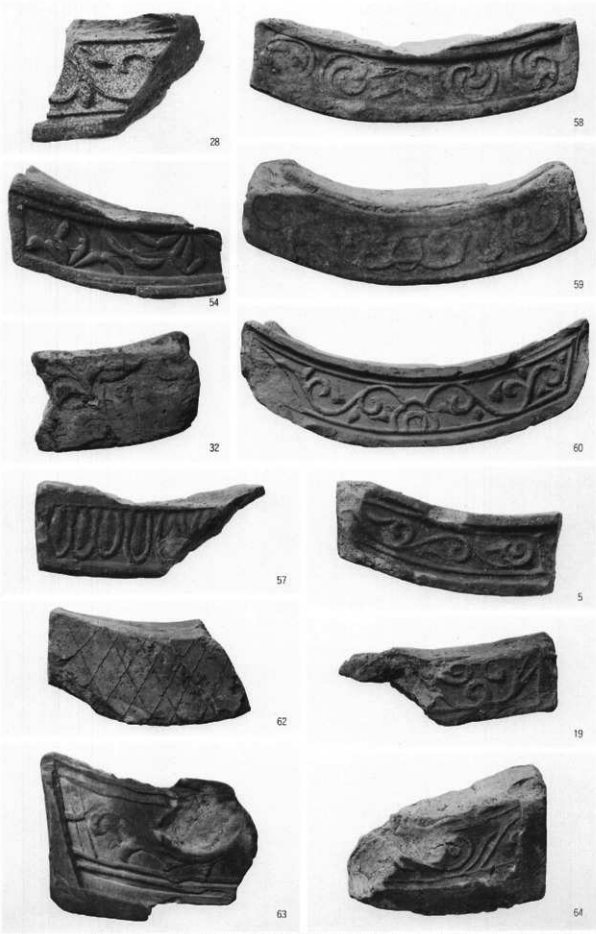
冷泉通No.29～33間建物C北側雨落溝（東から）



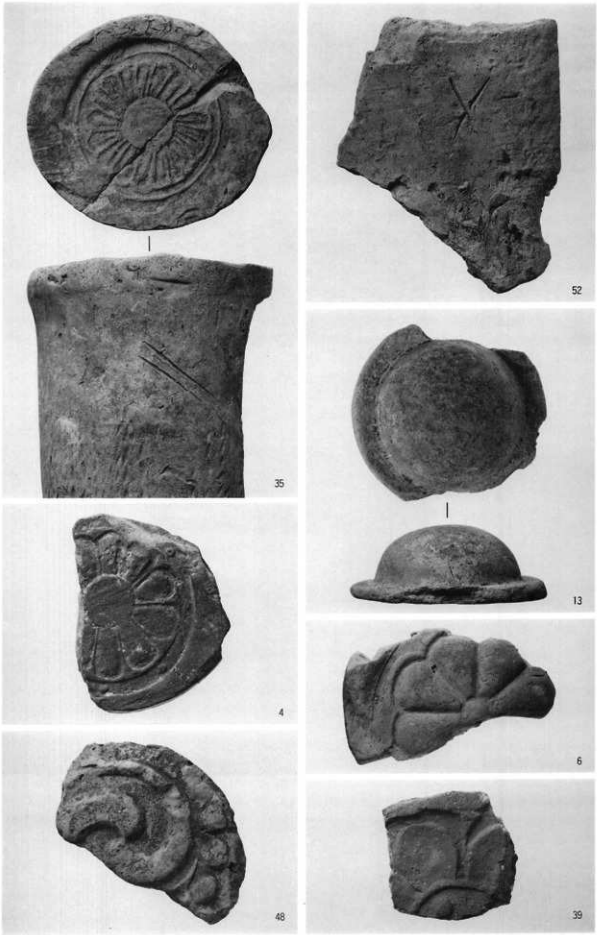
軒丸瓦　No.72地点（8・12），No.77・82・83地点（29），No.79地点（34・37・41・47・53）



軒丸瓦　No61～62地点（7），No75地点（24～26），No79地点（33・38・50・51）



軒平瓦　No50地点（5），No72地点（19），No77地点（28），No79地点（54･57～60･62～64），No83地点（32）



軒丸瓦　No.36地点（4），No.53地点（6），No.77地点（48），No.79地点（35・39）
丸瓦　No.79地点（52），土塔　No.72地点（13）

京都市内遺跡立会調査概報

平成７年度

発行日　平成８年３月31日
発　行　京都市文化市民局
住　所　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
編　集　㈲京都市埋蔵文化財研究所
住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
ＴＥＬ（075）415-0521
印　刷　真　陽　社